令和４年度
ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

玉　川　大　学

大学 FD 委員会

大学院 FD 委員会

は　じ　め　に

—FD の組織的推進をめざして—

玉川大学は、ファカルティ・ディベロップメント（FD）をミクロ、ミドル、マクロの三層の立場から推進しています。ミクロ・レベルの FD の目的は、教員個々の授業と教授法の開発にあります。通常、多くの大学で FD の名のもとに行われるのがこうした活動です。本学でも、大学 FD 委員会および大学院 FD 委員会が中心になって行う FD 活動はミクロ・レベルが中心です。一方、ミドル・レベルは教務主任等によるカリキュラム・プログラムの開発が目的です。教務委員会や大学院教務委員会における全学カリキュラムの見直しや各学部・研究科の教務担当者会における専門分野のカリキュラム改善のための作業がこれに該当します。さらに、マクロ・レベルは、管理者による大学組織の教育環境および教育制度の開発が目的です。こちらもミドル・レベルと同様に、そのための具体的な FD 研修会等が開催されるわけではありません。現行の大学部長会や大学院研究科長会の一環として定期的に行われる教育研究活動等点検調査委員会などの作業が FD 活動に相当します。

ミドル・レベルとマクロ・レベルの FD 活動は、その性格上、全学的な視点と学部・研究科的な視点が要求されますが、ミクロ・レベルの FD は、長いあいだ各教員の努力義務のように理解されてきました。したがって、ワークショップや講演会の参加についても教員の自主性に委ねられ、学部・研究科や全学が一体となって授業や教授法の開発に取り組んできたとは言い難い状況にありました。令和 4 年度は新型コロナウイルス禍で得た知識や手法を活用し、FD 実施のために大学 FD 委員会、大学院 FD 委員会が組織的かつ体系的に関わって推進してきました。今回はそういった事例も報告いたします。今後も引き続き、個々の教員がファカルティの一員として有機的に FD にかかわれる体制を堅持していきたいと考えています。

大学 FD 委員会・大学院 FD 委員会委員長
教 学 部 長　伊 従　記 章

「求める教員像」

玉川学園の建学の精神を体し、その使命を自覚し互いに人格を尊重し、常に能力の開発・向上を目指し一致協力して本学の発展に寄与できる教員であること

1．玉川大学学則第 1 条に定めるとおり、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授すること

2．学校法人玉川学園コンプライアンス方針に従い、教育・研究活動を推進すること

目　　次

Ⅰ　大学 FD 活動状況と今後の計画

１．大学 FD 委員会・大学院 FD 委員会
（１）　委員会の目的 1
（２）　委員構成 1
（３）　今年度の活動計画 2
（４）　活動状況 3
（５）　活動の成果 4
（６）　今後に向けて 6
２．学部の活動 7
３．教師教育リサーチセンターの活動 50
４．ELF センターの活動 53
５．授業アンケート 64

Ⅱ　大学院 FD 活動報告

各研究科の活動 114

Ⅲ　教員研修

新任教員研修会
（１）　研修プログラム内容 131
（２）　配付資料・参考資料 132
（３）　実施の成果 133

参考資料

１．大学 FD 委員会の議事内容 136
２．大学院 FD 委員会の議事内容 138
３．「授業アンケート」様式 139
４．玉川大学 FD 委員会規程 141
５．玉川大学大学院 FD 委員会規程 143

※本文中の記載内容について
・役職名称は、令和 4 年度当時の記載とした。

Ⅰ　大学 FD 活動状況と今後の計画

１．大学 FD 委員会・大学院 FD 委員会

（１）委員会の目的

本委員会は、本学教員の教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的としている。また、FD 活動を行う目的を、以下のとおり明確にしている。

① 玉川大学の教育理念を実現するため。
② 21 世紀の玉川教育を支える教員を育成するため。
③ 大学大衆化時代に対応するため。
④ 競争優位性（受験生の大学選択等）を確保するため。

（２）委員構成

＜大学 FD 委員会＞

委員等	所属・職名	氏名
委員長	教学部長	伊従　記章
委員	文学部	長谷川洋二
委員	農学部	肥塚　信也
委員	工学部	三木　秀夫
委員	経営学部	長谷川英伸
委員	教育学部	高平小百合
委員	芸術学部	橋本　順一
委員	リベラルアーツ学部	山口　修二
委員	観光学部	星　幸男
委員	ＥＬＦセンター	キム，ミソ
事務担当	教学部教務課長	光森　多佳子
事務担当	教学部授業運営課長	中山　靖浩

＜大学院 FD 委員会＞

委員等	所属・職名	氏名
委員長	教学部長	伊従　記章
委員	文学研究科人間学専攻	林　大悟
委員	文学研究科英語教育専攻	工藤洋路
委員	農学研究科資源生物学専攻	南　佳典
委員	工学研究科システム科学専攻	加藤研太郎
委員	工学研究科機械工学専攻	小酒井正和
委員	工学研究科電子情報工学専攻	佐藤　雅俊
委員	マネジメント研究科マネジメント専攻	木内　正光

委　　員	教育学研究科教育学専攻	原田　眞理
委　　員	教育学研究科教職専攻	伊藤　美紀
委　　員	脳科学研究科脳科学専攻 /心の科学専攻	酒井　　裕
事務担当	教学部教務課長	光森　多佳子
事務担当	教学部授業運営課長	中山　靖浩

（３）今年度の活動計画

レベル	研修名	目的	内容	開催時期
全学	大学教育力研修 (SD・FD)	授業の内容及び方法の改善を図り教員個々の教育研究活動等のより一層の充実を目指す(FD)とともに、本学の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させる(SD)ことを目指す	■基調講演(SD 研修) ■分科会(FD 研修) ・授業手法に関するワークショップ ・現況の教育的課題に関するワークショップ ・各学部事例報告　等	2 月 17 日
	授業手法(アクティブ・ラーニング)に関するワークショップ	アクティブ・ラーニングの実施促進と強化ならびにコロナ禍における対面授業等に対応した授業手法の修得	・アクティブ・ラーニングを前提とした授業計画 ・授業時間外の学修を充実させる授業計画 ・授業改善につながるリフレクションの方法 ・教学 IR と授業改善の接続　等	年 2 回
	ルーブリック指標による成績評価に関するワークショップ	アクティブ・ラーニングを活用した授業で修得した能力を評価する体制を構築するため、ルーブリック指標による成績評価手法を修得する	・ルーブリック指標による成績評価に関するワークショップ ＊新任教員対象	年 1 回 (隔年) ※開催なし
	授業参観	授業評価の高い授業内容(手法)の共有と授業改善	授業アンケート結果の高い教員の授業の公開 (公開対象:教職員)	各学期
職位別	新任教員研修	玉川学園の建学の精神、玉川大学の教育理念・教育方針を理解し、専任教員としての業務に必要な情報を修得する	・玉川大学の教育理念 ・大学教員の勤務 ・ICT 教育の活用 ・教学システム ・教学事項 ・学生支援　等	3 月中旬

	非常勤教員対象研修	本学の授業を担当するにあたり、これからの高等教育改革を理解し、本学の教育が目指すものを確認する	・本学が取り組む教育改革について ・授業手法について	8 月～9 月
学部	学部 FD 研修	教員個々の授業と教授法の開発	講演会、研修会、ワークショップ　等	随時
その他	FDer 養成研修	実質的 FD 活動の推進のため各学部 1 名配置することを目的に養成講座を開催	FD 活動の振り返り　等	―

（４）活動状況

＜令和 4 年度＞

4 月 13 日～ 5 月 13 日	令和 4 年度 大学 FD 研修会「所有権と学校生活」開催（動画視聴） （講師）桑島 英美 本学園顧問弁護士
5 月 11 日	第 1 回　大学 FD 委員会　開催
5 月 18 日	第 1 回　大学院 FD 委員会　開催
7 月 12 日	第 2 回　大学院 FD 委員会　開催
7 月 14 日	第 2 回　大学 FD 委員会　開催
8 月 22 日	令和 4 年度　非常勤教員対象研修会
9 月 12 日	第 3 回　大学 FD 委員会　開催
11 月 4 日	第 4 回　大学 FD 委員会　開催
12 月 8 日	第 3 回　大学院 FD 委員会　開催
1 月 16 日	第 5 回　大学 FD 委員会　開催
2 月 17 日	令和 4 年度　大学教育力研修　開催（オンライン） 基調講演「『今』を直視し『やんちゃ』とデータが拓く不確実な未来～前例なき時代への挑戦～」 （講師）国立情報学研究所　所長　喜連川 優　氏 分科会 ①「単位の実質化を目指して～授業外学習促進について考えるWS」 （講師）芝浦工業大学教育イノベーション推進センターFD・SD推進部門長　教授　榊原暢久　氏 ②「玉川学園創立者小原國芳の授業観を手がかりに担当科目の授業を点検する」 （講師）文学部国語教育学科　教授　長谷川洋二 ③「English Medium Instruction (EMI) using ELF at Tamagawa University ／ 玉川大学における ELF を用いた

	English Medium Instruction（EMI）の取り組み」 （講師）ELF センター長・教授　マクブライド，ポール ④　「授業の事例報告およびグループセッション（グループ１）」 （講師）文学部英語教育学科　准教授　森本俊 教育学部教育学科　准教授　濵田英毅 芸術学部音楽学科　講師　中田知宏 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科　准教授 立野貴之 ⑤　「授業の事例報告およびグループセッション（グループ２）」 （講師）農学部生産農学科 教授　浅田真一 准教授　奥崎文子 工学部情報通信工学科 准教授　早川博章 経営学部国際経営学科 准教授　矢野尚幸 観光学部観光学科 准教授　渡邉勝仁
3 月 13 日	令和 5 年度　新任教員研修会　開催
3 月 22 日	第 6 回　大学 FD 委員会　開催
3 月 23 日	第 4 回　大学院 FD 委員会　開催

その他、学生による授業アンケートを教学システム（UNITAMA）のアンケート機能を利用し、Web にて計画通り実施した。一部の集中科目を除いた全科目を対象として、春学期と秋学期の期中および期末に合計 4 回と、特別学期（サマーセッション、ウィンターセッション）において行った。アンケートの結果については、各教員が UNITAMA にて確認できるほか、「個人レポート」として集計結果を対象教員に配付している。また、大学 FD 委員会にてユニバーシティ・スタンダード（以下 US）科目・学科専門科目の学部比較を資料にまとめて報告し、各学部での授業改善の取組に活用できるようにした。なお、各学部及び US 科目のアンケート結果は本学のホームページにて公開している。

さらに、授業方法を共有し、自らの授業の改善につなげることを目的として、授業参観と、それに代わる研修を実施した。参加者数等の詳細は（５）活動の成果に記述する。

（５）活動の成果

今年度の活動計画に基づき、教員と職員が同じスタンスに立って、教職協働のもと活発な FD 活動を行うことができた。

4 月から 5 月にかけて本学園顧問弁護士の桑島 英美氏を講師として「所有権と学校生活」の研修（動画視聴）を、全教員を対象として実施した。受講者からは、「所有者の合意なく放置物の処分ができないこと、適切な対処方法を理解でき有益だった」、「事前合意というのはなかなか難しいことだが、知っているか知らないかで、そういう事態に直面した時の行動が大きく変わると思った。その点でとても有意義だった」、「一般的によく起こりそうな事なので、改めて法的に確認する事が出来て良かった。日常の物品についての管理がとても重要である事を確認する事ができた」、「知らない内容、あいまいな知識が多くあったので大変勉強になった」との感想が寄せられた。

8 月 22 日に実施した非常勤教員対象研修会は、当初対面での実施を予定していたが、新型

コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの実施に変更した。伊従記章教学部長による「本学が取り組む教育改革について」の講演及び、文学部 長谷川洋二教授による「玉川学園創立者 小原國芳の授業観を手がかりに担当科目の授業を点検する」をテーマとした、教員自らが自身の授業を振り返り改善案を考えるワークショップを行った。33 名の非常勤教員が参加し、参加者からは「非常勤講師は特に、自身の担当する科目という『点』でしか大学を捉えられない面があるため、大学の全体像を把握する上で、今回の研修は有益だった」、「学生の自習時間の推移や図書館の利用数、玉川大学特有の単位制度等、玉川大学の情報をわかりやすく説明していただけた」、「グループワークにて、他学部の先生方とお話しでき、良い刺激を受けた」、「小原國芳の教育理念には、現代の教育にも通じるところが多くあり、非常に勉強になった」といった感想が寄せられた。

2 月 17 日開催の大学教育力研修では、国立情報学研究所所長の喜連川優氏をお招きし、基調講演として「『今』を直視し『やんちゃ』とデータが拓く不確実な未来～前例なき時代への挑戦～」についてご講演いただいた。基調講演には 324 名が参加し、参加者からは「ICT の現状や今後の方向性など、国内外の事例やデータを示しながらお話いただき、分かりやすく参考になった」、「ゼロから考えることや、目の前の課題に取り組むこと、失敗を恐れない精神は教育でも大切なことだと感じた」、「教育を語るときに、エピソードではなく、エビデンスに基づく必要があるというのは共感できた」、「教育事案の改善のために、教育データをエビデンスとして残す責務があることを改めて感じ、身の引き締まる思いだった」といった感想が寄せられた。なお、基調講演について「とても充実していた」が 38%、「充実していた」が 53%であり、9 割以上が肯定回答であった。午後は、5 つの分科会を開催し、授業外学習促進や全人教育を指標とした授業内容の点検、英語による教授法等の情報を提供することができた。今後の授業実践等において活用されることが期待される。なお、昨年度は学内の教職員のみを対象としていたが、令和 4 年度は学外にも公開し、2 大学 16 名の参加があった。

授業参観については、例年、全学部および ELF センターにおいて、授業参観の対象となる科目を複数選出し、全教職員が自由に参観できる形式をとっていたが、参加者が少ない状況にあった。そのため、本年度は、各学部および ELF センターごとに、「教員相互の『授業方法の共有』と『授業改善につながる取組み』」を目的として授業参観または授業参観に代わる研修を実施した。授業参観を実施したのは文学部・工学部・観光学部・ELF センターであり、参加者は 29 名であった。授業参観に代わる研修を実施したのは、農学部・経営学部・教育学部・芸術学部・リベラルアーツ学部・ELF センターである。研修の内容は多岐にわたり、オンライン授業の支援制度の共有や、授業実践報告書の製作と共有、授業改善に関するアンケート調査と結果の共有などが行われた。授業参観については、参加者が少ない学部もあり、今後、実施方法等の改善や、他の手段での実施が課題となる。授業参観に代わる研修を行った学部では、参加者が一定数集まり、実施後の満足度も高く成果が上がっていたことがうかがえた。

3 月に実施した令和 5 年度採用者向けの新任教員研修会の内容及び成果については、Ⅲ章の「教員研修」にて詳細を後述する。

（６）今後に向けて

過去数年において、コロナ禍の影響により、多くの研修が変更や縮小を余儀なくされていたが、令和 5 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行するに伴い、コロナ禍以前のような実施が可能になる。しかしながら、単にコロナ禍以前の形態に戻るだけではなく、コロナ禍において得たオンラインツール等も活用し、今後は、研修の目的に沿った柔軟な実施方法をとっていきたい。

特に、非常勤教員対象研修においては、任意参加のため、参加率が 5～12%程度にとどまっているが、令和 5 年度はオンデマンド形式を採用し、より多くの先生方に研修を受けていただけるよう工夫したい。

最後に FDer については、各学部に配置することで各学部の FD 活動が一層活発になることも期待できる一方、大学として、FDer にどのような役割を担ってもらい、今後 FD をどのように進めていくのかを明確にする必要がある。FDer のガイドラインなどを示しながら、大学 FD 委員の役割と、これまでの各学部の FD 担当、新たな FDer の役割について、引き続き大学 FD 委員会を中心に検討していく。

２．学部の活動

令和４年度における各学部 FD 活動状況一覧

<table>
<tr><th rowspan="2">学部</th><th rowspan="2">各学部
FD 委員会
の構成人数</th><th rowspan="2">各学部
FD 委員会
の開催回数</th><th rowspan="2">学部研修会</th><th colspan="2">学生による授業アンケート※の実施</th></tr>
<tr><th>実施時期</th><th>公表</th></tr>
<tr><td>文 学 部</td><td>6 名</td><td>0 回</td><td>学内実施</td><td rowspan="8">春学期
（期中・期末）
秋学期
（期中・期末）
特別学期
（通信教育課程は
スクーリングの都度）</td><td rowspan="8">学内外
（本学 HP）</td></tr>
<tr><td>農 学 部</td><td>9 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>工 学 部</td><td>6 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>経営学部</td><td>5 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>教育学部
（通信教育課程含）</td><td>7 名</td><td>1 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>芸術学部</td><td>7 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部</td><td>5 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
<tr><td>観光学部</td><td>5 名</td><td>2 回</td><td>学内実施</td></tr>
</table>

※授業アンケートは Web にて実施。

§　文学部

1　FD 活動への取組理念・目標

大学に対する社会からの期待とニーズの多様化と大学生の学力低下という現実に対応すべく、FD による教育力の向上によって、時代に即した、そして普遍性を兼ね備えた大学教育を実現すべく努力することを文学部の FD 活動への取組理念とする。就労意識の変化に対応した学生へのキャリア教育ないし就職指導も、大学にとって重要性を増しているのに加え、文学部では新設学科への移行期を終え、新しい文学部を発展させるため、FD の重要性はより増している。

このような現状の下、一人ひとりの教員が学部のディプロマ・ポリシー（以下 DP）に則り FD 活動に臨み、教員全員が主体的に FD 活動に参加し、組織的な FD 活動を実現することを目標としている。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

文学部長および主任会（教務主任、学生主任、国語教育学科主任、英語教育学科主任）のもとに、文学部 FD 委員と、国語教育学科、英語教育学科の FD 担当（国語教育学科は文学部 FD 委員が兼務、英語教育学科は英語教育学科主任が兼務）の合計 6 名で文学部 FD 委員会を組織している。

3　令和 4 年度の活動内容

文学部では以下の研修会を実施した。

（1）　国語教育学科の基盤の検討―カリキュラム改編を視野に―（講師：国語教育学科主任　他）

① 概要（目的を含む）

学科・コース改善。さらなる発展のために改善すべき具体的な事項・事案を教員間で共有し、実践する。

② 到達目標

AP,CP,DP の文言と実際の実施内容が合致するよう、各教員が自覚し行動に移すことができることを目標とする。

③ 活動内容

1. 昨年度来、学科会において教員各位の抱いている問題意識や改善点を共有することを確認してきた。その上でカリキュラム改編を視野に入れた共同研究を学科構成教員全員参加の下で始動した。年度内に教職課程をもつ大学訪問を実施、取材を試み次年度へのカリキュラム改編の基盤作りを行なった。また学科主任・教務担当・教職担当・共同研究代表者による素案作りを始動させた。

1-1. 前年度から学生が受検した検定試験に対して、担当教員から検定の結果をどう分析し、理解するのかを積極的に求め、授業・研修行事への反映を試み始めた。

2. 学生の参加するインターンシップの充実を図り、特に学内参入の企業DTSとの 連携も2年目を迎え、初年次の学科紹介から本年度は学科の魅力を外部視点から調査する活動へと発展させ、学生の自発的計画・行動をもとに実施し始めた。

2-1. 町田市民文学館の全面協力によるインターンシップを整え、文学館学芸員ならびに国語教育学科酒井雅子准教授の始動のもと、町田ゆかりの作家・作品を整理した。次年度は市内の公立中学校へその成果をもって紹介する計画である。

3. ホンモノを体感する機会を作る。

3-1. 学友会寄附講座を活用し角川短歌賞受賞者の歌人・斎藤芳生氏の講演の機会をもった。

4. 時代が求める国語教育学科とは何かを学科内で考察する機会をもった。

4-1. 教員の理解を得て「言語表現コース」の位置付けを改め、科目として「名著講読」を開講した。

4-2. 前年度同様「国語教員養成コース」から途中で卒業後の進路を変更する者のための受け皿をキャリア教育の各学年担当者とともに考え、共有しはじめた。

4-3. キャリアセンターのスタッフから積極的に情報を共有あるいはアドバイスを得たことにより、SPI 非言語分野の外部講師の講義を整えたり、卒業生と在校生の連携を強化したりした。

④ 評価

令和 4 年度 3 月をもって、国語教育学科は 6 年目を終え、学科 3 期生の卒業生を輩出した。直近（令和 4 年 2 月 15 日現在）の内定率は前年度と比較して学科全体83.9%→92.9%と上昇し、男女共に 9 割以上が卒業後の進路が確定している。また教職希望者のほぼ全員が臨時採用を含め、教壇に立つことが叶った。令和 5 年度に求められるのは時流に対応できる学士力を身に付けられるカリキュラムの構築と教員の指導力の向上ならびに学生への適格な始動であり、学科の強みを意識しつつ、謙虚に改善し問題点を明確にすることである。特にインターンシップのさらなる充実化や教職課程科目による専門性の定着は必要不可欠である。一方、ホンモノを体感する機会を大相撲観戦（1 年次）、歌舞伎鑑賞（2 年次）に加えたことは文化の継承者として必要であったことを再認識した。次年度はさらに 3 年次にマナー講座を設定し、玉川の教育を具現化して社会の一員として輩出することを試みる。現スタッフの下での学科の強みはどこにあるのかをさらに言語化し、共有しながら、お互いの顔が見える指導を心がける教員としてさらなるカリキュラムの改編に取り組みたい。

（2）障害を持つ学生の学修支援

①概要

英語教育学科には、令和 4 年度に重度の視覚障害を持つ学生が入学した。そのため、様々な面での支援の整備が急速に進められているが、教員の立場から見たときは何よりも学修面での支援の体系的な整備が急務である。そのためには、特に視覚障害を持

つ学生の学修支援について知識を深めるとともに、実践的な対応策を学ぶことが必要である。

当初は特に視覚障害を持つ学生の学修支援に造詣の深い専門家（教員または職員）を学外から招聘し、講演していただくとともに、具体的な当該事例を踏まえて、どのような対応が考えられるのかをワークショップ形式で検討していくことを計画していた。しかしながら、実際に当該学生の授業を進める中で、その都度調整・解決していく事案が多くあり、そうした過程の中で教員間の情報共有と学生支援センターを中心とした事務スタッフとの調整・協働が重要であることが分かってきた。

そこで、令和 4 年度は同じ目的ながら活動内容を変更して、FD ワークショップ（研修会）の形は取らずに、学科会などの機会を活用しながら継続的に当該学生の状況・ニーズの把握と対策の検討を行った。

②到達目標

障害を持つ学生への対応について理解する。また、その理解のもとに、必要な対策を検討・実施し、当該学生の学修環境を整備する。

③活動内容

重度の視覚障害を持つ学生が入学したことを受けて必要だったのは、障害を持つ学生への対応についての一般的な知識というよりは、むしろ当該学生に関する理解と対応方法であった。そのため、計画を変更して、学科会などの機会を活用しながら継続的に当該学生の状況・ニーズの把握と対策の検討を行った。また、授業外においても当該学生の授業を担当する教員同士あるいはその他の教員が情報共有を頻繁に行い、学生支援センターを中心とした事務スタッフとも協働しながら具体的な対応を検討し、実施した。また、学科としても当該学生および必要に応じて保証人との面談の機会を設け、当該学生の状況・ニーズの正確な把握および可能な対応の検討・実施に努めた。

④評価

当初の計画からすると、ワークショップは実施されず、その意味では不十分であったと言わざるを得ない。しかしながら、当該学生と教員・事務スタッフが並走しながら必要な支援を確認・共有し、可能な対応を検討するとともに実施するという点においては、1 年目として期待以上の成果を得ることができた。実際に当該学生を受け入れる前は、どうしてよいか分からないことばかりで、状況を解決するにはまず一般的な知識が必要であろうと考えていた。一般的な知識は確かに必要かつ重要である。その一方で、まずは当該学生および個別事案の理解と、その個別事案への現実的な対応が求められたのも事実である。そうした中、当該学生、教員、事務スタッフが頻繁に話し合い、合意を形成しながら現実的かつ効果的な対応を進めていくことができたのは、その過程全体が効果的な FD 活動であったと言える。到達目標の点でも十分な成果が上げられたと考えられる。

（3）英語教育学科カリキュラム改定

①概要

英語教育学科の教育活動を改善するため、令和元年度より運用が開始された現行カリキュラムの課題の洗い出しを行うとともに、改定案の策定を具体的に進める。

令和 5 年 2 月 13 日（月）13:00～14:45、対面により研修会が実施された。

②到達目標

英語教育学科の教育活動を改善するため、令和元年度より運用が開始された現行カリキュラムの課題の洗い出しを行うとともに、改定案の策定を具体的に進める。今回は特に、文部科学省より全体的な枠組みが提示され、東京都が令和 5 年度より実施を表明している教員採用試験の 3 年次受験への対応の検討を始める。

③活動内容

冒頭で本 FD 活動の概要・目的・目標と、教員採用試験の 3 年次受験に伴う英語教育学科カリキュラムへの影響について簡潔に説明した後、4 グループに分かれてグループ討議が行われた。グループ討議では、特に 2 年次夏から 3 年次春学期にかけて実施されている必修の留学との関係から、対策について活発な意見交換が行われた。留学の実施時期の変更、実施期間の変更、4 年間の学びの流れ、ゼミとの関わりなど、様々な観点から課題の洗い出しや対策案が検討された。その後、全体でグループ討議の結果を共有し、その上でさらに全体で意見交換が行われた。

④評価

令和 4 年度になって動きが具体的になった教員採用試験の 3 年次受験の制度は、2 年次夏から 3 年次春学期にかけて留学を必修とする英語教育学科の現行カリキュラムにとっては、大きな変更が必要となり得る事案である。その一方で、同制度は現時点でまだどの程度の広がりを見せていくのかが明確ではなく、推移を見守る段階にある。その段階で、本件について学科教員間で意見交換ができたのは、今後のカリキュラム改定に向けて有用であった。

調査については以下の通りである。

（1）英語教育学科の卒業生への調査

①概要

英語教育学科の卒業生への調査（アンケートやインタビュー）を通して、英語教育学科のカリキュラムで学修した成果が卒業後にどのように役にたっているか、また、同カリキュラムの改善点は何かを明らかにする。

②予想される結果

英語教育学科のカリキュラム改定に資する情報を得ることができる。

③ 活動内容

文学部共同研究（代表：英語教育学科工藤洋路教授）の一環として英語教育学科卒業生のうち教員として働いている方への調査を実施した。詳細については文学部紀要の論文において公表することとなっている。

④評価

予定どおりに実施し、有益な情報を得ることができた。その情報も含め、文学部紀要論文にまとめた。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

1．他の研修会計画を優先したため、今年度の文学部 FD 研修会は計画段階で見送りとなったので達成度：0%。ただし、年度末（3 月教授会終了後）に文学部専任教員全員による情報共有の会が設けられたことで、今後継続して文学部の課題を組織的に検討していくための準備は整えられている。

2．全学で実施する「学生による授業アンケート」を文学部全体で効果的に活用し、学部内の授業改善を組織的に行えるシステムづくりを課題としたが、個々人による活用にとどまり、学部による積極的なシステムづくりを前進させるにはいたらず、課題は依然残ったままである。達成度：0%

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

従来の活動の継続とその活性化をさらに推進する。とりわけ次の 2 件を来年度の主要課題としたい。

1. 文学部 FD 研修会の機会を設けて、学部の課題を検証することを継続的に行っていきたい。
2. 全学で実施している「学生による授業アンケート」を文学部全体で今後効果的に活用し、学部内の授業改善を組織的に行えるシステムをさらに充実させていく。

§　農学部

1　FD 活動への取組理念・目標

玉川大学の教育理念に基づいた教育を実現するため、学生の学修レベルを農学部教員が理解し、授業の内容および方法の改善、研修会への積極的な参加を、大学 FD 委員会と協調して促進する。これまで、農学部では実験実習科目が多いことから、講義科目との連携によって、学生が主体的に学修できる教育環境の充実を進めてきた。本年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴う授業対応が 3 年目となり、対面授業が主となったが、ハイブリット授業、ハイフレックス授業、オンデマンド授業などの多様な形態も柔軟に対応する。このために､例年進めている授業アンケートの実施と授業改善への意識を高めるとともに、学生の心のケアや授業作成ツールとしての動画撮影などの支援体制の共有化をさらに図る。学部内では、主任会メンバーを中心に各教員との情報交換を昨年度と同様に進め、コロナ禍での学生の学修環境の向上に努める。さらに、学習指導要領改訂に応じた対応について着手する。これらを通して、教員は自らの教育力向上に対する意識を高めるとともに、社会情勢に臨機応変かつ適切に対応可能なファカルティー形成を目指す。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

農学部長、生産農学科主任、生産農学科副主任、環境農学科主任、先端食農学科主任、学生主任、教務主任、農産研究センター副センター長および農学部 FD 担当の計 9 名が中心となり、農学部全教職員が目標達成にあたる。

3　令和 4 年度の活動内容

（1）研修会

①　概要

（1）学生の心のケアに関する研修会

令和 4 年 9 月 6 日（オンライン開催、43 名参加者、農学研究科と共催）に「多様な学生の心のケア」（講師：保健センター健康院・カウンセラー、伊東 優子先生）という演題でコロナ禍での学生の精神的不安・負担に対する対応に関する講演を開催した。講演では、保健センター健康院での学生カウンセリング制度の紹介やコロナ禍での取り組みについて説明していただき、事前に教員から提出してもらった質問に対する回答・コメントをいただいた。具体的な対応をアドバイスしていただき、それらの情報を教員間で共有した。

（2）オンライン教材、オンデマンド教材、対面講義教材の作成時に利用可能なサポート体制についての研修会

令和 4 年 9 月 21 日（オンライン開催、38 名参加者、農学研究科と共催）に学修支援課（浅利課長）、DTS（井上氏、村松氏、太田氏）、および農学部生産農学科大塚みゆき准教授をプレゼンターとして、本学のオンライン授業支援の制度、実施例などを紹介頂き、遠隔授業のみならず対面授業やハイフレックス授業でも利用可能な映像教材の作成法について理解を深めた。多くの参加者からオンライン教材作成法について具体的な方法やその運用例の内容が把握できたとのコメントを得ており、オンライン教材作成につ

いてより具体的な理解につながった。

（３）2025 年度入試を見据えた準備としての研修会

令和 4 年 10 月 27 日、対面開催、42 名の参加者。今年度から展開されている高等学校の新課程の内容を把握し、2025 年度入試を見据えた各教員の講義の内容を検討した。株式会社進研アドのスタッフを講師として迎え、対面形式で今年度から高等学校において展開している新課程の教育内容等を把握し、2025 年度入学生に適応可能な講義内容（特に理科系科目）を検討した。

全ての研修は農学部専任教員を対象とし、大学生への教育活動における適切な指導方法、悩みを抱えた学生への配慮や適切な対処、学生の生活環境における注意点について学ぶことを目的に実施した。また、一昨年度に開設した農学部 FD 専用の Teams 内に、事前質問アンケートや配付資料をアップロードし、受講者の理解が深まるように工夫を加えた。また、オンラインで開催した講演会については、講師の方々の許可を頂いたもののみ、事後配信を期間限定で行い、教員間の知識の共有化を試みた。このことで、研修会の欠席者が、研修会の内容を閲覧できるようになった。

② 到達目標

1) コロナ禍での心のケアが必要な学生に対して、適切な判断ができるようになる。
2) 様々な授業形態に対応可能な講義を進める上での、講義資料の効果的な作成法を取得する。
3) 高等学校の学習指導要領の変更点を把握し、2025 年度以降の入学生対応に必要な案件を抽出する。

③ 活動内容

1) 昨年度と同様に保健センター健康院でのカウンセリング業務の内容とコロナ禍以前の実績をご報告いただいた後、コロナ禍での学生のメンタルケアの状況を、実例に応じて解説いただいた。対応案件が複雑化する傾向が増加しており、学部、保健センター健康院と学生支援センターとの有機的な結びつきが必要であることが示唆された。
2) 多くの教員、技術指導員からオンライン教材作成法について、具体的な方法やその運用例の内容が把握できたとコメントをアンケートで得ることができ、本研修会での到達目標が達成できたと思われた。
3) 実社会で役に立つ教育が高校から始まったことが把握でき、現状の大学教育も早急に検討が必要とわかり、本研修の目的に到達できたと思われる。

④ 評価

いずれの講習会についても、開催後のアンケート調査などから各研修会の到達目標設定について好意的な意見が多く、本研修会の目的がファカルティ内で理解されていると評価できる。

（2）学生による授業アンケート

① 概要（目的を含む）

授業改善のために、農学部開講科目の担当教員（専任および非常勤講師）に協力を求め、すべての講義科目と実験・実習科目について授業アンケートを実施した。

② 到達目標

授業の状況把握により講義技法や情報伝達の仕方、教育設備の向上に活用し、授業改善を達成する。また、大学 HP 上に結果を公開する。

③ 活動内容

授業アンケートを集計後、結果をアンケートの原本とともに各教員に配付した。さらに、大学 HP に学部、学科単位での集計結果を公開した。また、全てのアンケートを、冊子体としてまとめ、新年度主任会メンバーに配付するとともに、保存版として保管した。

④ 評価

令和 4 年度の授業アンケートは、UNITAMA を用いて Web ベースでアンケートを行った。総合評価値は、昨年度とほぼ同様の値であった。このことは、様々な授業形態に学生も教員も工夫を進めることが教育活動の安定化に結びついたと思われる。ただ、アンケート回収率が、例年同様、低下しており今後の検討課題としてあげられる。

表．令和 4 年度の授業アンケート集計結果（3 学科のアンケート実施科目すべて）

（講義科目）

令和4年度 春学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(講義)全体　履修者数： 3,603 名　回答者数： 1,138 名　回答率： 31.6 %

			設問	農学部(講義)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	2.2
	2	シラバス	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.5
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.0
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.0
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.7
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.7
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	3.7
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	3.9
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	3.9
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	3.9
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.0
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.1
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.0
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2
総合評価				3.8

令和4年度 秋学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(講義)全体　履修者数： 2,912 名　回答者数： 795 名　回答率： 27.3 %

			設問	農学部(講義)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	2.2
	2	シラバス	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.0
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.0
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.8
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.8
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	3.8
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	4.0
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.0
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.1
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.0
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.1
総合評価				3.8

（実験･実習科目）

令和4年度 春学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(実験実技実習)全体　履修者数： 662 名　回答者数： 258 名　回答率： 39.0 %

		設問		農学部(実験実技実習)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	2.8
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	4.1
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1
	13	質疑対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3
総合評価				4.0

令和4年度 秋学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(実験実技実習)全体　履修者数： 823 名　回答者数： 218 名　回答率： 26.5 %

		設問		農学部(実験実技実習)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	3.1
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.8
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	3.9
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	4.0
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.0
	13	質疑対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2
総合評価				4.0

（演習科目）

令和4年度 春学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(演習)全体　履修者数： 596 名　回答者数： 190 名　回答率： 31.9 %

		設問		農学部(演習)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	3.1
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	4.1
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	4.0
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.0
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1
	13	質疑対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2
総合評価				4.0

令和4年度 秋学期 学生による授業アンケート集計結果　玉川大学

農学部(演習)全体　履修者数： 1,046 名　回答者数： 245 名　回答率： 23.4 %

		設問		農学部(演習)全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修(予習、復習、課題など)を何時間しましたか	3.4
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.3
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.2
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力(授業を通して修得できる力)はシラバスに記載	4.1
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.3
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.2
	10	教材	教材(教科書、プリントなど)の使い方は適切でしたか	4.1
	11	授業計画	授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか	4.0
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2
	13	質疑対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.3
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.3
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3
総合評価				4.1

なお、各学科の授業アンケート結果は、玉川大学 FD 活動の HP で見ることができる。
https://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/u-fd/questionary/report_agr

（３）教職員を対象とした公開授業

令和 4 年度は公開授業を行わず、オンライン教材、オンデマンド教材、対面講義教材の作成時に利用可能なサポート体制についての講演会を開催し、教員の教育手法の改善を進める起点とした。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

令和 4 年度の FD 活動についても、農学部主任会・FD 委員と逐次検証を行うことで、専任教員間の議論が促進され、提案された課題が十分達成された。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

- 様々な学生に対応した適切な指導法の確立に関する研修
- 生成型 AI を含む様々なツール利用と教育・研究活動の進め方に関する研修

§　工学部

1　FD 活動への取組理念・目標

「全人教育の下、人間力を備えたモノつくりの実践的技術者を育成する」という学部の理念・目標に向けて教育内容・教育環境の向上をはかる。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

教授会、主任会、教務担当者会、学科会の他に、FD 活動に特化した運営組織として、工学部 FD 研修会、授業評価検討会、授業評価総合検討会、MR（マネジメントレビュー）がある。これらの組織は平成 29 年まで認証継続していた ISO9001 の教育クォリティマネジメントシステムで運用していたものであり、ISO9001 の更新を停止した後も継続的に運用している。

工学部 FD 研修会は全教員で構成される組織である。各学期の終了後に新入生の成績動向や専門科目の受講者動向などの検証を行う。

授業評価検討会は学科ごとに全教員で構成される組織である。各学期の終了後に授業アンケートの結果などをもとに授業改善の検証を行う。

授業評価総合検討会は、教務主任、教務担当、FD 担当で構成される組織である。各学科で実施された授業評価検討会の結果をもとに今年度の検証および次学期以降の方針について検討を行う。

MR は学科ごとに全教員で構成される組織と工学部長、教務主任、学生主任、学科主任で構成される組織である。各学科で実施された MR の結果をもとに今年度の学部の教育活動全般の検証および次学期以降の方針について検討を行う。

3　令和 4 年度の活動内容

（1）工学部 FD 研修会

①　概要

各学期の終了後に全教員を対象に実施される研修会である。教務主任、学科主任、教務担当が学期ごとに GPA や単位修得率をもとに成績動向について報告を行う。春学期は、数学と物理の教員が入学時に実施するテスト（プレースメントテスト）の結果について報告を行う。秋学期は、各学科の教員 1 名が学科専門科目の受講者動向について報告を行う。

②　到達目標

全教員が全学科の学生成績および学生への対応方針を共有し、各学科の今後の組織的展開と学生への教科指導に効果的に反映できるようになること、そして教員の自己省察に資する内容となることを目標とする。

③活動内容

■　第 1 回工学部 FD 研修会

実施日：令和 4 年 9 月 15 日（木）9：00～9：53

場所：Zoom による遠隔会議方式

プログラム：

春学期学習状況分析結果報告

（1）情報通信工学科　教務担当　森文彦

（2）ソフトウェアサイエンス学科　教務担当　塩澤秀和

（3）マネジメントサイエンス学科　学科主任　成川康男

（4）エンジニアリングデザイン学科　教務担当　黒田潔

（5）数学系　マネジメントサイエンス学科　朝山芳弘

（6）物理系　エンジニアリングデザイン学科　水野貴敏

（7）学部全体の状況　教務主任　佐々木寛

■ 第 2 回工学部 FD 研修会

実施日：令和 5 年 3 月 9 日（木）13：30～14：32

場所：Zoom による遠隔会議方式

プログラム：

秋学期学習状況分析結果報告

（1）情報通信工学科　教務担当　森文彦

（2）ソフトウェアサイエンス学科　教務担当　塩澤秀和

（3）マネジメントサイエンス学科　教務担当　髙橋宗良

（4）エンジニアリングデザイン学科　教務担当　黒田潔

（5）学部全体の状況　教務主任　佐々木寛

最近の専門科目受講者動向

（6）情報通信工学科 「通信システム」 相馬正宜

（7）ソフトウェアサイエンス学科 「データ通信」大崎正雄

（8）マネジメントサイエンス学科 「数学科指導法Ⅲ」 成川康男

（9）エンジニアリングデザイン学科 「卒業研究」 福田靖

④評価

第 1 回工学部 FD 研修会は 34 名、第 2 回工学部 FD 研修会は 34 名の教員が参加した。報告者が使用するスライドおよび報告内容をまとめた解説は配付資料としてまとめられ、事前にメールにて全教員に配付された。

（2）数理・データサイエンス・AI 教育実施環境の構築

① 概要（目的を含む）

数理・データサイエンス・AI に関する教育の実施環境を構築するための動画視聴型の研修を行う。

② 到達目標

数理・データサイエンス・AI に関する教育の実施環境を構築する。

③ 活動内容

数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムのサイト「リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材」で紹介されている動画を視聴する動画視聴型の研修を

実施した。参加者は研修のテーマの観点から関心のある動画を選択する。受講期間は令和 4 年 6 月 1 日（水）～9 月 22 日（木）とした。研修への参加状況の確認は授業運営課工学部担当の協力のもと UNITAMA のアンケート機能を利用した。

④ 評価

工学部・工学研究科の教員 29 名が参加した。参加者の平均視聴動画本数は 4.6 本だった。 研修終了後のアンケートでは「とても有益であった」が 27.6%、「有益であった」が 69.0%、「あまり有益でなかった」が 3.4%、「まったく有益でなかった」が 0%だった。

(3) オンライン授業支援の利用

① 概要（目的を含む）

学生支援センター学修支援課が行っているオンライン授業支援の利用方法と活用事例に関する研修会を行う。

② 到達目標

オンライン授業支援を利用した授業方法を共有する。

③ 活動内容

実施日：令和 4 年 11 月 24 日（木）17：00～17：40

場所：Zoom による遠隔会議方式

内容：学修支援課　浅利茂「冒頭あいさつ＆支援の位置づけ」

DTS　井上邦彦「授業支援の利用方法＆具体例について」

工学部　山﨑浩一「活用事例」

工学部　平社和也「活用事例」

④ 評価

教授会の前に実施され、工学部・工学研究科の教員 39 名が参加した。本研修会を撮影した動画は DTS により編集され、FD 活動を目的として他学部に提供された。また、DTS から提供されたオンライン授業支援に関する教育学部の尾関はゆみ先生のインタビュー動画を全教員に紹介した。

(4) 授業評価検討会・授業評価総合検討会・MR（マネジメントレビュー）

① 概要（目的を含む）

授業評価検討会は、各学期の終了後に学科ごとに「授業実施チェックシート」（様式は平成 30 年度の活動報告書を参照）や授業アンケートの集計結果などをもとに授業改善を検討する。

授業評価総合検討会は、各学科の授業評価検討会の集計結果や議事録などをもとに今年度の検証および次学期以降の方針について検討を行う。

MR は、各学科で実施された会議の議事録をもとに今年度の学部の教育活動全般の検証および次学期以降の方針について検討を行う。

② 到達目標

授業実施チェックシートや授業アンケートの集計結果などをもとに授業改善を検討す

る。

③ 活動内容

■ 授業評価検討会

実施日：

春学期

情報通信工学科	令和 4 年 9 月 8 日（木）19：00～19：30
ソフトウェアサイエンス学科	令和 4 年 9 月 8 日（木）18：15～19：00
マネジメントサイエンス学科	令和 4 年 9 月 8 日（木）14：00～14：30
エンジニアリングデザイン学科	令和 4 年 9 月 8 日（木）15：30～15：40

秋学期

情報通信工学科	令和 5 年 3 月 2 日（木）17：00～17：30
ソフトウェアサイエンス学科	令和 5 年 3 月 8 日（水）10：00～11：00
マネジメントサイエンス学科	令和 5 年 3 月 2 日（木）14：30～15：00
エンジニアリングデザイン学科	令和 5 年 3 月 2 日（木）15：50～15：55

■ 授業評価総合検討会

実施日：

春学期　令和 4 年 9 月 16 日（金）14：00～15：40

秋学期　令和 5 年 3 月 16 日（木）11：30～12：30

■ MR

実施日：

情報通信工学科	令和 5 年 4 月 1 日（土）実施予定
ソフトウェアサイエンス学科	令和 5 年 3 月 8 日（水）9：00～10：00
マネジメントサイエンス学科	令和 5 年 3 月 2 日（木）15：00～15：20
エンジニアリングデザイン学科	令和 5 年 4 月 1 日（土）実施予定
全体	令和 5 年 3 月 22 日（水）16：00～16：45

④ 評価

授業評価検討会では、「授業実施チェックシート」や授業アンケートの集計結果などを用いて議論された。

授業評価総合検討会では、各学科の授業評価検討会の集計結果や議事録を用いて議論された。春学期と秋学期の議事録をそれぞれ図 1 と図 2 に示す。

MR では、令和 5 年 4 月より新設されるデザインサイエンス学科の教育クォリティ方針及び教育クォリティ目標を作成することとした。また、令和 5 年度よりディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが変更されるソフトウェアサイエンス学科の教育クォリティ方針の見直しを行うこととした。

2022 年度春セメスター工学部授業評価総合検討会議事録

日時：2022 年 9 月 16 日、14:00～15:40
場所：Zoom ミーティング
（以下、ICT…情報通信工学科、SS…ソフトウェアサイエンス学科、MS…マネジメントサイエンス学科、ED…エンジニアリングデザイン学科）

出席者：森（ICT 教務担当）、塩澤（SS 教務担当）、高橋（MS 教務担当）、黒田（ED 教務担当）、三木（工学部 FD 担当）、佐々木（教務主任）
議事録作成：佐々木

資料： 2022 年度春学期 授業評価検討会議事録（ICT，SS，MS，ED）
2022 年度春学期 授業評価集計結果（ICT，SS，MS，ED）
2022 年度春学期 科目別教育クオリティ目標一覧表（SS）

各学科で実施した授業評価検討会における検討結果に基づき、本セメスターにおける各学科の取組みについて報告が行われた。全学科、不満足授業は無かった。

各学科からの報告内容を以下に記す。

・ICT：アンケートについては、回答率にばらつきはあるが概ね実施できている。「物理学 I」では、「成績 B 以上」が 29%であった。この科目は通常 1 年秋学期に履修するものであるが、今学期の履修者は半期遅れており、高等学校で物理をほとんどやっていないまたは不得意とする学生がほとんどである。授業が滞りなく行われていることを確認しており、不満足授業には当たらないと結論された。

・SS：今回は学科専任教員が担当する US 科目も含めチェックシート、教育クオリティ目標展開表を作成してもらった。非常勤教員が担当する科目については、授業アンケートの教員コメントをもって妥当性を確認した。「成績 B 以上」はすべての科目で 60%以上であった。これまでこの基準をクリアできないことの多かったプログラミング I の下位クラスでも良好であった。今年度より新規に開講した「プログラミング実験」による演習時間の確保やチューター利用を促進する指導を徹底したためと考えられた。同様のプログラミング II では、担当教員が指導方法を工夫することで、「成績 B 以上」が 67%となった。学科での検討の結果、不満足授業はなかった。

・MS：授業アンケートの「理解度」は全て 3 以上である。「成績 B 以上」が 60%に満たない科目が 35 科目中 7 科目となった。数学、物理学関連科目が 5 科目であり、基礎学力（とくに数学の能力）が弱い学生が多いためと考えている。自習時間が十分ではない学生、課題を提出しない学生も多い。数プロの学生にもそのような学生が散見される。また、今年度からチューター制度を導入している。学科での検討の結果、不満足授業はなかった。

・ED：授業アンケートの「理解度」は全て 3 以上である。「物理学 I」では「成績 B 以上」が 38%、「解析学 II」では 59%であった。理系学力不足が原因であると考えられ、当該科目のみの問題ではなく総合的な対処が必要と考えられる。不満足授業はなかった。

・全体：検討のためのデータ集計、作成（成績評価の割合など）で科目担当、教務担当の負担が大きいので、UNITAMA 上で自動化できるとよい。チェックシート、教育クオリティ目標展開表等の作成については、不満足授業等の抽出、是正処置の検討を含め授業実施状況に関する検討ができる範囲で、各学科の方針により進めていくこととする。

以上

図 1　令和 4 年度春学期工学部授業評価総合検討会議事録

2022年度秋セメスター工学部授業評価総合検討会議事録

日時：2023年3月16日、11:30～12:30
場所：Zoomミーティング
（以下、ICT…情報通信工学科、SS…ソフトウェアサイエンス学科、MS…マネジメントサイエンス学科、ED…エンジニアリングデザイン学科）

出席者：森（ICT教務担当）、塩澤（SS教務担当）、高橋（MS教務担当）、黒田（ED教務担当）、三木（工学部FD担当）、佐々木（教務主任）
議事録作成：佐々木

資料： 2022年度秋学期 授業評価検討会議事録（ICT，SS，MS，ED）
2022年度秋学期 授業評価集計結果（ICT，SS，MS，ED）
2022年度秋学期 科目別教育クオリティ目標一覧表（SS）

各学科で実施した授業評価検討会における検討結果に基づき、本セメスターにおける各学科の取組みについて報告が行われた。全学科、不満足授業は無かった。

各学科からの報告内容を以下に記す。

・ICT：非常勤教員等の学科外の教員が担当する4科目を除き検討会のデータを提出してもらった。「成績B以上」はほとんどの科目で60%以上であった。「認知科学」では「成績B以上」が52%であった。10回のレポートにより評価しており、とくに他学部受講者の出席率、レポート提出率が悪くB以上とならない学生が多かった。「電磁気学」では「成績B以上」が55%であった。積分を用いた内容で理解が難しい学生がいた。学科での検討の結果、不満足授業はなかった。

・SS：基本的に学科専任教員開講科目を検討対象とした。「成績B以上」はほとんどの科目で60%以上であった。「離散数学」では「成績B以上」が51%であったが、数学の基礎学力が不足している学生も履修しており、今後は履修指導により基礎学力をつけてから受講させる方針とすることとした。「プログラミングⅡ」の一クラスでは「成績B以上」が53%であったが、習熟度別にクラス分けされているためで、科目としては全体で60%以上となっていた。学科での検討の結果、不満足授業はなかった。

・MS：授業アンケートの「理解度」で「解析学Ⅱ」が3に達していなかったが、受講数5名中3名のみのアンケート回答であった。サンプル数が少なく十分な議論が難しいと考えられた。「成績B以上」が60%に満たない科目が4科目あり、いずれも数学関連科目であった。数プロの学生であっても高等学校の数学の理解が不十分な学生が多い。学科での検討の結果、全体として不満足授業はなかった。

・ED：授業アンケートの「理解度」は全て3以上である。「成績B以上」が60%に満たない科目は3科目あったが、いずれも50%以上であった。その中で、「解析学Ⅰ」、「プログラミングⅠ」では前年度80%以上となっている。いずれも1年生の科目であり、今年度入学生の理系基礎学力の低さによるものと考えられた。学科での検討の結果、不満足授業はなかった。

・全体：授業アンケートの回答率の低さがいずれの学科でも指摘された。強制ではなくWEB上で回答してもらっていることの限界であるとの意見があった。授業板書をスマホで撮影する学生が多かったとの指摘があった。学部として、授業中の録音、撮影の原則禁止の指導を徹底することとした。研究授業の在り方についても議論がなされたが、そういった機会を設けること自体に大きな意義があるとして、基本的には従来通りの方針で次年度も進めることとした。また、とくに新任あるいは若手の先生方にご参加いただけるとよいとの意見があった。

以上

図2　令和4年度秋学期工学部授業評価総合検討会議事録

(5) 研究授業

① 概要（目的を含む）

春学期と秋学期に各学科 1 名の教員が各自の担当科目に関して参観授業（研究授業）を実施する。科目は学科専門科目でなくてもよい。各学科の教員数は 8～9 名であるため、全教員が 4～5 年に 1 回担当することになる。学生による授業アンケートとは別の視点である参観者からの評価を授業改善につなげることが目的である。

② 到達目標

参観者の評価をもとにした授業改善を検討する。

③ 活動内容

今年度の実施概要を表 1 に示す。

参観者は授業を参観して「工学部研究授業チェックシート」（様式は平成 29 年度の活動報告書を参照）を参観後に授業担当者に提出する。授業担当者は参観者の評価をもとに「研究授業科目担当者票」（様式は平成 29 年度の活動報告書を参照）を作成して、学部長、教務主任、学科主任、教務担当、FD 担当に提出する。

④ 評価

提出された「研究授業科目担当者票」の「今後の対処計画」には下記のようなコメント（原文そのまま）があり、今後の授業改善が期待される。

- マイクの音量は、他の講義でも学生から指摘を受けたので、狭い教室では自声のみで講義することもよいと思う。学生が演習に取り組むことはよいが、授業中に始める点は、賛否両論あるところかと思う。今後、授業最後のスライドにまとめるなど、改善していきたい。
- スライドを見直し、小さいフォントの箇所を改善する。授業開始時に学生を一度静めることを心がける。講義室の環境を授業運営課と相談する。履修登録において抽選設定等を検討する。
- 新しい概念を導入する際には、具体的な活用例や演習問題を現状よりもより多く出題するように授業構成を組み立てる必要がある。また、学生の理解が深まる視覚的な理解を促す工夫の一環として、配布資料を用いるだけでなく PC アプリを導入した視覚的な理解を助ける工夫を導入を検討していきたい。
- 効果的であったと評価を受けた点については継続的に実施する。指摘された改善点については、発問を増やすように授業の進行に組み込む。学生が練習問題を解いている最中に巡回する。
- プログラムは逐次拡大表示しているが，見にくい文字が含まれる場合はより意識的に見やすくするようにしていきたい。学生の様子を見回る時間を増やし，学生の理解度や態度をより把握できるようにしていきたい。
- スライド資料の文字サイズを大きくし、後ろの席からも見やすいスライド作りに取り組む。学生に質問することで、より積極的な授業参加を促す。メモを取りやすいように、PDF 資料への書き込み方法について指導する。
- 設備関係の抜本的改善は教学にお任せする。設備の不備を少しでもカバーできるよう

に、学生の目線に立ち小まめに目配り気配りをする。投影資料の文字サイズを予め指定するようにする。B.B.へのコメントは発表後に別途枠を設ける。プレゼンテーションの基礎的な学修のパートを設ける。

- スクリーンの見えやすさは、学生にヒヤリングしながら調整する。受講者が比較的賑やかな者が多いため、集中力を誘導するために適度にコミュニケーションを取りながら授業に参加させる。

表 1　令和 4 年度研究授業実施概要

	学科	授業担当者	科目	開催日時限	教室	受講者数
春学期	情報通信工学科	児玉基	確率統計学 I	6 月 6 日（月）1・2 時限	Consilience Hall 2020 203 教室	4
	ソフトウェアサイエンス学科	坂﨑尚生	デジタルシチズンシップ	5 月 18 日（水）5・6 時限	University Concert Hall 106 教室	2
	マネジメントサイエンス学科	朝山芳弘	確率統計学 I	6 月 15 日（水）3・4 時限	ELF Study Hall 2015 329 教室	3
	エンジニアリングデザイン学科	山田義照	管理会計論	5 月 18 日（水）7・8 時限	大学 1 号館 401 教室	2
秋学期	情報通信工学科	水地良明	データサイエンス入門	11 月 30 日（水）5・6 時限	Consilience Hall 2020 204 教室	4
	ソフトウェアサイエンス学科	青野修一	コンピュータアーキテクチャ	11 月 4 日（金）7・8 時限	STREAM Hall 2019 313AB 教室	4
	マネジメントサイエンス学科	根上明	プロジェクトマネジメント	1 月 10 日（火）3・4 時限	ELF Study Hall 2015 419 教室	6
	エンジニアリングデザイン学科	斉藤純	プログラミング I	12 月 22 日（木）7・8 時限	Consilience Hall 2020 202 教室	4

(6) 学生による授業アンケート

① 概要（目的を含む）

授業内容・方法・スキルの向上などの授業改善を具体化することを目的として、平成 12 年度秋学期より学生による授業アンケートを春学期と秋学期の定期試験前の授業において実施している。

② 到達目標

学科専門科目について担当教員の専任・非常勤の区別なく実施し、継続的な授業改善およびカリキュラム改善の検討に役立てる。

③ 活動内容

他学部と同様に UNITAMA でアンケートを実施した。アンケート結果を集計したレポ

ート（PDF ファイル）は科目担当者に配付される。科目担当者はアンケート結果からのフィードバックとしてレポートに設けられた「今期の総括と今後に向けて」の欄にコメントを記入する。回収したレポートは『玉川大学 工学部「学生による授業評価」報告書 44』、『玉川大学 工学部「学生による授業評価」報告書 45』と題した冊子としてまとめられ、STREAM Hall 2019 の 2 階にて閲覧公開した。また、これらは Blakboard@Tamagawa の My グループ「工学部 FD」を通じて全教員に配付された。

④ 評価

アンケートの回答率（回答者数/履修者数）は、春学期が 67.3%（2,891 名/4,293 名）、秋学期が 55.7%（2,629 名/4,724 名）であった。

レポートの「今期の総括と今後に向けて」へのコメントの記入率は、春学期が 93.6%（117 科目/125 科目）、秋学期が 97.1%（135 科目/139 科目）であった。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

工学部 FD 研修会、授業評価検討会、授業評価総合検討会、MR、研究授業、学生による授業アンケートを予定通り実施した。

学生による授業アンケートは、今年度から非常勤の教員への告知の機会を増やしたが、アンケートの回答率は昨年度より低い結果となった。

研究授業は、学部長、教務主任、教務担当、FD 担当が積極的に参加した。

FD 活動の在り方に関する課題については改善されてない。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

工学部 FD 研修会、授業評価検討会、授業評価総合検討会、MR、研究授業、学生による授業アンケートは次年度以降も継続的に実施する。ただし、それぞれの実施方法については再検証を行う必要がある。

学生による授業アンケートは、より学生の意見を反映させるためにアンケートの回答率を上げることが望まれる。

研究授業は、より多くの視点から改善案を得るためには参観者数を増やす必要がある。

§　経営学部

1　FD 活動への取組理念・目標

（1）質の高い卒業生（経営学部のミッション･ステートメントを体現し得る卒業生）を輩出する。

（2）玉川の教育理念を基盤とした経営学教育を実現する。

（3）21 世紀社会に生き残ることのできる経営学部－少子化時代･大学全入時代にあって、運営を維持しうる体力をもった学部を形成する。

（4）玉川学園および玉川大学全体の評価を高める学部を構築する。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

経営学部長、国際経営学科主任、教務主任、学生主任、FD 担当が中心となって FD 活動を実施する。教務主任と FD 担当は連携して活動計画を取りまとめ、主として研修会の運営にあたる。

3　令和 4 年度の活動内容

（1）ワークショップ（令和 4 年 7 月 21 日（木））

① 概要（目的を含む）

昨年度実施したワークショップを踏まえて、コースプログラムによる支援体制を強化する。また、カリキュラム改定に関する方向性を見出す。

② 到達目標

コースプログラムにおける成果と課題の把握および現カリキュラムの課題を抽出する。

③ 活動内容

昨年度に引き続き、コースプログラムの成果拡大に向けたワークショップを実施した。各コースに教員が分かれて、コース内の 2 年生～4 年生の TOEIC の成果を共有した。TOEIC が低い学生に対する指導方法について話し合った。

また、現カリキュラムの課題について議論し、カリキュラム改定に向けた方向性を見出した。

④ 評価

コース別の目標と現状を教員間で共有し、指導方法について効果があった事柄を抽出することができた。カリキュラム改定では、講義を充実させるための具体的な道筋が明らかとなった。

今後、学修意欲が高い学生の成績と就職実績の関係性を明らかにしていきたい。

（2）ワークショップ（令和 4 年 10 月 6 日（木））

① 概要（目的を含む）

7 月に実施したワークショップを踏まえて、コースプログラムによる支援体制を強化する。また、カリキュラム改定に関する方向性を見出す。

② 到達目標

コースプログラムにおける成果と課題の把握および現カリキュラムの課題を抽出する。

③ 活動内容

昨年度に引き続き、コースプログラムの成果拡大に向けたワークショップを実施した。各コースに教員が分かれて、コース内の 2 年生～4 年生の成績状況を共有した。成績が芳しくない学生に対する指導方法について話し合った。

また、現カリキュラムの課題に基づいたカリキュラム改定に向けた方向性を見出した。

④ 評価

コース別の目標と現状を教員間で共有し、指導方法について効果があった事柄を抽出することができた。カリキュラム改定では、経営学等の専門知識を深められる具体的な道筋が明らかとなった。

今後、学生が学びたい専門科目について、調査していきたい。

（3）学生による授業アンケート

① 概要（目的を含む）

例年、各科目の継続的な授業改善に役立てることを目的として授業アンケートを実施している。今年度も春学期、秋学期ともに実施した。

② 到達目標

学生の講義に対する要望等を把握するとともに、各教員のさらなる指導方法の充実を図る。

③ 活動内容

今回の授業アンケートは、UNITAMA を活用した Web 形式である。経営学部で開講している全科目で実施した。アンケート集計は DTS に依頼し、その結果を科目担当者別に配付している。

④ 評価

すべての開講科目で授業アンケートが実施できている。アンケート結果のまとめを Web 上で公開している。回答率は約 40%であったため、より回答数を増やすために、科目を担当している教員には、学生へのアナウンスをしていただく。

（4）学外セミナー等への教員派遣

大学コンソーシアム京都主催の FD フォーラムに教員を派遣するため準備を進めていたが、応募の締め切りに間に合わなかったため、中止とした。次年度以降に教員を派遣する予定である。

（5）授業参観にかわる研修会（授業改善に関するアンケート調査）

① 概要（目的を含む）

各教員の授業方法を共有し、自らの授業の改善につなげることを目的とする。

② 到達目標

授業改善につながる事柄を教員間で共有する。

③ 活動内容

授業改善に関するアンケート調査を行う。

④ 評価

アンケートでは、a「授業を行う上で、工夫されている点は何ですか？（複数回答可)」、b「「教育効果を高めるために」工夫されている「具体的な」内容を教えてください（自由記述)」の項目を設定した。a では、配布資料（パワーポイント等）の内容、話し方（抑揚をつける等)、Bb 等での自習教材の提供の回答割合が高かった。b では、資格対策において自習用の動画を撮影し、Bb 上に公開しているとの意見があった。

以上のように、授業改善に関する効果的な事柄が浮き彫りとなり、教員間でアンケート結果を共有することができた。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

昨年度に予定した活動は、学外セミナー以外すべて実施できている。また、計画にはなかったが、教員に対して、授業改善に関するアンケート調査を行うことができた。ワークショップでは、学生における学修状況を把握し、成果を明らかにすることができた。例えば、コースのゼミナール科目においては、例年 TOEIC のスコアを評価基準に組み込んでおり、学生は TOEIC スコアの目標に向けて勉強している。一方、専門分野の成果については、経営学検定等の資格取得の件数が着実に増加している。学生には、自身の夢や目標を叶えるための手段として、DLP（Dual Language Program）の修得が重要であることを理解してほしい。

カリキュラム改定に関しては、昨年度に引き続いて、経営学部長、コース代表者による会合を定期的に開催している。ワークショップを開催することによって、コース別の現カリキュラムの課題等を見出すことが可能となり、カリキュラム改定の道筋が明らかとなった。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

これまでの FD 活動を地道に継続するとともに、DLP による教育効果の検証を踏まえて、コースの運営を拡充していく。経営学部が掲げている TOEIC のスコアについては、学生のモチベーションを向上させ、目標を達成できるような指導を行っていきたい。カリキュラム改定に関しては、現代社会に求められる経営学関連の専門性を学生が身につけられる講義を選定し、議論を進めていきたい。

§　教育学部

1　FD 活動への取組理念・目標

本年度の FD 活動への取組理念・目標は、令和 3 年度の内容を継続し、以下の通りである。

「本学部では学校教育はもとより生涯教育、社会教育の諸分野で貢献できる教育プロフェッショナルの育成を目指し、指導に当たる教員が自らの資質と能力を向上させることにある。」

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

教育学部長、教育学科・乳幼児発達学科の両主任、教務主任、学生主任、及び FD 担当、通信教育課程主任の 7 名で構成する。

教育学部長を委員長とし、FD 担当が学部における FD 活動計画（企画・運営）の策定、FD 活動の年度総括などを審議する役割を担っている。また委員会決定事項については教授会で議案提起を行い、FD 活動の推進に努めている。

3　令和 4 年度の活動内容

（1）研修会等

① 概要（目的を含む）

前年度に引き続き、教員養成における課題や展望を再認識した上で日常の指導、教育実践に取り組むことを目的とし、オンライン及びオンデマンド研修会に参加した。

② 到達目標

今日の教育実践における先進的な取組や課題に触れ、研究活動および日々の授業実践に活かしていく。また日本の教育の課題と展望について学び、教員養成における指導や教育実践に活かし、また参加者同士のネットワークを築くことを目標とする。

③ 活動内容

令和 4 年度は、参観授業の代わりに DTS より配信された授業の効率化やアクティブ・ラーニングの促進、ICT 利用についての動画などの配信をおこなった。また前年度に引き続きコロナ禍でのオンライン授業のために、オンライン授業における複製・公衆送信・伝達に関する『やってはいけないこと』と『授業の中でやってよいこと』パンフレットの配付も行った。FD 研修として特に有意義だったのが Zoom による双方向オンラインで「学生のメンタルケア」についてと「要支援学生への配慮」についてはオンデマンド方式で研修を行った。「コロナ禍における救急救命・安全教育」は、新型コロナウイルス感染症第 6 波のために実施を中止した。

1) 研修名　:「オンライン授業における複製・公衆送信・伝達に関する『やってはいけないこと』と『授業の中でやってよいこと』パンフレットの配付」

実施日　: 令和 4 年 9 月 1 日（木）

方法　　: 各教員メールボックスへの配付及び学内便による配付

2) 研修名　:「オンライン授業の有効なツール及び ICT 活用術」
講　師　: DTS による「オンライン学修支援」説明動画の配信と Bb アップロード
実施日　: 令和 5 年 1 月 16 日（月）
場　所　: オンデマンド方式による研修
時　間　: 15:39 配信

3) 研修名　:「新人教員のための資料：面談シート・授業参観からの学び」
講　師　: DTS による「オンライン学修支援」説明動画の配信と Bb アップロード
実施日　: 令和 5 年 1 月 16 日（月）
場　所　: オンデマンド方式による研修
時　間　: 15:39 配信

4) 研修名　:「学生のメンタルケア」
講　師　: 保健センター健康院カウンセラー：伊東優子先生
実施日　: 令和 5 年 1 月 25 日（水）
場　所　: Zoom による双方向オンライン方式による研修会
時　間　: 15：00～16：30

5) 研修名　:「要支援学生への配慮」
講　師　: 國學院大學・渡邉雅俊先生
実施日　: 令和 5 年 2 月 15 日（水）
場　所　: Zoom による双方向オンライン方式による研修会
時　間　: 10:00～11:30

④ 評価

「オンライン授業における複製・公衆送信・伝達に関する『やってはいけないこと』と『授業の中でやってよいこと』パンフレットの配付」については、昨年度に続き、新任教員に配付し、オンラインで配信する資料が多いため、大変喜ばれた。「オンライン学修支援の動画」に関してはオンデマンド配信と Bb にアップしたため、必要に応じて教員が参照できるため、効率的であった。

「学生のメンタルケア」研修は Zoom 双方向オンラインで行われ、50 名近い教員が参加した。保健センター健康院カウンセラー伊東先生から、学生のメンタルヘルスの現状と教育学部の先生方から提出された質問に答える形で、大変有意義で今後に生かせるお話であった。「要支援学生への配慮」についての研修も Zoom で行われ、42 名の教員が参加した。グレーゾーンの学生が非常に増加しており、それらの学生への対応についてのお話が有意義であり、今後に生かせると考えられる。

新任教員へは、Bb 上に新任教員が参考にできる資料を集めたタグを作成し、評価・面談・その他のことについて効率的に伝達できるようにできた。

（２）学生による授業アンケート

【通学課程】

① 概要（目的を含む）

学生による授業評価（教育学部では「リフレクションシート」と称す）を全授業で実施する。集計結果は学部全体の平均と比較できる形として各授業担当者にフィードバックされ、新学期に向けて授業改善につなげるものとする。また学部・学科・学年別の集計結果の傾向や課題を学部全体で共有することを目的とする。

② 到達目標

専任教員、非常勤講師が担当するすべての授業において学生によるリフレクションシートを実施する。例年は、受講者が 10 名未満のゼミなどについては実施しなかったが、今年度から 10 名未満のゼミや授業であっても実施する。実施した授業評価の集計はデータ分析と集積を行い、教員の授業改善および学生の傾向や課題の共有につなげる。

③ 活動内容

専任教員、非常勤講師が担当する教育学部すべての授業において、授業アンケート（リフレクションシート）を実施した。

④ 評価

令和 4 年度は、ほぼ対面授業であったが、授業の中の一部でオンデマンド方式が用いられることもあった。前年度に引き続いて予習・復習の時間に関しては他項目よりも低くなっているが、オンデマンド方式の授業などではより多くの時間を内容理解のために費やしている傾向が見えた。ただし、あくまでも平均であり、個々の授業特性および学生の予習や復習に対する時間的な意識の違いがあることも考慮した上での評価と考えるべきである。この点に関してはアンケート設問内容の改善や設問に対する説明を加えるなど検討したい。また、この項目が高い教員の実施方法などを共有し他の教員の参考にしていきたい。

【通信教育課程】

① 概要（目的を含む）

スクーリング授業において、学生による授業評価アンケートを全科目において実施し、集計結果は各授業担当者にフィードバックする。目的は、各授業担当者が授業改善につなげることにある。

② 到達目標

・専任教員、非常勤講師を問わず、すべてのスクーリング授業において学生による授業評価アンケートを実施する。

・実施した授業評価アンケートのデータ分析と集積を試み、教員の授業改善、また学生の傾向や課題を共有する。

② 活動内容

・開講されたスクーリングにおいて、専任教員、非常勤講師の全教員が、担当する全ての授業（科目）について、オンラインでの授業評価アンケートを実施した。開講したのべ 148 科目（事情により一部の科目は除く）において実施した結果、のべ 148

科目において学生からの回答が得られた。

・質問内容は、昨年と同一のものを使用し、自由記述欄も設けた。

③　評価

授業評価アンケートの結果としては、各設問とも概ね高い評価を得た。各授業の評価結果は、担当教員本人に配付し、結果と課題を共有した。

通信教育課程では、新型コロナウィルス感染症の問題とは関係なく、対面、オンライン、ブレンディッド（オンライン＋対面）と複数の形態でのスクーリングを提供している。そのような複数の形態を設けている通信教育課程だからこそ、今後、それぞれの形態によるメリット・デメリットについても整理していきたいと考える。

（３）教職員相互の授業公開と参観

【通学課程】

令和 4 年度は対面授業ではあったが、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、密を避けることが要求されるため、授業参観は困難となり、実施を見送った。その代わりに、「オンライン学修支援」説明動画の配信を行った。

【通信教育課程】

通学課程と同様。

（４）FD 研修

【通学課程】

１）「全人教育鹿児島研修」

① 概要

教育学部は、学部独自の教育課題を追及する学部企画 FD 研修を行っているが、新型コロナウィルス感染防止のために実現できなかったことは残念である。令和 5 年度の計画で実施したいと考えている。

【通信教育課程】

① 概要（目的を含む）

本課程では、教員数が少なく独自の FD 研修を実施するのが難しいため、随時各種の学外 FD 研修に関わる情報を提供する。

② 到達目標

本校の全学で行われる FD 研修のほかに、専任教員の各自の問題意識にあった学外 FD 研修に参加したり、関連する情報を得たりすることで、日々の教育活動の向上を図ることを目的とする。

③ 活動内容

昨年度に引き続きオンラインでのスクーリングも行われたことから、それぞれの教員が行っている工夫について情報を収集したものをまとめた資料を共有した。特に、BS（ブレンディッドスクーリング）をより双方向的な授業にするため、それぞれの教員がその実践例を示し共有することで BS の授業改善に繋げた。

④ 評価

教員の側はオンラインでの授業に慣れてきた面もあったが、受講生の中には初めてオンラインで受講する者もおり、スムーズに授業を進めていくためにもそれらの学生へのサポートが必要だと考えられた。また、グループワーク等に制限のある状態での対面授業において、意見の共有や協同作業などを取り入れていく方法については教員間での情報共有が必要だと考えられた。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

【通学課程】

教育学部は、学部独自の教育課題を追及する学部企画 FD 研修を行っているが、新型コロナウイルス感染防止のために実現できなかったことは残念である。令和 5 年度の計画で実施したいと考えている。

【通信教育課程】

スクーリングの授業評価アンケートは、原則として全科目で実施する予定であったが、一部の科目（博物館実習・コンピュータ）に関しては科目ごとに独自にアンケートを実施しているため授業評価アンケートは実施しなかった。テキスト学修科目のアンケートについては、平成 28 年度に見送りを決めて以降、特段の進展はなかった。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

【通学課程】

前年度に引き続き、日常の教授内容や方法の更なる検討と研鑽を重ね、本学の建学の理念に基づき、今日の社会の要求に応じることのできる人材育成に取り組むことが重要である。授業アンケートにおいては、項目内容の改善として全授業に当てはまる項目の設定は困難ではあるものの、実習や演習、アクティブ・ラーニング、少人数の授業など授業体系に応じた項目を加えるなども今後の課題の一つである。

教員の重要な職務である研究活動の活性化のために、共同研究などの勉強会を令和 5 年度も開催していきたい。

全人教育研究センターにおける FD 研修として、令和 4 年度には鹿児島研修が予定されていた。しかしながら、令和 2 年度以来継続している新型コロナウィルス感染症への懸念が払拭されなかったため、参加予定者の健康・安全を慮って実施を見合わせた。次年度は是非とも実施に向けて注力したい。

【通信教育課程】

スクーリング科目については引き続き授業評価アンケートを実施する。令和 5 年度も対面でのスクーリングとオンラインでのスクーリングの双方が予定されていることから、それぞれのスクーリングにおける課題を明らかにするために、スクーリングの形態による比較や同一科目・同一教員の経年経過の分析などを試みたい。また、テキスト学修科目についても、学生のニーズをすくい上げることができ、なおかつ教員の指導方法や授業の改善にもつなげられる何らかの方法を検討したい。さらに ChatGPT によるレポート作成や試

験解答も考えられるので、この点の情報共有を教員間で行う予定である。

§　芸術学部

1　FD 活動への取組理念・目標

先を見通せない VUCA 社会は産業･就業構造などの変化が常に進行する。加えて、COVID-19 パンデミックによって生活様式が変様し、また、AI 技術の急速な発達は世界的に爆発的な普及が予想され、これまでの仕事の概念や人とテクノロジーの関係性を大きく変えようとしている。

このような社会に対し、高等教育の人材養成や研究の目的が社会の要求と乖離していると指摘されることがあってはならない。「芸術による社会貢献の実践力を育成する」をミッションとする芸術学部として、変化する社会の捉え方と貢献の仕方を常に検討して柔軟に対応していく必要がある。芸術分野は新産業分野でも期待される感性や創造力などの育成と深くかかわり、芸術学部の人材養成が社会の発展や改善に貢献できると確信している。

学部ミッションを達成するためには、常に芸術と産業分野とのかかわりを意識しながら、ESTEAM 教育の推進をはじめ教員養成課程の充実など、カリキュラムや教授法の改善・開発を行う必要がある。また、入学生の資質や能力などの動向も踏まえた学修支援体制の構築や、学生を主体とした授業方法の研究および総合的な学修環境を形成するプロジェクト型授業や外部機関との連携授業を推進することも重要である。そのためには多様化する社会の要請に応えうる柔軟性や機動性をもった組織として教員構成を編成しなければならない。教員たちが目標や課題を共有し、協働して教育活動を推進・改善できるチーム力形成が重要である。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

芸術学部長を中心とした主任会の構成員及び芸術学部 FD 担当が FD 活動の中核メンバーである。定期開催の主任会と主任研修会が中心となり教育課題の共有や分析を行い、目標や課題の設定および改善方策などの基本方針を検討する。そして、中核メンバーはもとより、課題ごとの担当教員が報告や成果及び方策等を拡大教授会で報告することなどを通じて、学部全教員が目標や課題を共有し、組織的な取組とする仕組みを構築している。また、各学科の主任は学部 FD の中核メンバーであるので、学科内の取組をまとめることや推進する役割を担い、教授会と学科会が連動して FD 活動を推進させている。主任会構成員および大学 FD 委員会委員は、全学的な課題や情報の収集と伝達及び他学部・他大学における FD 活動の情報収集を行うと共に、学部内の情報共有を図り、FD の組織的活動が円滑に行われる役割を担っている。

3　令和 4 年度の活動報告

（1）授業アンケートの実施と授業成果報告書の作成

① 概要・活動内容（目的を含む）

令和 4 年度は、芸術学部で開講されている授業（卒業研究など複数のゼミを同じ授業名でまとめられた科目を除く）について春学期、秋学期それぞれ期中、期末に年 4 回の授業アンケートが UNITAMA による調査方法にて実施された。調査対象とした期末段階での対象者数（延べ数）およびアンケート回答率は、春学期 5,302 人 45.9%、秋学期 4,289 人 38.6%であった。

アンケートの全体概要結果および各科目担当教員の個別アンケート結果詳細の閲覧方法を学部拡大教授会等によって専任教員に周知した。また、総合的な内容については大学のポータルサイトにて公開される。

教員の教育活動の振り返りと成果共有を目的に、ほぼ全員の学部専任教員（37 名中 35 名）と非常勤教員・実技指導員（7 名）が令和 3 年度の授業成果を文書化し、芸術学部授業成果報告書としてまとめた。250 部作成し、令和 4 年 10 月下旬に学部全専任教員、全非常勤教員、および教育学術情報図書館に配付した。授業改善と成果を文書として記録化することで長期的かつ広範に活用することが期待できる。令和 4 年度も引き続き授業成果報告書を作成している。

② 到達目標

芸術学部 FD 委員会においては、授業アンケートのデータを分析し、学部運営に活かすと共に今後の FD 活動の方向性および学部教育を考える手がかりとする。また、各科目担当者はそれぞれのアンケート結果を参照し、授業の内容と養成人材像との妥当性について点検する。授業成果報告書は各学科の専任・非常勤教員に配付し、全ての教員が専門科目の概要を把握することによって、より緊密な連携を可能とする。

③ 評価

UNITAMA による授業アンケートは個別に結果を確認でき、教員自身が自分の担当する科目を客観的に評価することができるようになった。問題点としてはアンケートに対する回答率の低さがある（春学期 45.9%、秋学期 38.6%）。対面授業に移行したが、前年度までの遠隔授業の影響がアンケート回答率の低下に関係していると考えられる。特に秋学期に回答率が下がったのは、1 年生の意識低下が大きいと考えられる。

（2）講演会・研修会・ワークショップなど

① 概要

ソルボンヌ大学　パスカル，ウェーバー准教授による特別講演および情報交換会

② 到達目標

ジャンルを融合するアート表現、多様な表現の理解、教育活動への貢献の知見を広めるとともに、芸術学部全体としての国際交流活動に関する意識を深める。

③ 活動内容

アーティスト・イン・レジデンスの一環として招聘したパスカル，ウェーバー准教授のアート活動を解説していただき、学部教員と意見を交換する。

④ 評価

本研修には、専任教員ほぼ全員が参加した。拡大教授会の後の限られた時間であり通訳の時間も含まれるので、時間的にかなりコンパクトなものとなってしまったが、招聘アーティストから直接話を聞く機会によって、学部全体の国際交流活動イメージの共有として有効であった。事後アンケート（自由記述）から、国際交流活動に対する前向きな意見のほか、ウェーバー准教授の活動に対する興味、芸術学部の研究のあり方や、招聘を受け入れるに当たっての問題点、FD 研修会に対する要望など広く意見を得ることができた。

（3）調査・研究など

① 概要

新学科体制に伴うコース説明会、情報交換会

② 到達目標

新年度を迎えるにあたり、授業運営や方針などを確認しながら、各授業の実施方法や教育の課題点などについて教員間が持つ情報を交換し合い、各自の授業実施に活かしていく手立てとする。

③ 活動内容

アート・デザイン学科（美術・工芸コースのみ）、メディア・デザイン学科の専任・非常勤教員に案内し、任意参加で Zoom により 2 時間程度の情報交換会を実施した（令和 4 年 3 月 30 日）。教務的な連絡事項の確認、それぞれが抱える問題点の報告や実際の授業運営の工夫などについて情報交換・質疑応答を行なった。

セクション 1、2 に分けて実施した。セクション 1 では、既連絡事項の確認、新規連絡事項の伝達をはじめ、見落としやすい情報や注意点を取り上げた。特に、事前に取り上げてほしい事項の募集もし、それらに対する回答も行った。セクション 2 では、質疑応答の時間を設け、発言しやすい環境にした。

非常勤教員全員が参加するのは難しいため、出席は任意とし、オンライン会議への出入りも自由とした。

④ 評価

令和 3 年度は 4 月に実施したが、今年度は 3 月中に実施できたため、特に非常勤教員は始業前に余裕をもって授業準備に取り組めたようである。令和 3 年度に引き続き、COVID-19 対策を意識し、教室環境や受講者数に合わせ、授業内容の調整を図ることができた。また、セクション 2 では、対面授業とハイブリッド型授業に関するお互いの授業の工夫を紹介する場面も見られ、他の授業様子の情報交換の機会となり、不安解消にもつながったようである。

今回は、令和 3 年度の実施からのリクエストによりこの FD 活動を実施した。完全対面授業の再開に伴い、コロナ禍とは異なった問題が発生しやすい状況にあるため、非常勤教員からの要望の有無に関わらず、情報伝達および情報交換会は、今後も必要である。しかしながら継続するにあたって形骸化や強制感の抱きやすさに留意し、準備にあたっていきたい。

（4）学外セミナー等への教員派遣

1）

① 概要

全国の小、中、高、特別支援校、大学の音楽科教育に関わる指導者の情報交換会

② 到達目標

ICT 活用、鑑賞教育、他分野との教育融合などについて、他大学また他校種の教員また教諭と意見交換を行い、現状の問題点を把握し、今後の大学に於ける音楽教育授業の実施に活かす方向性を見出す手立てとする。

③ 活動内容

全国大会初日は各校種毎に研究発表が行われた。大学部会は 5 名の発表者（武蔵野音楽大学付属音楽教室講師、中国・西華大学助教、愛知教育大学助教、東京藝術大学博士課程 2 年生、玉川大学芸術学部音楽学科准教授）がそれぞれの立場で発表を行い、その後質疑応答を実施し、充実した時間となった。午後は、「コロナ禍での音楽教育活動から探る授業改善の展望」と題して、高等学校教諭 1 名を含む各音楽大学教員によるパネルディスカッションが行われた。2 日目は山口県の小、中、高、特別支援の各校種の教諭との意見交換会が行われた。各校種がコロナ禍で苦労した点など様々な情報を入手する機会となった。

玉川大学からは、発表者の渡辺明子先生他、小佐野圭先生、露崎義矢助手、坂田晶技術指導員及び中村が参加した（一部計画時から派遣者変更）。

④ 評価

令和元年度に開催された東京大会以後コロナ感染防止のため中止されていたが、令和 4 年度は 3 年ぶりに開催された。今年の大学部会は ICT の活用方法、またハンス・ライグラフのピアノ教育法についての考察、ソーシャル・キャピタル論に基づく音楽活動の活性化に関する展望など、コロナ禍を経て新たなる試みを考える内容が盛り込まれており、大変有意義なものであった。次年度は東京藝術大学で行われる大学部会に期待したい。

２）

① 概要

（株）インターアドミッション社が主催する音楽大学の説明会　本年度も昨年同様、全国から 10 校が参加

② 到達目標

全国の高校生、保証人及び教師に向けた玉川大学芸術学部音楽学科の教育目標、教育施設の周知。

② 活動内容

朝日ホール（有楽町駅マリオン 12 階）を使用して各校 20 分のプレゼンテーションによる大学説明及び階下のコンベンションホール説明ブースでの個人対応説明会が開催された。プレゼンテーションは津島圭佑先生のピアノ演奏後、PowerPoint による大学説明を中村が行った。相談ブースでは長裕二先生、渡辺明子先生、野本由紀夫先生、松川儒先生に加え入試広報課の鷲見氏が参加し、来場者個々の質問に対応した。

⑤ 評価

本年度は質問ブースに来られる人数が極端に少なかった。これは玉川大学だけではなく他大学も同様であった。その中で洗足学園大学のみ多くの質問者を集めていた。ミュージカルコースを始め玉川大学と同様のコースを備える洗足学園大学の大学案内、施設設備の充実が印象的であったとともに今後の玉川大学の授業運営を考える良い機会となった。

来場者は中学生が保証人と共に訪れているケースが今年は多く見受けられた。他大学の動向また、大学決定の低年齢化など現状を知る良い機会となった。玉川大学とし

て評価できるところは、大学案内のはけ数は他大学に比べて一番多かったところである。今後は第一志望として選ばれる教育内容の充実を考えていく必要性を感じている。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

昨年度に提案した令和 4 年度 FD 活動計画はほぼ達成することができたが、コロナ禍の影響により予定されていた研究会などが中止となり、また国内外への出張も制限されたことから、いくつかの活動ができなかった。結果、予算として組まれた経費が未執行となった。次年度に向けて新たな FD の取り組みの方法を再度検討することとしたい。

実施された各 FD 活動に関しては逐次、芸術学部拡大教授会により報告された。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

令和 3 年 4 月から芸術学部は学部改組が行われ、音楽学科、アート・デザイン学科、演劇・舞踊学科が新たな 3 学科としてスタートした。STREAM Hall 2019、Consilience Hall 2020 での授業も開始され、新しい教育環境も整った。新採用教員も増え新旧教員間の連携や情報の共有化、新しい施設の有効活用が重要となってくる。

令和 5 年度は昨年度から引き続き対面授業が基本となる予定だが、今後のコロナウイルス感染の状況は予断を許さず、授業運営はこれからも柔軟な対応が求められる。これまでの遠隔授業の成果と課題をもとに、経験を生かして新たな教育方法を構築することが重要である。

今後も、専任、非常勤教員全体の意識向上や新規教育施設での新しい教育活動に向けて各学科の取り組みや各プロジェクトの横断的な学部を越えた連携はもとより、社会との連携を図り、理論と実践の往還による教育体制を推進し、現代ニーズに適合した人材養成機関と研究機関としての機能を高めるためにも、積極的かつ継続的に教員の資質能力やチーム力の向上努力を一層推進する。

§　リベラルアーツ学部

1　FD 活動への取組理念・目標

本学部では、①学士課程教育の質保証、②学部・学科設置の趣旨と教育目標、③実効的なリベラルアーツ教育の実現、という観点から日頃の教育研究活動の改善へ向けた FD 活動を展開することを目標としている。

2　学部における FD 活動の組織構成と役割

本学部における FD 活動の組織構成・役割は以下の通りである。

学部長・各主任…学部における FD 活動の方針について提案・助言する。

FD 担当…学部における FD 活動全般をコーディネートする。また大学 FD 委員会で審議・報告された内容を教授会にて報告する。
学部専任教員対象の FD 研修会をコーディネートする。

※この他、所属教員全員が主体的に FD 活動に取り組む体制がとられており、教育内容・方法に関する情報交換は教員間で日常的に行われている。

3　令和 4 年度の活動内容

（1）初年次教育の方向性に関する研修

① 概要（目的を含む）

リベラルアーツ学部の人材育成に資する、より効果的な 1 年次研修・初年次教育を実践するために、今年度の実施結果を共有し、その振り返りをもとに次年度以降の 1 年次研修の具体的プランを検討する。また、研修と連動した初年次教育のあり方についても意見交換を行う。

② 到達目標

次年度以降の 1 年次研修および初年次教育カリキュラムを改善することができる。

③ 活動内容

4 月～翌 3 月に実施した。参加者は 1 年生担任教員で、必要な回には各主任が参加した。具体的には以下の各項目について検討を行った。

・一年次セミナーのクラス運営と学修・生活に関する早い段階での教育および指導・支援方法
・新入生研修代替プロジェクトの内容と指導方法
・次年度以降の新入生研修の内容と実施方法
・秋学期「一年次セミナー102」の内容と指導方法

④ 評価

入学まもない 1 年生が大学での学修に慣れ、自発的な個々の学びを着実に計画・実践していくために、「一年次セミナー」で提供すべき内容について担任教員を中心として丁寧な議論を重ね、1 年生の指導とサポートをきめ細かく行うことができた。コスモス祭学部展などの発表の場を「一年次セミナー」で活用し、学部内の教員と学生のコミュニケーションを促進し、本学部の多様な学問分野についての知識を得、それを学内外へ発信することによって、大学での対面機会が限られていた 1 年生の学部所属意識を高めることにもつながった。以上のように、今年度においても、効果的な初年

次教育カリキュラムを整えることができた。

（２）「二年次セミナー」の教育内容と方法の改善に関する研修

① 概要（目的を含む）

本学部 2 年生必修科目「二年次セミナー201」および「二年次セミナー202」の教育内容と教育方法を検討し、望ましい 2 年次教育のあり方を考える。

② 到達目標

この科目の教育内容・方法を具体的に改善することができる。

③ 活動内容

春・秋学期中に 2 年生クラス担任会を開催し、「二年次セミナー」の教育内容・方法を改善するためディスカッションを行った。今年度は以下の点を中心に検討を行った。

・アカデミックリーディングおよび要約、ディスカッションのさらなるスキルアップの方法
・学部での 3 年生以降のより専門的な学びに向けた指導方法
・学内にとどまらない多様な学びや経験に触れるための情報提供のあり方、特に海外留学やキャリアプランニングについて

④ 評価

2 年次教育のあり方に関して教員間で問題意識を共有し、実際の教育内容と方法の改善を進めることができた。コスモス祭学部展を活用して、「二年次セミナー」春学期での学修内容の整理と補足、プレゼンテーションをグループワークで実施し、学修をさらに発展することができた。

（３）令和 4 年度リベラルアーツ学部 FD 研修会

① 概要（目的を含む）

リベラルアーツ学部教育活動の点検、本学部共同研究報告、新年度教育計画、学部教育の今後の展望に関する意見交換等を行う。学部教育目標や教育内容・方法、研究活動のあり方について教職員間で認識を共有することができる。

② 活動内容

今年度は以下のように 3 回に分けて実施した。

⑴令和 4 年 10 月 20 日（木）17:30～19:00 玉川大学 大学研究室棟 B104 会議室にて専任教員による研修会を実施し、学生によるレポート等の剽窃・盗用を含めたアカデミックマナー違反について、情報の共有および今後の対策の検討をおこなった。

⑵令和 5 年 1 月 12 日（木）17:00～18:30 玉川大学 1 号館 405 教室にて専任教員による研修会を実施し、以下のプログラムを実施した。

（ア）学生によるレポート等の盗用・剽窃防止について
（イ）令和 5 年度「リベラルアーツ総合研究」について
（ウ）令和 5 年度「一年次セミナー」「二年次セミナー」「アカデミック・スキルズ」について

⑶令和 5 年 2 月 21 日（火）10:00～16:30 玉川大学 大学教育棟 2014 519 教室にて専任教員による研修会を実施し、以下のプログラムを実施した。

（ア）令和 5 年度以降の新カリキュラムについて
（イ）「障がい学生支援理解・啓発セミナー」の視聴
（ウ）盗用・剽窃防止について
（エ）令和 5 年度「一年次セミナー」「二年次セミナー」「学際アカデミック・スキルズ」について

③　評価

今年度は年度初めの計画よりも実施回数を増やして行うことで、学生のアカデミックマナーや新カリキュラムについて昨年度よりも活発な意見交換がなされ、今後の教育方針や体制についてさらなる検討を進めることができた。

（5）リベラルアーツ学部防災訓練

① 概要（目的を含む）

大学教育棟 2014 等の防火施設、避難誘導方法等について、実践的に学ぶ。

② 到達目標

教育・研究現場において、災害発生時の迅速かつ的確な対処ができるようになる。

③ 活動内容

令和 4 年 7 月 28 日（木）玉川大学 大学教育棟 2014 の避難経路、防災設備の確認をオンライン併用で実施した。

④ 評価

リベラルアーツ学部専任教員の研究室があり、多くの授業が行われている大学教育棟 2014 での避難方法、災害時の対応について、詳細にわたり確認することができた。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

①　今年度 FD 研修会で確認された新カリキュラムの理念に基づき、令和 5 年度の開始に向けて、具体的運用等についてもさらに議論を積み重ねる。そのための場を FD 活動で提供する。初年次教育・2 年次教育に関する研修（一年・二年次セミナー担当者会議）も、この点を踏まえて展開する。

上記の予定・課題については、全体として効果的に達成することができた。

②　講習会は、防災訓練、ハラスメント講習の他、学部内で共通する問題意識にかかわる内容についての開催を検討する。

上記の予定・課題については、盗用・剽窃防止という共通の問題意識による研修会を行ったことも含めて、全体として効果的に達成することができた。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

今年度 FD 研修会で検討された新カリキュラムの実施計画に基づき、令和 5 年度の新カリキュラム実施における具体的運用の結果として明らかになる諸問題について議論を積み重ねる。そのための場を FD 活動で提供する。初年次教育・2 年次教育に関する研修（一年・二年次セミナー担当者会議）も、この点を踏まえて展開する。

防災訓練、ハラスメント講習の他、学部内で共通する問題意識にかかわる内容についての開催を検討する。

§　観光学部

１　FD 活動への取組理念・目標

観光学部では、現在における観光の意義と役割、現状と課題を的確に理解し、適切な情報収集とその分析および異文化に対する理解を基礎に、高度な英語運用力を駆使してグローバル時代の観光ビジネス、地域活性化に貢献できる人材を養成する。

目標とする人材育成にあたり、教員全員が観光学部の理念、教育目標、そして、問題意識を共有することを目標とする。

２　学部における FD 活動の組織構成と役割

観光学部長、観光学科主任、教務主任、学生主任、FD 担当教員が中心となって FD 活動を実施する。学部の担当教員と大学 FD 委員は連携して活動計画を取りまとめ、研修会などのプログラムの実施にあたる。

３　令和 4 年度の活動内容

（１）　講演会

「魅力ある観光地形成へ向けた景観の理解」

「これまでとこれからの道の駅」

実施日　：令和 4 年 7 月 28 日（木）　15：00～16：50（質疑応答含）

講　師　：国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所

前上席研究員（地域景観チーム：チームリーダー）　松田泰明氏

場　所　：オンライン（Zoom）

① 概要（目的を含む）

観光学部教員が、地域活性化の取り組みについて理解を深め、授業や研究に活かす知見を得る

② 到達目標

景観と道の駅を生かすことによる観光まちづくりの現状と課題を知る

③ 活動内容

観光まちづくりの視点から、景観と道の駅の生かし方について、意見交換を行った。

④ 評価

景観、道の駅の研究の第一人者による、活動内容や取り組み経緯を聞き、観光まちづくりへの活用と効果の知見を得られたため、参加教員から好評を得た。

（２）講演会

「古民家再生による地域活性化」

「神山町における古民家再生の取り組み」

実施日　：令和 4 年 10 月 20 日（木）　17：30～19：00（質疑応答含）

講　師　：(株)つぎと会長　金野　幸雄氏

(株)えんがわ社長　隅田　徹氏

場　所　：玉川大学・大学 1 号館　501 教室

① 概要（目的を含む）

観光学部教員が、地域活性化の取り組みについて理解を深め、授業や研究に活かす知見を得る。

② 到達目標

古民家再生による地域活性化の現状と課題を知る。

③ 活動内容

地域にて活性化推進している第一人者から、持続可能な地域社会の実現と豊かな暮らし文化の次世代への継承の想いと、古民家再生による宿泊施設の事例の紹介を伺い、意見交換を行った。

④ 評価

講演会を通じて、地域において事業を推進する第一人者から、地域における意見集約、ビジネススキームの構築、進捗経緯など、古民家再生による地域活性化の実態や事業化における課題を聞き、意見交換を行うことで、参加教員から好評を得た。

（3） 学生による授業アンケート

①概要（目的を含む）

観光学部観光学科の科目において､授業改善を目的とした授業アンケートを実施した。

②到達目標

学生の学修達成度を測り、改善点を踏まえて今後の授業運営に資する。

③活動内容

Web アンケート機能を活用して、学生を対象とした観光学部開講科目の授業アンケートを実施。データの集計結果は UNITAMA で科目担当教員が参照できる。

④評価

■回答率

令和 4 年度春学期：23.3%（対象者数：1,853 名　　回答数：431 名　※延べ数）
令和 4 年度秋学期：26.2%（対象者数：1,785 名　　回答数：467 名　※延べ数）
令和 3 年度春学期：52.7%（対象者数：1,824 名　　回答数：962 名　※延べ数）
令和 3 年度秋学期：30.4%（対象者数：1,654 名　　回答数：503 名　※延べ数）

＊春学期授業、秋学期ともにアンケート回答率が昨年より減少した。
学生の回答を促す教員からの声掛けに不足があったと思われる。

■スコア

令和 4 年度　春学期：4.1　　秋学期：4.1
令和 3 年度　春学期：4.2　　秋学期：4.1

＊令和 4 年度春学期が前年度（令和 3 年度）春学期よりも、0.1 ポイント下降した。
授業外学修が、学習時間の減少により 0.3 ポイント下降したのが主な要因である。

（4）授業参観

専任教員全員がいつでもどの教員の授業を参観できるように参観方式を変更したが、

1名の参加に留まった。

4　昨年度（令和3年度）に提案された予定・課題の達成度について

昨年度に提案された課題は、新カリキュラムが設置されることから、学部の教育力の向上をはかることと、授業アンケートの回答率の向上であった。

学部の教育力の向上については、新カリキュラム「リージョナル・リーダーコース」と「グローバル・エリートコース」の2コースが開始されたことで、本年度（令和4年度）FD活動では、「リージョナル・リーダーコース」に関連する活動（講演会）を2回実施した。

第1回講演会では、景観や道の駅の概念から実際の形成の取り組み例を学び、地域活性化の成功モデルとして海外への紹介や導入など、世界の中における評価などの知見を得ることができた。

第2回の講演会では、日本各地で展開されている古民家再生による地域活性化について、最初に専門組織を立ち上げた第一人者を招聘により実施した。地域における意見集約や事業化など、古民家再生による地域活性化についての知見を得ることができた。

学部の教育力の向上については、当初予定していたFD活動の計画を実施したことで、目標を達成したと判断する。

授業アンケートの回答率向上については、回答率の低下を招き、課題の達成には不足を残した。

5　今後（令和5年度以降）の予定・課題について

令和5年度は、学部の教育力のさらなる向上を目指すためのFD活動のさらなる充実が求められる。令和4年度同様、学部FD研修会、講演会、授業アンケートを実施する予定である。

特に授業アンケートへの回答率の向上については、客観データ分析によるFD活動の質の向上の観点からも、学部の重点課題として、積極的に取り組む予定である。

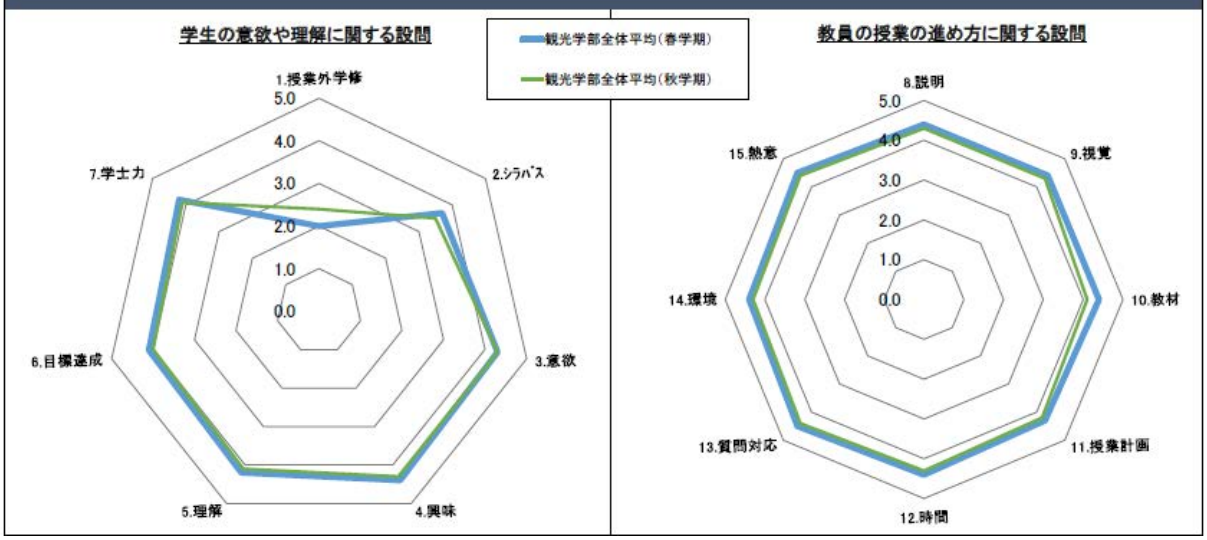
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

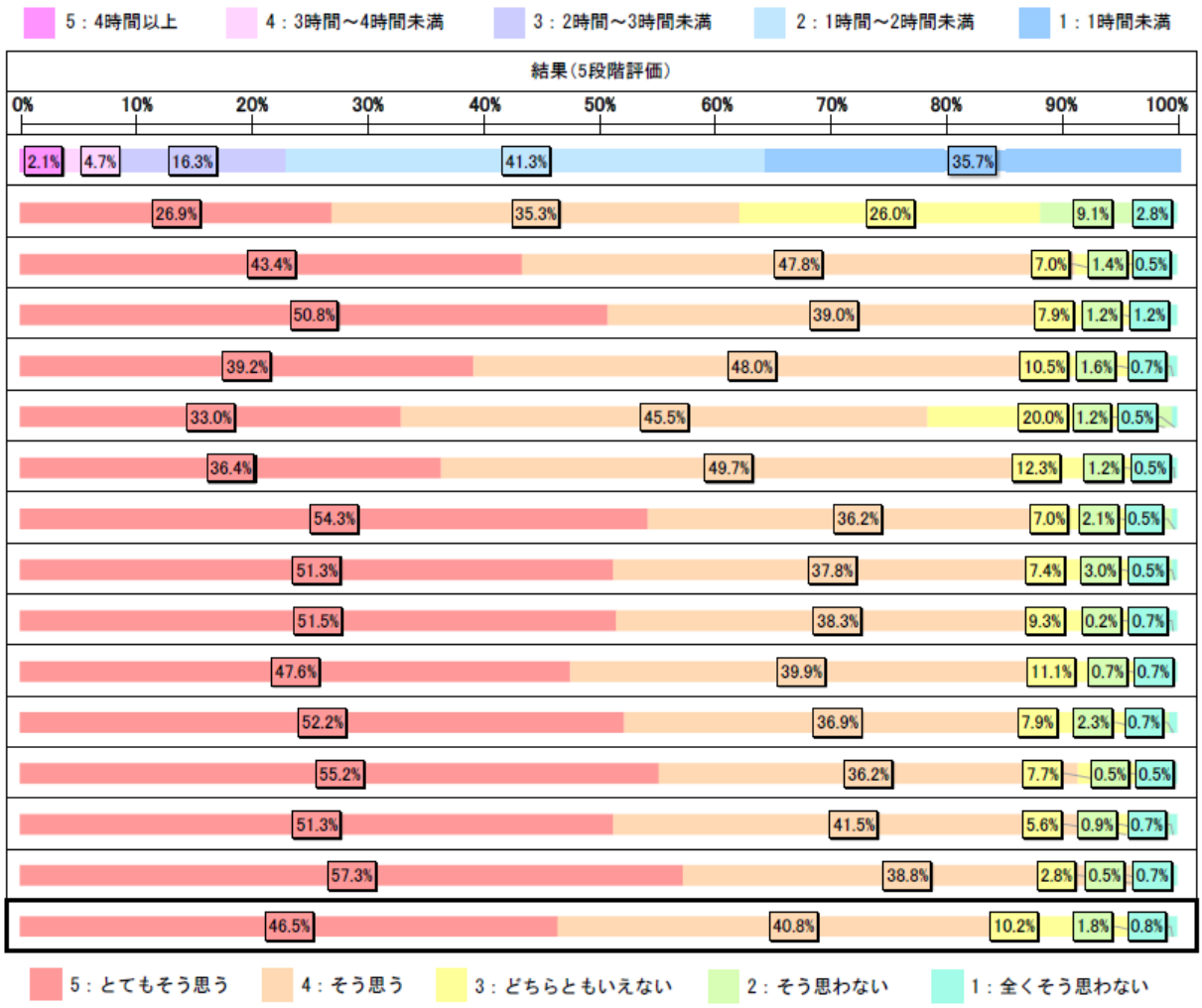
観光学部全体　　履修者数：　1,853 名　　回答者数：　431 名　　回答率：　23.3 %

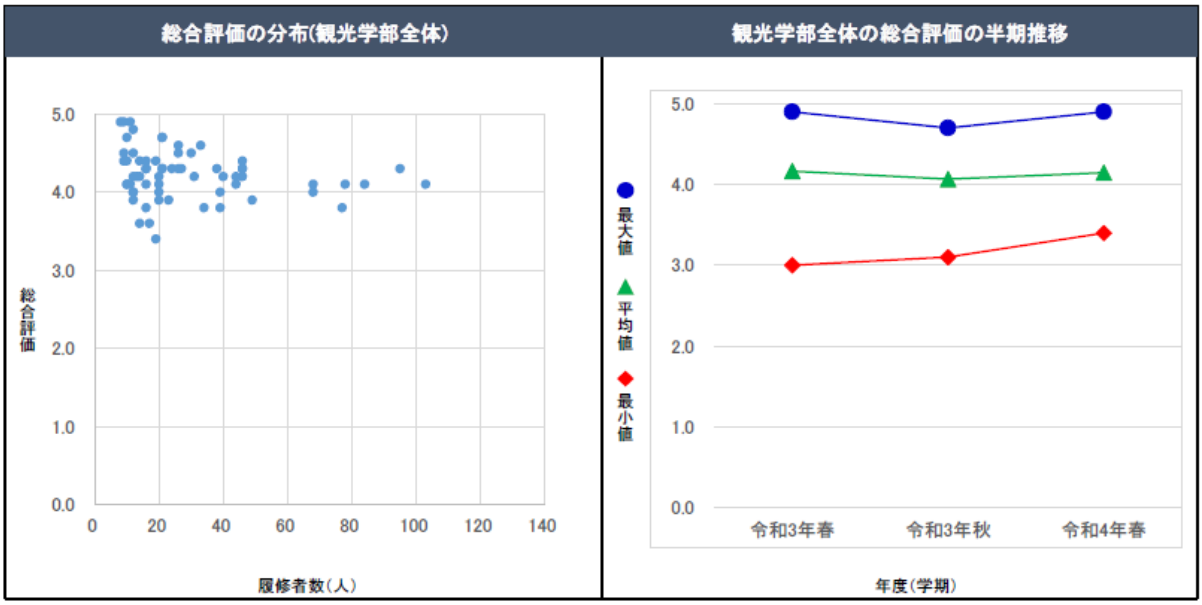
			設問	観光学部全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.4
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.2
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.1
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.2
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.4
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.4
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.4
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.3
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.4
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.5
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.4
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.5
総合評価				4.1

平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート




5：4時間以上
4：3時間～4時間未満
3：2時間～3時間未満
2：1時間～2時間未満
1：1時間未満
結果（5段階評価）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
2.1% 4.7% 16.3% 41.3% 35.7%
26.9% 35.3% 26.0% 9.1% 2.8%
43.4% 47.8% 7.0% 1.4% 0.5%
50.8% 39.0% 7.9% 1.2% 1.2%
39.2% 48.0% 10.5% 1.6% 0.7%
33.0% 45.5% 20.0% 1.2% 0.5%
36.4% 49.7% 12.3% 1.2% 0.5%
54.3% 36.2% 7.0% 2.1% 0.5%
51.3% 37.8% 7.4% 3.0% 0.5%
51.5% 38.3% 9.3% 0.2% 0.7%
47.6% 39.9% 11.1% 0.7% 0.7%
52.2% 36.9% 7.9% 2.3% 0.7%
55.2% 36.2% 7.7% 0.5% 0.5%
51.3% 41.5% 5.6% 0.9% 0.7%
57.3% 38.8% 2.8% 0.5% 0.7%
46.5% 40.8% 10.2% 1.8% 0.8%
5：とてもそう思う
4：そう思う
3：どちらともいえない
2：そう思わない
1：全くそう思わない


総合評価の分布(観光学部全体)
観光学部全体の総合評価の半期推移
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
総合評価
0
20
40
60
80
100
120
140
履修者数（人）
最大値
平均値
最小値
令和3年春
令和3年秋
令和4年春
年度（学期）

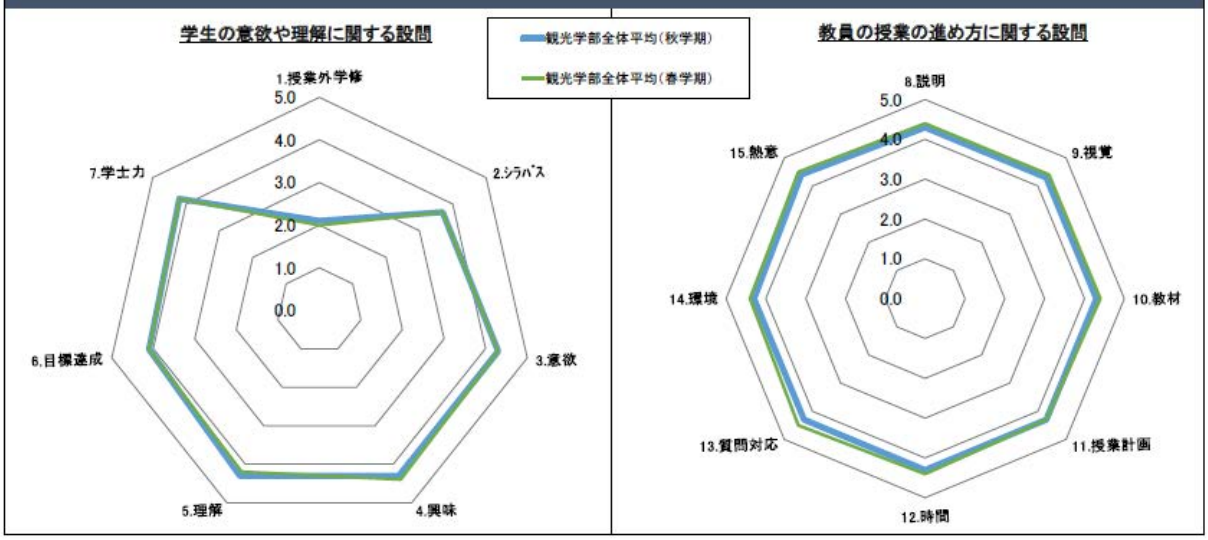
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

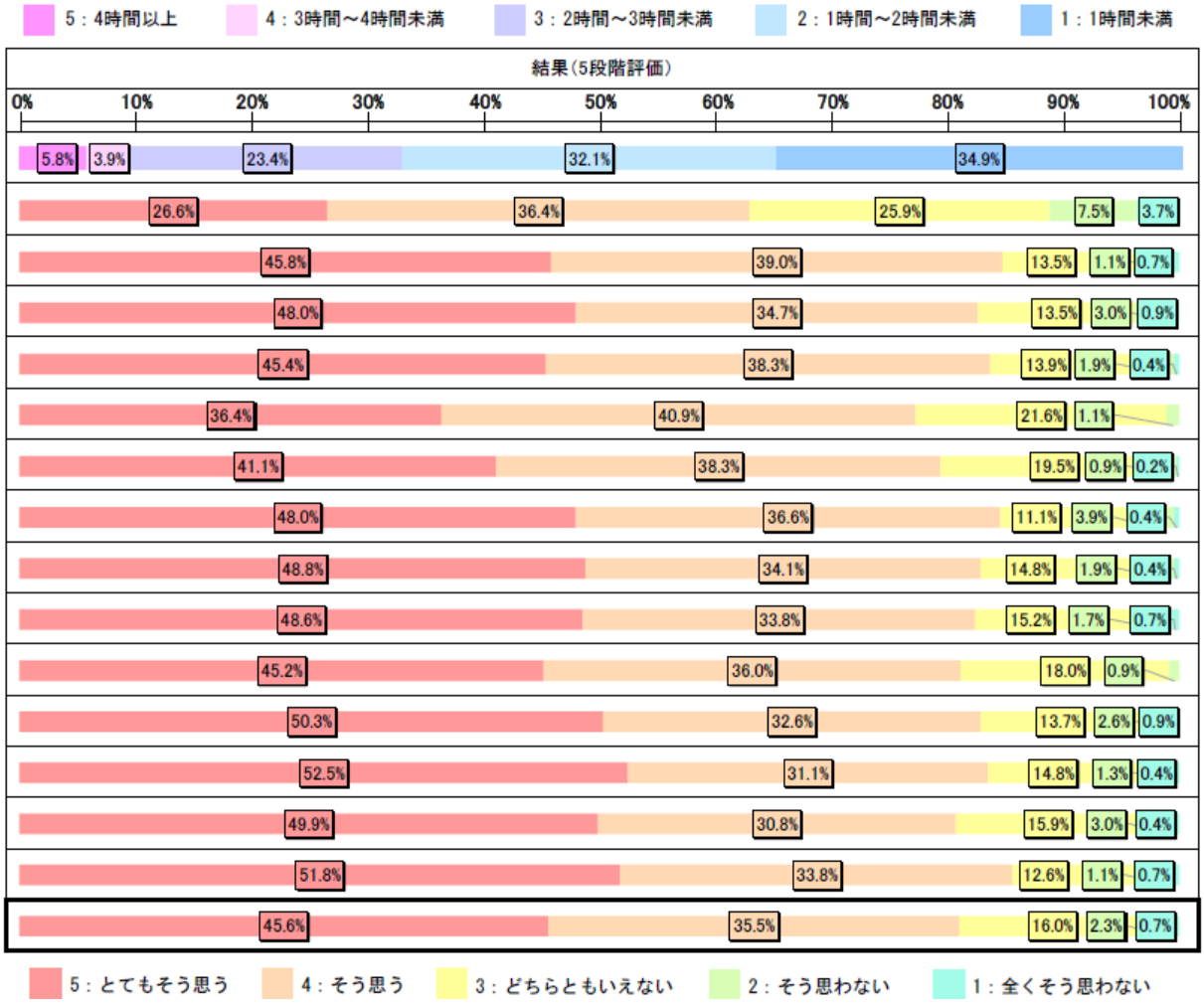
観光学部全体　　履修者数：　1,785 名　　回答者数：　467 名　　回答率：　26.2 %

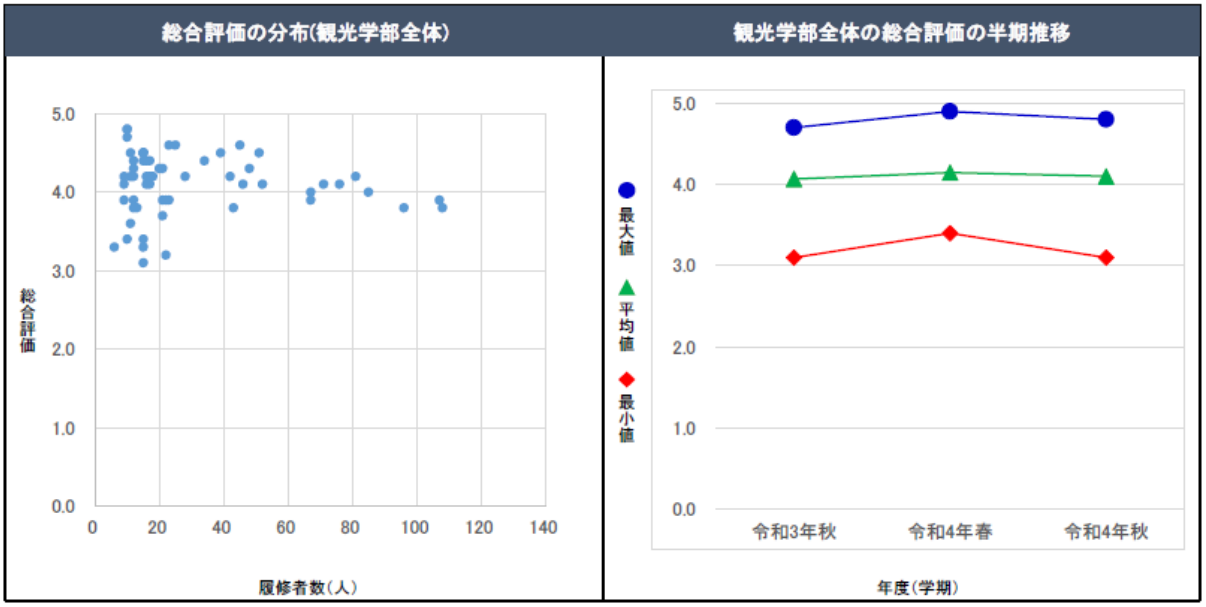
			設問	観光学部全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.3
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.3
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.1
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.2
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.3
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.3
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.3
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.3
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.3
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.3
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.3
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.4
総合評価				4.1

平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート




5：4時間以上
4：3時間～4時間未満
3：2時間～3時間未満
2：1時間～2時間未満
1：1時間未満
結果（5段階評価）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
5.8% 3.9% 23.4% 32.1% 34.9%
26.6% 36.4% 25.9% 7.5% 3.7%
45.8% 39.0% 13.5% 1.1% 0.7%
48.0% 34.7% 13.5% 3.0% 0.9%
45.4% 38.3% 13.9% 1.9% 0.4%
36.4% 40.9% 21.6% 1.1%
41.1% 38.3% 19.5% 0.9% 0.2%
48.0% 36.6% 11.1% 3.9% 0.4%
48.8% 34.1% 14.8% 1.9% 0.4%
48.6% 33.8% 15.2% 1.7% 0.7%
45.2% 36.0% 18.0% 0.9%
50.3% 32.6% 13.7% 2.6% 0.9%
52.5% 31.1% 14.8% 1.3% 0.4%
49.9% 30.8% 15.9% 3.0% 0.4%
51.8% 33.8% 12.6% 1.1% 0.7%
45.6% 35.5% 16.0% 2.3% 0.7%
5：とてもそう思う
4：そう思う
3：どちらともいえない
2：そう思わない
1：全くそう思わない


総合評価の分布(観光学部全体)
観光学部全体の総合評価の半期推移
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
総合評価
0
20
40
60
80
100
120
140
履修者数(人)
最大値
平均値
最小値
令和3年秋
令和4年春
令和4年秋
年度(学期)

３．教師教育リサーチセンターの活動

１　教職課程 FD・SD 活動への取組理念・目標

本センターは、大学における教職課程を運営するため、大学附置機関として設置された。主な業務内容としては、教職課程における学生支援と、教職に関する研究活動支援がある。研究活動支援の中には、教員養成における教職課程 FD・SD 研修も含まれており、教員養成の質を向上させることを理念・目標としている。

２　教師教育リサーチセンターにおける教職課程 FD・SD 活動の組織構成と役割

センター長、次長、課長及びリサーチフェローを中心に教職課程 FD・SD 活動を計画し、課長補佐以下職員で研修会開催の実務を担当している。

３　令和 4 年度の活動内容

（1）　教師教育フォーラム

①　概要（目的を含む）

グローバル化や情報化の進展により、教師自身も高度な専門職として新たな知識技能の習得に継続的に取り組んでいく必要が高まっている。このような社会的変化を受け、令和の日本型学校教育を実現するこれからの「新たな教師の学びの姿」として、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ主体的に学び続けること、個別最適な学びの提供や協働的な学びの機会確保が重要となってきている。そのため、教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部が改正された。なかでも、免許状の更新制が発展的解消となったことは、養成・採用・研修の一体的改革を進め、現職教員の研修にかかわってきた大学としては、大きな転換期を迎えたのではないかと思われる。

今回の教師教育フォーラムでは、今後の現職教員の研修について、今まで教員免許状更新講習において貢献してきた大学が、これからどのようなかかわりを持っていけばよいのか、「新たな教師の学びの姿」について、講演者、出席者がともに考えるフォーラムとして開催することとした。

②　到達目標

オンライン開催となり、200 名以上の出席者を目標に掲げた。

③　活動内容

日時：令和 4 年 10 月 30 日（日）9：30～15：30　於：大学教育棟 2014 より配信

テーマ：「令和の日本型学校教育」構築のための「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて

【プログラム】

午前の部

〇講演（50 分）

「令和の日本型学校教育」構築のための「新たな教師の学びの姿」とは

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長　　小幡　泰弘　氏

〇シンポジウム（90 分）

・「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた今後の研修の方向性

東京都教職員研修センター　研修部長　中嶋　富美代　氏

・「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた校内研修の実際

神奈川県藤沢市立滝の沢中学校　校長　笹原　信吾　氏

・「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した教員養成大学のかかわり方

玉川大学教師教育リサーチセンター　リサーチフェロー　森山　賢一　氏

【コーディネーター】玉川大学教師教育リサーチセンター　客員教授　　笠原　陽子　氏

午後の部

〇分科会：教職大学院

国語科教育・英語教育・社会科教育・ICT 教育

④ 評価

“「令和の日本型学校教育」における「新たな教師の学びの姿」”をキーワードとし、文部科学省総合教育政策局、東京都教職員研修センター、実際の教育現場（中学校）と、それぞれのお立場からご講演をいただいた。さらに、森山賢一教授より、「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した教員養成大学に求められる関わり方について報告があった。午後の部では、本学の教職大学院担当者による分科会を行い、国語科教育・英語教育・社会科教育、ICT 教育について、シンポジウム、講演、演習等を行い、ご参集の皆様と共に意見を交換し、考える機会を持つことができた。

新型コロナウイルス感染防止対応により、昨年度に引き続きオンライン開催となったが、近隣地域だけでなく、幅広い地域の現職教員等学校関係者、教員養成に携わる大学教職員、教員志望学生、教育研究者、教育委員会関係の方々等、教育に携わる方々にも参加して頂くことができたことは有益だった。

午前の部、午後の部を併せ、約 170 名の参加者を迎え、盛会のうちに終了した。

（2） 令和 4 年度教職課程 FD・SD 研修会

① 概要（目的を含む）

文部科学省中央教育審議会より『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（令和3年1月26日）、『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）』（令和4年12月19日）の2つの答申が示された。この答申により、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた子供の学びの姿、さらに子供を育てる教師の学びの姿が示されたことで、養成、採用、免許、研修の具体的な方向性が明確になった。今後ますます、学校現場、教育委員会、養成大学等が連携して対応することが必要とされるため、FD・SD研修会の題材として取り上げた。

② 到達目標

答申の内容を具体的に解説し、養成大学としてより質の高い教員養成を目指した今後の取り組みについて、教職員の理解を深め、これからの教育活動への意識を高める機会とする。

③ 活動内容

日　時：　令和 5 年 3 月 7 日（火）10：00～11：30

場　所：　オンライン配信（Zoom）

テーマ：　「令和の日本型学校教育」の構築に関する答申と
養成大学の今後の取り組み

大学院教育学研究科教授・教師教育リサーチセンターリサーチフェロー
森山　賢一　先生

対　象：　大学教員、事務職員

内　容（目的）：昨今の急激な社会の変化に対応する「学校教育の質向上」のため、また「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要な課題となっている。令和 4 年 12 月 19 日に示された答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方」と「教職課程の質保証と自己点検・評価」について解説していただき、文部科学省の取り組み指針等の最新情報を提供する機会とした。

④ 評価

本研修を通して、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた重要な課題となっている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現と、「『新たな教師の学びの姿』の実現と多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」の実現に向けた課題や今後の方向性等の現状を確認した。さらに、教職課程の質保証と自己点検評価について解説していただくことによって、今後の教職課程の在り方を再確認し、教員養成大学としての、これからの教育活動への意識を高める機会となった。

4　昨年度（令和 3 年度）に提案された予定・課題の達成度について

令和 4 年度の「教師教育フォーラム」及び「教職課程 FD・SD 研修会」各 1 回を開催するように計画した。計画通り実施することができ、それぞれの目標も達成することができた。

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

「教師教育フォーラム」及び「教職課程 FD・SD 研修会」各 1 回を開催するように計画したい。「教師教育フォーラム」は、引き続き「教職大学院」との共催により、大学全体としての教員養成への取組をふまえた内容で開催を予定している。

なお、独立行政法人教職員支援機構「玉川大学センター」としての研修等についても、今後は FD 活動として報告をしていきたい。

４．ELF センターの活動

1　FD・SD 活動への取組理念・目標

玉川大学の ELF センター（CELF）は、教員研修活動を通じて、教員の資質向上と遠隔教育のスキルを向上させることに重点を置いている。センターは、ELF プログラムの質を向上させるために、専任教員だけでなく非常勤講師の資質向上にも取り組んでいる。また、ELF センターにはさまざまな言語的・文化的背景を持つ 50 人以上の教員がおり、彼ら全員が協力してリンガフランカとしての英語の使用の認識が強調される言語学習環境を提供している。

CELF 教員研修（FD）は、教員のニーズに応え、遠隔教育スキルの向上を支援するために、様々な FD ワークショップ、講義、特別セミナー、ディスカッションを合計 11 回実施した。この取り組みは、最高の学修環境を提供し、英語のリンガフランカとしての理解と使用を促進することを目的としている。この報告書では、教員研修活動とその成果について説明し、令和 4 年度の CELF FD 調査の結果を公表する。また、令和 5 年度の CELF FD のいくつかの計画も提示されている。

教員研修活動は、教員にとって、互いの知識や経験から幅広く学ぶことができる有意義な機会であると捉えている。

2　ELF センターにおける FD・SD 活動の組織構成と役割

ELF センターの FD 活動の告知や内容は ELF センター会によって決められている。予算やサポート等もこの会議で審議される。FD 活動の内容が決定された後、大学 FD 担当を中心に、ELF センターの作業部会の専任教員がその企画と実施を担当する。指導法、評価、extensive reading など作業部会内にさまざまな分野に特化した教員のグループが存在し、CELF Journal, CELF Forum, CELF-ELTama Forum, CELF Orientation Meeting, Blackboard や ELF ワークショップなどの FD 活動を担当する。

3　令和 4 年度の活動内容

（１）講演会・ワークショップの開催

1)　CELF-ELTama Forum for English Language Teaching

①　概要

ELF センターは令和 4 年度も ELTama と合同で CELF-ELTama Forum for English Language Teaching を開催した。

②　達成目標

・ELF 教員が授業で活用できるリソースを共有する。
・それぞれの FD 活動において非常勤講師に参加を促す。
・学内の英語教員を集める。
・これらの活動により ELF センターと英語教育関係の学会との関係、および教員同士のつながりを強める役割を果たす。
・玉川大学卒業生の中・高の英語の教員と言語学研究者の間の情報交換の場を提供する。
・これらの活動によって ELF センターの教員が一堂に会し、より良い教育実践に関す

る考えや研究成果を共有する機会とする。
・玉川大学 ELF センターの国際共通語としての英語（ELF）教育の研究や教育法を広める。

③ 活動内容
以下のワークショップや発表大会がオンラインにより開催された。
・令和 4 年 8 月 20 日（土）13：00～16：30
CELF-ELTama Forum for English Language Teaching フォーラム

④ CELF-ELTama フォーラムの評価
新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、令和 4 年度 CELF-ELTama フォーラムはオンラインで行われ、参加者は約 50 人だった。 ELF センター所属教員の専門性を活用した研究・教育成果を発表する機会となり、その内容を共有できたという点では有意義な集いだった。今年度の発表件数は 8 件で、専任および非常勤教員のデジタル授業、オンライン読み込み戦略、ELF 理論、Extensive reading などについて充実した発表となった。

2) 講演会、CELF 特別講演会
① 概要
CELF は、定期的なワークショップに加えて、ELF および研究に関する様々なトピックについて特別なワークショップを提供している。これらのワークショップは、教師が最先端のアイデアやアプローチを現場で探求し、同僚と詳細なディスカッションやコラボレーションを行う機会を提供することを目的としている。ワークショップは、CELF の教員間で研究文化を育成し、現場の研究と教育について最新の知見を得て、学生の言語学習をサポートする最善の方法について批判的に考えることを奨励する。

② 達成目標
・ELF 教員の国際共通語としての英語（ELF）教育の研究や教育法を高める。
・ELF 教員や学内の英語教員を集める。
・それぞれの FD 活動において非常勤講師の参加を促す。
・ELF センターと英語教育関係学会との関係、および教員同士のつながりを強める役割を果たす。
・ELF センターの教員が一堂に会し、より良い教育実践に関する考えや研究成果を共有する機会とする。
・国際共通語としての英語（ELF）研究、言語政策、言語教育への応用に関する知識を深める。

③ 活動内容
1)講演会の開催
・CELF Special FD: "A New Type of English Curriculum: The Five Round System"
講演：“The Five Round System”の研修

実施日：令和 4 年 11 月 22 日（火） 17：00～18：00
講師：西村　秀之 玉川大学　教育学研究科　教職専攻（教職大学院）　准教授

・CELF Research Discussion: "Research Proposal: Exploring Identities of Part-time English language teachers in Japanese universities"
講演：Part-time teachers' identities
実施日：令和 5 年 1 月 10 日（火） 17：00～18：00
講師：茂木　悠太　ELF センター講師

（2）研究会・研修会・ワークショップなど

① 概要

・Blackboard の使い方に関しての理解を深めるワークショップや講演会を開催した。
・ELF の理念に関する講義や意見交換を実施した。

② 達成目標

・非常勤講師が Blackboard の仕組みを理解し、円滑に利用できるようになる。
・ELF の授業においてブレンド型学修（通常授業にオンラインを取り入れる学修）や自主的学修を積極的に取り入れることができるようになる。
・ELF 研究について最先端の知識を深める。
・ELF の理念について教員間で知識を深める。
・言語教育について教員間で知識を深める。

③ 活動内容

1)ワークショップ・講演会等

・CELF Modules, Blackboard, UNITAMA and Teams ワークショップ
実施日：令和 4 年 4 月 11 日（月）17：00～18：00 参加者 9 名
講師：キム，ミソ　ELF センター講師

・CELF Modules, Blackboard, UNITAMA and Teams ヘルプデスク　（2 回）
実施日：令和 4 年 9 月 26 日（月）12：30～13：30 参加者 8 名
令和 4 年 9 月 27 日（火）12：30～13：30 参加者 7 名
講師：キム，ミソ　ELF センター講師
茂木　悠太　ELF センター講師
チャイクル，ラサミ　ELF センター准教授

・成績評価 and UNITAMA ヘルプデスク　（2 回）
実施日：令和 4 年 7 月 11 日（月）12：00～13：00 参加者 20 名
令和 4 年 7 月 12 日（火）12：00～13：00 参加者 15 名
講師：キム，ミソ　ELF センター講師
茂木　悠太　ELF センター講師
チャイクル，ラサミ　ELF センター准教授

・成績評価 and UNITAMA ヘルプデスク
実施日：令和 5 年 1 月 17 日（火）12：30～13：30 参加者 11 名
講師：キム，ミソ　ELF センター講師
茂木　悠太　ELF センター講師
チャイクル，ラサミ　ELF センター准教授

・CELF Tutor FD　講演会、ワークショップ
実施日：令和 4 年 4 月 8 日（月）17：00～18：00 参加者 5 名
講師：チャイクル，ラサミ　ELF センター准教授

・CELF online tools & strategies to facilitate learning 講演会、ワークショップ
実施日：令和 4 年 4 月 18 日（月）17：00～18：00 参加者 7 名
講師：キム，ミソ　ELF センター講師

・CELF online tools & strategies to facilitate learning 講演会、ワークショップ
実施日：令和 4 年 10 月 25 日（火）17：00～18：00 参加者 8 名
講師：ヴィラローエル，アルド　ELF センター非常勤講師
キム，ミソ　ELF センター講師

・CELF Extensive Reading an MReader　FD　講演会、ワークショップ
実施日：令和 4 年 5 月 18 日（月）17：00～18：00 参加者 9 名
講師：ミリナー，ブレット　ELF センター准教授

・ELF FD Discussion session　講演会、ディスカッション（1 回）
実施日：令和 4 年 5 月 23 日（月）17：00～18：00 参加者 8 名
講師：レイクセンリング，アンドリュー　ELF センター准教授

④ 評価

ELF の教員は、各自の専門性を共有し、授業に直ちに適用できる実用的なワークショップに参加した。このワークショップは、常勤および非常勤教員が活発に交流することにより、ELF の理念を授業で簡単に実現することができた。Microsoft Teams の Reading Progress や Canva などの最新のツールを互いに共有し、学生の参加を容易にすることができた。ほとんどの教員が自身の授業において ELF の理念や概念をどのように活用するかを考慮していることがわかった。

（3）ELF センター教員オリエンテーション

① 概要

・ELF センター教員のオリエンテーションを実施した。これは単に学期前の教員ガイダンスという要素だけではなく、ディスカッショングループ活動などさまざまな FD 活動を含んだ内容となっている。

② 達成目標

・ELF 研究について最先端の知識を深める。
・ELF の理念について教員間で知識を深める。
・ELF クラスを効果的に運営する知識を深める。
・新 ELF プログラムに関する研修会紹介。

③ 活動内容

ELF 教員の次年度オリエンテーション

・令和 4 年度秋学期 ELF 教員の次年度オリエンテーション
実施日：令和 4 年 9 月 13 日 （水）13：00～16：00
新任非常勤講師のオリエンテーション（13：00～16：00）
講師：ELF センターオリエンテーションチーム

・令和 5 年度春学期 ELF 教員のオリエンテーション
実施日：令和 5 年 3 月 17 日（金）10：00～16：00
新任非常勤講師のオリエンテーション（10：00～12：30）
非常勤講師を含む全 ELF 教員のオリエンテーション（13：30～16：00）
講師：マクブライト，ポール　ELF センター長、鈴木　彩子 ELF センター 副センター長、ELF センター専任教員

④ 評価

秋学期開始前と次年度春学期開始前に開催された。午前のセッションでは各教員に ELF プログラム、オンラインクラス、教科書、およびカリキュラム、CELF チューター制度、クラス管理、テクノロジー指向についての情報が提供された。午後のセッションでは、プログラム説明、年間授業計画に関する説明、教員の育成、クラスの管理と評価、広範囲にわたる読書、新たな ELF のオリエンテーションに関する情報、そしてキャンパスツアーに焦点を当てた。参加者にとっては非常に有意義な機会となった。オリエンテーション後、専任教員で実施内容についての改善点を協議することにしている。

当日参加できなかった非常勤講師へは、後日別途実施するため、参加率は 100%となる。年度途中の新任講師へのオリエンテーションも実施している。

（4）学生による授業アンケート

① 概要

令和 4 年度の春・秋学期の期末に、ELF センター独自のオンライン授業アンケートを実施した。学生は授業中にスマートフォンまたはパソコンを使用してアンケートに回答するように指示された。アンケートは 18 項目あり、学生は、教科書、教授方法、Blackboard システム、TOEIC、ELF 教育に関する意識、チューター制度、多読などについて評価した。調査結果は教育プログラム策定の基礎資料となり、それぞれの教員にも自身の授業運営改善のために共有された。

② 達成目標

授業アンケート調査の目的は学生の ELF プログラムや教員の教授アプローチに対する観点や評価を得ることである。また、調査結果はそれぞれの教員に自分の教授法に対する学生の評価をフィードバックするという目的もある。

③ 活動内容

春学期授業アンケートは、1,715 名を対象に実施し評価回答を得た。

秋学期授業アンケートは、1,382 名を対象に実施し評価回答を得た。

④ 評価

これらのアンケート結果は ELF プログラムに対する評価として使用され、令和 5 年度の教育プログラム構築のために使用される。大半の学生は授業に対してとても満足しているという結果であった。令和 4 年度は授業アンケートを春学期と秋学期（年 2 回）に行い、それぞれの教員に学生からの評価を配付し、自身の指導の改善に役立ててもらう。

（5）ELF センターの出版物

ジャーナルを出版することは、ジャーナルの論文が数多く引用をされた場合、玉川大学が世界におけるランキングをアップグレードするのに役立つため、大学名を国内および国際レベルで宣伝するための重要なツールとなる。今年度から、The Center for ELF Forum オンラインジャーナルを発行した。

Englishes In Practice (EIP)

① 概要

Englishes in Practice は、2014 年にサウサンプトン大学の Centre for Global Englishes によって始められ、現在は玉川大学 Center for English as a Lingua Franca（CELF）のワーキングペーパーとして発行されている。この学術誌は、CELF の教員や他の研究者が、ELF（共通語としての英語）グローバルコミュニケーションに関する研究や探究を発表するためのプラットフォームを提供している。

② 達成目標

・先駆的研究論文をスピーディーに発信する

・教員間で高い学識を探究する。

・ELF に対する学識を共有する。

・ELF センター所属の教員に効果的な研究発表の場を設ける。

③ 活動内容

・Englishes In Practice (EIP) を出版する。

・Englishes In Practice (EIP) ELF センターのホームページにもリンクを掲載する。

④ 評価

Englishes in Practice は今後も世界各地の研究者に読まれることが期待される。

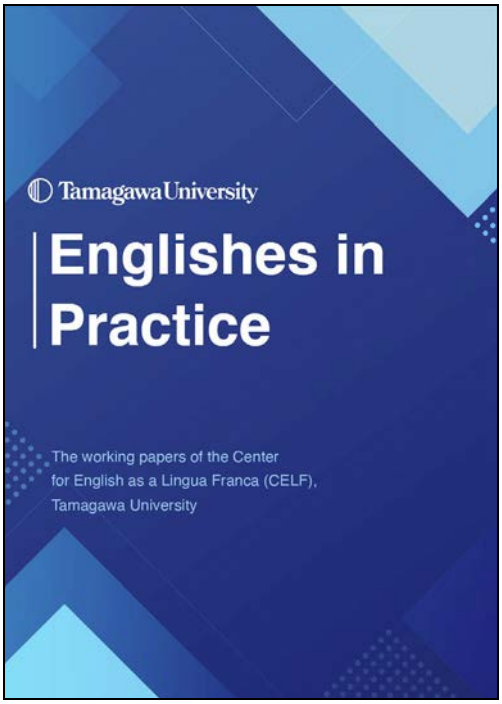


図 1. Englishes In Practice (EIP)　第 1 号

The Center for ELF Forum

① 概要

令和 4 年度、ミリナー，ブレット准教授とコーテ，トラヴィス准教授がジャーナル担当となり、The Center for ELF Forum をオンライン出版した。 ELF センターの教員全員が査読者となりそれぞれの投稿論文を審査し、The Center for ELF Forum の第 3 号を発行した。

http://www.tamagawa.ac.jp/celf/research/

② 達成目標

・授業運営を改善する。
・自発的学修についてのアイディアを共有する場を設ける。
・教員間で高い学識を探究する。
・ELF に対する学識を共有する。
・ELF センター所属の教員に効果的な FD の場を設ける。

③ 活動内容

・The Center for ELF Forum 第 3 号をオンライン発行した。また、ELF センターのホームページにも PDF 版を掲載する。さらに、教員のアカデミックポータル（academia.edu,REAP, Google Scholar, Research Gate など）にも掲載する。

④ 評価

The Center for ELF Forum は各教員に配付され、投稿者自身も満足度が高いものになった。このジャーナルをオンラインで閲覧できるようにすることで、より多くの研究者が我々の論文を手に取ることができ、他の論文にも引用されるようになると考えられる。

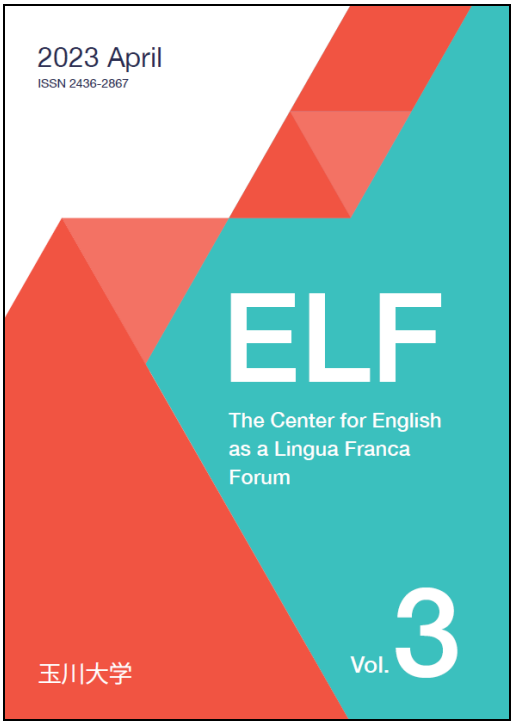


図 2. The Center for ELF Forum 第 3 号

4　今年度に提案された予定・課題の達成度について

CELF は教員に継続的な専門能力開発の機会を提供することで、教員の教育スキルを向上し、学生の成功を促進することを目標にしている。今年度の FD 活動には、英語教育、評価、研究に関連する様々なトピックを扱うワークショップやトレーニングプログラムが含まれた。これらの活動により、教員は英語教育分野の最新のトレンドや動向を把握し、学生にとって効果的で魅力的な学修環境を構築するために必要なツールやリソースを得ることができた。さらに、CELF の教員養成に取り組むことで、ELF の普及に尽力する熱心で革新的な講師のコミュニティ形成にも役立った。今年度の FD 活動は教員育成活動を通じて、教員と学生の両方をサポートし、英語教育および学修の卓越性を促進することができた。

今年度の ELF センター発刊ジャーナルでは ELF スキルや評価に焦点を当て、トレーニングや活発な研究活動について記載している。表 1 は令和 4 年度の ELF 専任教員の研究活動をまとめたものである。表 2 は令和 4 年度の CELF 専任教員の論文活動を示す。

表 1. 令和 4 年度 4 月−令和 5 年度 3 月の CELF 専任教員の研究活動

発表・出版	数
国外学会発表	21
国内学会発表	9
論文を投稿・出版	14
科学研究費助成事業	5

表 2. 令和 4 年度の CELF 専任教員の論文を投稿・出版

査読の有無	論文・著書	著者
有	Suzuki, A. (2022). University students' global citizenship development through long-term study abroad. Journal of English as a Lingua Franca, 11(1), 77-88. https://doi.org/10.1515/jelf-2022-2070	Ayako Suzuki
有	Milliner, B. (2022). Evaluating the lexical difficulty of teaching materials with NWLC. The Center for English as a Lingua Franca Forum, 2, 49-58. https://doi.org/10.15045/00001702	Brett Milliner
有	Milliner, B., & Dimoski, B. (2022). The effects of communication strategy training on speaking task performance. RELC Journal. https://doi.org/10.1177/00336882221085781	Brett Milliner & Blagoja Dimoski
有	Kuroshima S., Dimoski, B., Okada, T., Yujobo, Y. J., & Chaikul, R. (2022). Translanguaging gestures and onomatopoeia as resources for repairing the problem. The Center for English as a Lingua Franca Forum, 2, 68-86.	Kuroshima Satomi, Dimoski Blagoja, Okada Tricia, Yujobo Yuri Jody & Chaikul Rasami
無	Kim, M. (2022). Eoneoga salmi doel ttae [When languages become life]. Hangyeore.	Miso Kim
無	Kim, M. (2022). Uriui naitereul ssaaganeun sueop [A classroom for carving our growth rings]. In Fepe Lab (Ed.), Jigeum sijakaneun pyeongdeunghan gyosil [An equitable classroom that begins from right now] (pp. 137-156). Dongnyeok.	Miso Kim
有	Kim, M., & Cho, E. (2022). Lost in transition: A two-year collaborative autoethnography of South Korean doctoral students' development and identity negotiation. Journal of International Students, 12(S2), 50–67. https://doi.org/10.32674/jis.v12iS2.4338	Miso Kim & Eunhae Cho
有	Chaikul, R., & Milliner, B. (2022). 2021 Report for FD and Research in the CELF. The Center for English as a Lingua Franca Forum, 2, 100-122. https://doi.org/10.15045/00001706	Rasami Chaikul & Brett Milliner
無	Nakamura, S. (2022, April 27). #105 - Nakamura, S., Darasawang, P., & Reinders, H. (2021). A practitioner study on	Sachiko Nakamura

	the implementation of strategy instruction for boredom regulation. [Audio podcast episode]. In Lost in Citations. PodBean. https://lostinthecitations.podbean.com/e/105/	
有	Kuroshima, S., Dimoski,B., Okada,T., Yujobo,Y., & Chaikul, R. (2022).Navigating Boundaries through Knowledge: Intercultural Phenomena in ELF Interactions. Englishes in Practice, 5(1) 82-106. https://doi.org/10.2478/eip-2022-0004	Satomi Kuroshima, Blagoja Dimoski, Tricia Okada, Jody Yuri Yujobo, & Rasami Chaikul
無	Kuroshima, S. (2022). Dootei, kansatsu, kakunin sagyoo no koosei ni okeru 'miru koto' no soogokooi teki kiban. [Interactional ground of 'seeing' in identification, observation, and confirmation activities]. In Y. Makino, C. Sunakawa, and H. Tokunaga (Eds.). Interaction in the Material World: New Horizons in Language and Communication Research (pp. 150-168). Hituzi Shobo.	Satomi Kuroshima
有	Kuroshima, S. (2023). When a request turn is segmented: Managing the deontic authority via early compliance. Discourse Studies, 25(1), 114–136. https://doi.org/10.1177/14614456221136975	Satomi Kuroshima
無	Studying "abroad" online: Reflections from a Japanese university. The Journal of Tamagawa University College of Tourism and Hospitality, 9, 81-87.	Tiina Matikainen, Travis Cote
有	Mogi, Y. (2022). Changing perceptions of English among Japanese teachers in Brussels. Englishes in Practice, 5(1) 59-81. https://doi.org/10.2478/eip-2022-0003	Yuta Mogi

5　今後（令和 5 年度以降）の予定・課題について

令和 5 年度、ELF センターは専任教員、非常勤講師、兼担教員の多彩な国籍の教員陣で構成されることとなる。また、令和 5 年度からは新 ELF プログラムの導入を予定している。新たな ELF カリキュラムに対応するため、以下の項目の実施を予定している。

1. ELF センター主催 FD ワークショップの学内公開
2. Englishes in Practice および CELF Forum の出版
3. ELF の概念を生かした教授法に関する講義
4. 言語教育に関する講義や意見交換を実施する機会
5. 学会と共同で実施される英語教育に関する研究会
6. 学生や教員による授業アンケート

7. 効果的な教員オリエンテーション
8. 他大学との言語教育交換研究会
9. オンラインツールを用いた授業設計サポート
10. 新 ELF プログラムに関する研修会、ワークショップ

５．授業アンケート

１．アンケート実施概要

（１）概要

FD活動の一環として授業の改善に資するため、令和4年度春学期・秋学期の期中・期末および特別学期（サマーセッション・ウィンターセッション）において、学内ポータルサイト「UNITAMA」にて学生に対し授業アンケートを実施した。対象科目は、全科目（ユニバーシティ・スタンダード科目（US科目）、学部学科専門科目）である（ただし、一部の集中講義科目を除く）。

回答者数・履修者数（いずれも延べ数）及び回答率は次のとおりであった。

		回答者数	履修者数	回答率
春学期	期中	22,232 名	51,185 名	43.4%
	期末	22,830 名	51,433 名	44.4%
サマーセッション	Ⅰ期	68 名	319 名	21.3%
	Ⅱ期	134 名	287 名	46.7%
	Ⅲ期	106 名	200 名	53.0%
秋学期	期中	14,435 名	48,016 名	30.1%
	期末	17,925 名	49,291 名	36.4%
ウィンターセッション	Ⅰ期	110 名	249 名	44.2%
	Ⅱ期	147 名	377 名	39.0%
	Ⅲ期	65 名	170 名	38.2%

（２）実施時期

春学期…期中：5 月 30 日（月） ～ 6 月 12 日（日） ＊第 8 回授業前後
期末：7 月 11 日（月） ～ 7 月 31 日（日）
サマーセッション…Ⅰ期：8 月 10 日（水）～ 8 月 16 日（火）
Ⅱ期：9 月 1 日（木）～ 9 月 7 日（水）
Ⅲ期：9 月 16 日（金）～ 9 月 22 日（木）
秋学期…期中：11 月 8 日（火） ～ 11 月 21 日（月） ＊第 8 回授業前後
期末：1 月 10 日（火） ～ 2 月 6 日（月）
ウィンターセッション…Ⅰ期：2 月 17 日（金） ～ 2 月 23 日（木）
Ⅱ期：3 月 6 日（月） ～ 3 月 12 日（日）
Ⅲ期：3 月 23 日（木） ～ 3 月 29 日（水）
※上記期間中であれば学生は回答を修正し、再提出することができる。

（３）実施方法

「UNITAMA」の Web アンケートにて実施した。学生には事前に「UNITAMA」掲示板において周知を行った。

（４）アンケート様式

期中および US 科目（期末）、特別学期の授業アンケート様式は、参考資料３（p.128）のとおりである。学部学科専門科目（期末）の設問は、大学ホームページ内で公開されているレポートに掲載している。

２．集計結果及び公表

集計は前年度及び今後のデータの比較分析を考慮し、授業別及び次の分類別に行った。

US 科目：
US 科目全体、玉川教育・FYE 科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、
自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群
学部学科科目*：
学部全体、学科別

*一部、分類が異なる学部がある。詳細は各学部のレポートを参照のこと。

集計結果は授業担当者及び各学部にフィードバックしている。アンケート回答は各授業担当者が UNITAMA 上で随時確認でき、期中の結果においては開講中の科目の授業改善へリアルタイムに活用されている。また、期末の結果は、授業別及び分類別にレポートにまとめ、授業担当者及び各学部に提供しており、授業担当者が次学期以降の授業改善に活用するほか、各学部で結果の分析が行われたり、次年度以降のカリキュラム改善のための資料として用いられたりするなど、各学部の FD 活動のなかでも活用されている。

なお、期末の分類別のレポートは大学ホームページ内でも公表している。

https://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/u-fd/questionary/

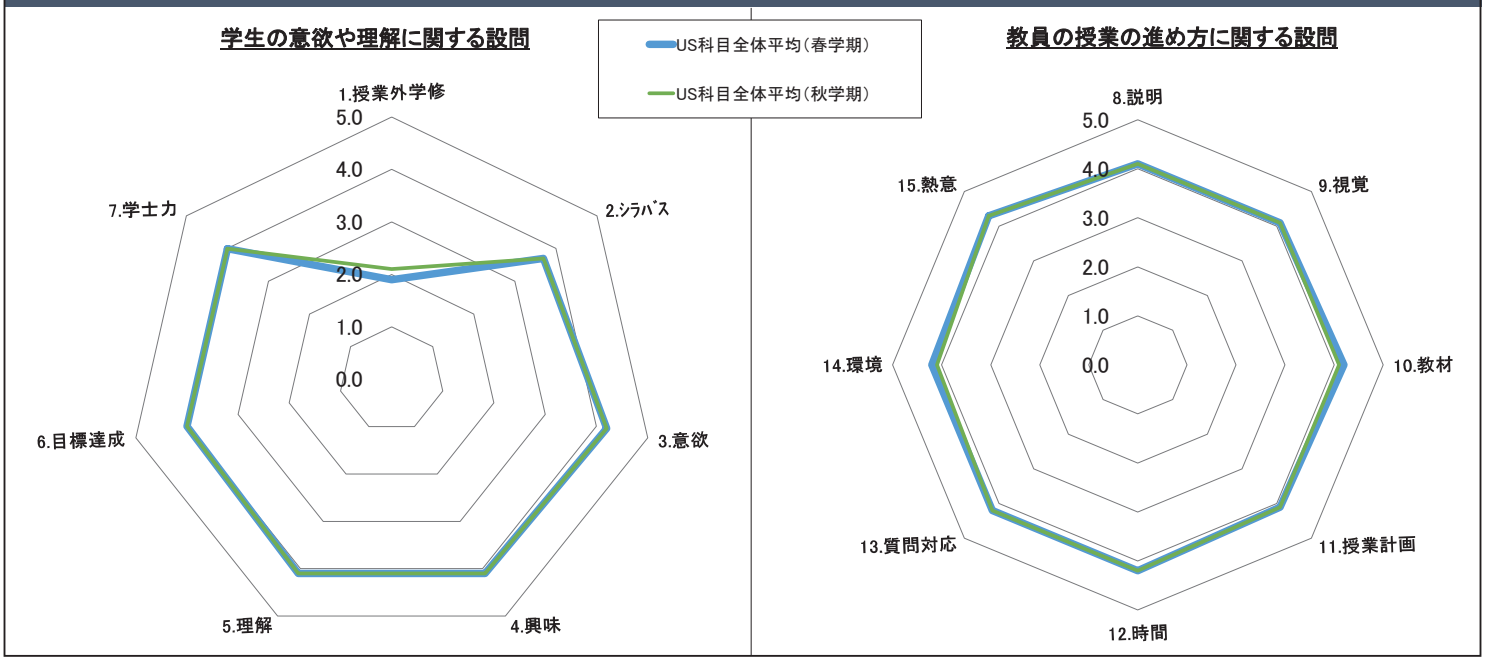
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

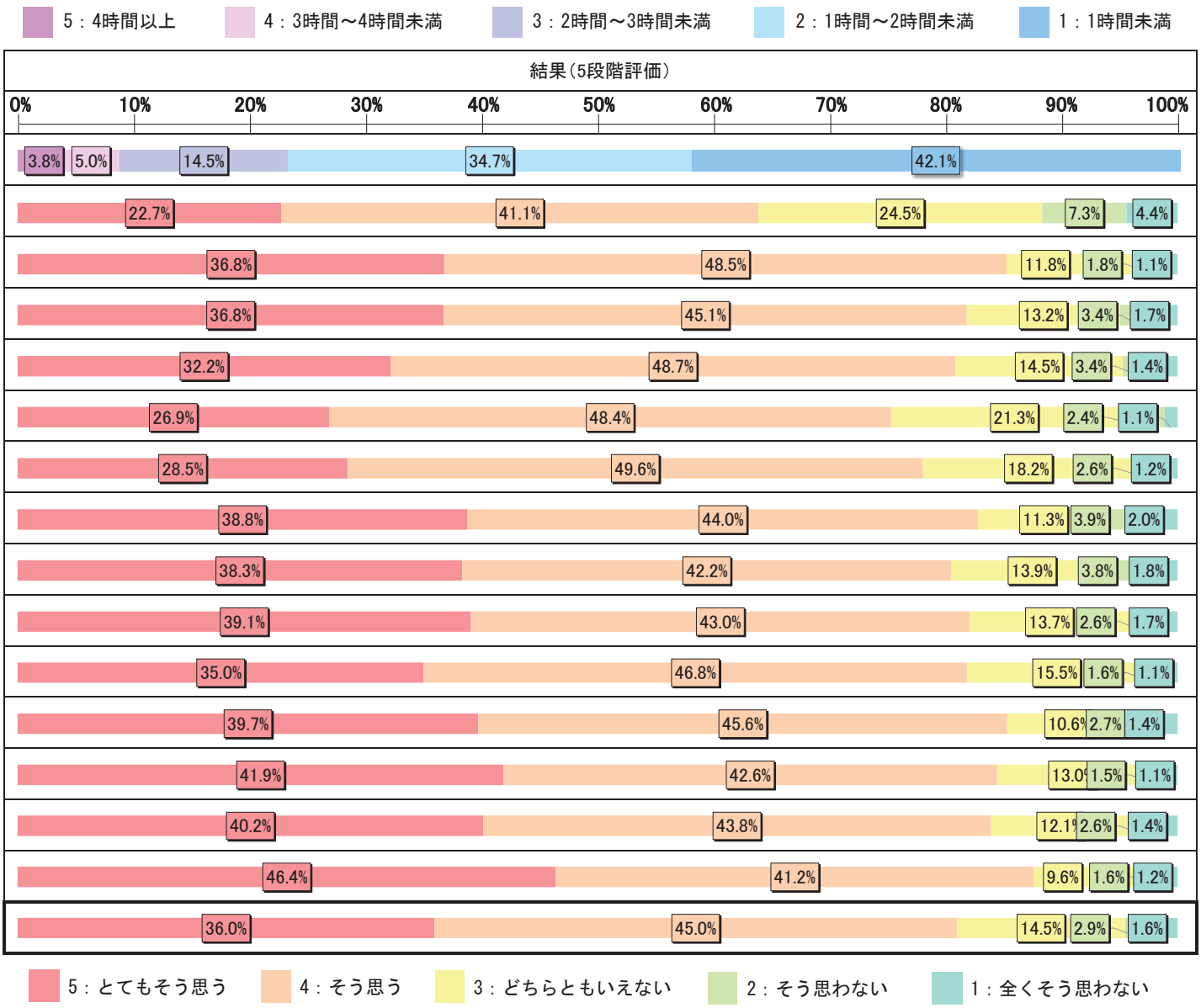
US科目全体　　履修者数： 20,052 名　　回答者数： 10,511 名　　回答率： 52.4 %

			設問	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3
総合評価				4.0

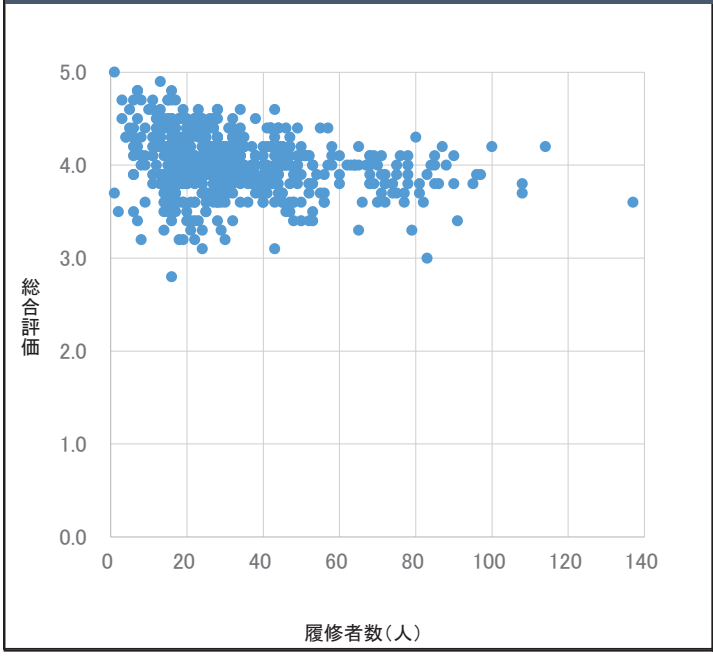
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

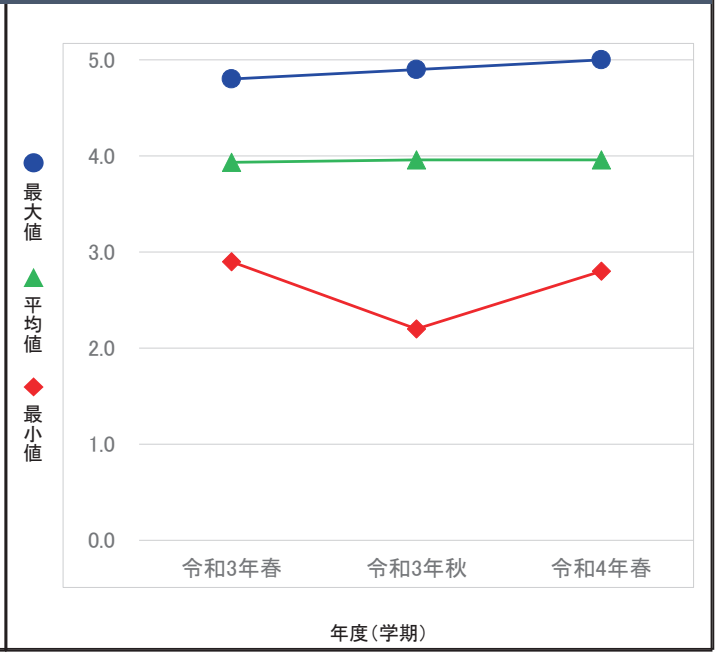




総合評価の分布(US科目全体)



US科目全体の総合評価の半期推移



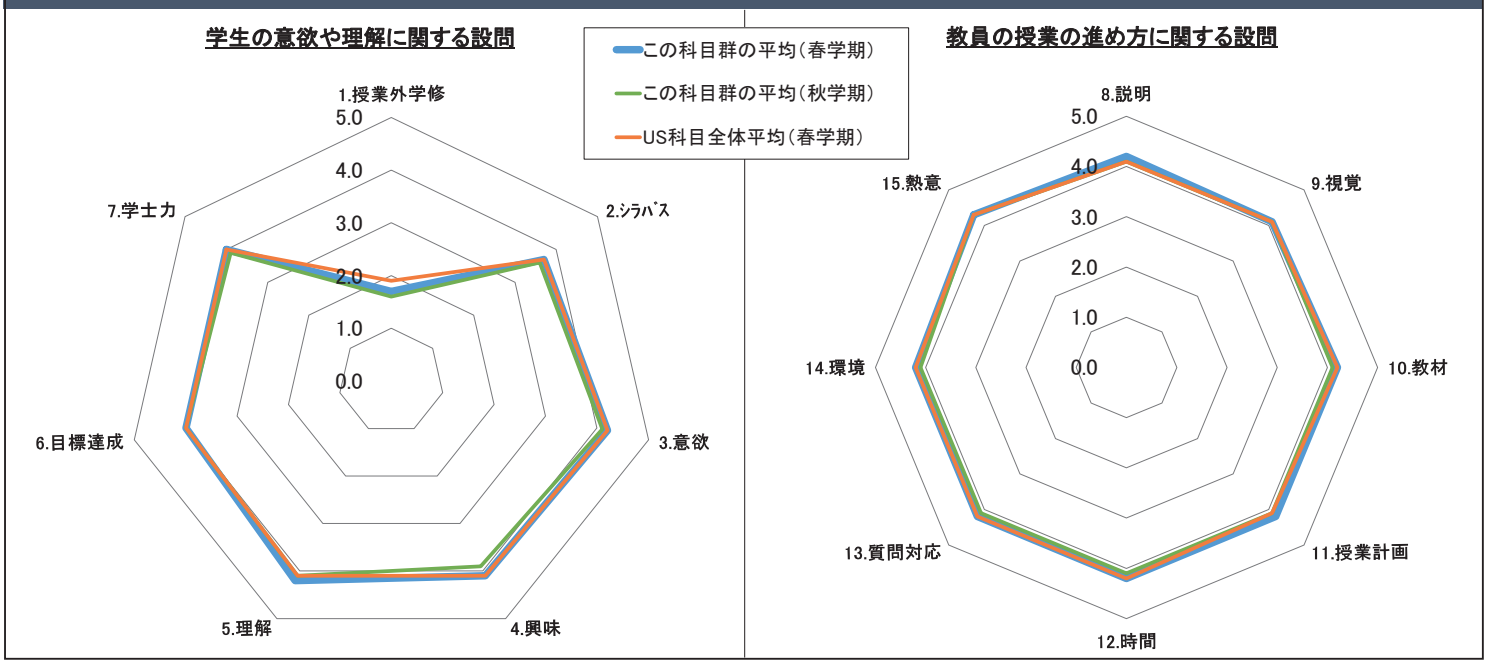
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

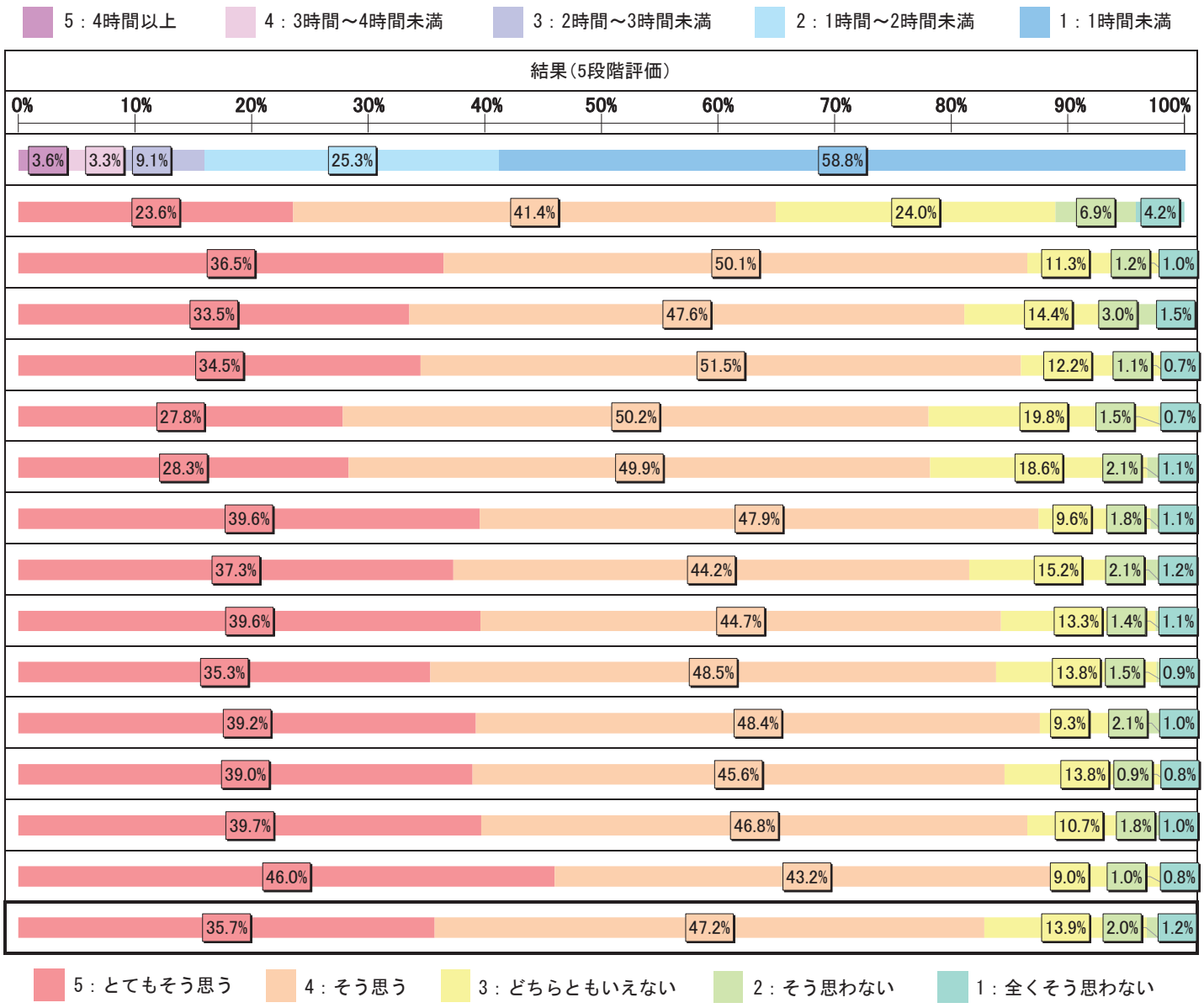
US科目　玉川教育・FYE科目群　　履修者数： 5,562 名　　回答者数： 3,382 名　　回答率： 60.8 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	1.7	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.2	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.2	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.2	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.2	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				4.0	4.0

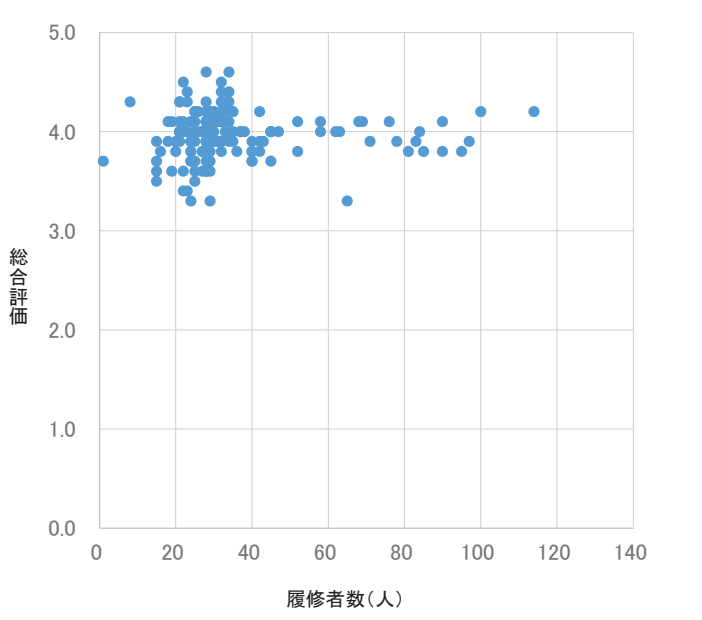
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

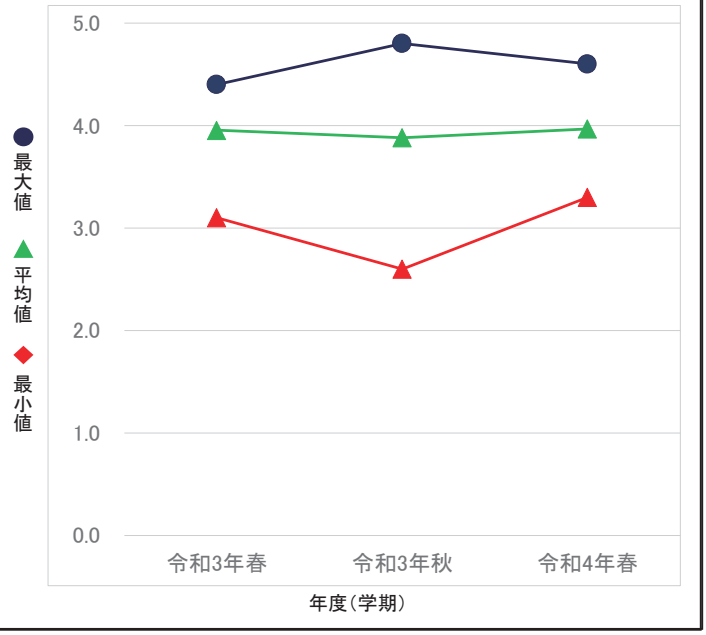




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



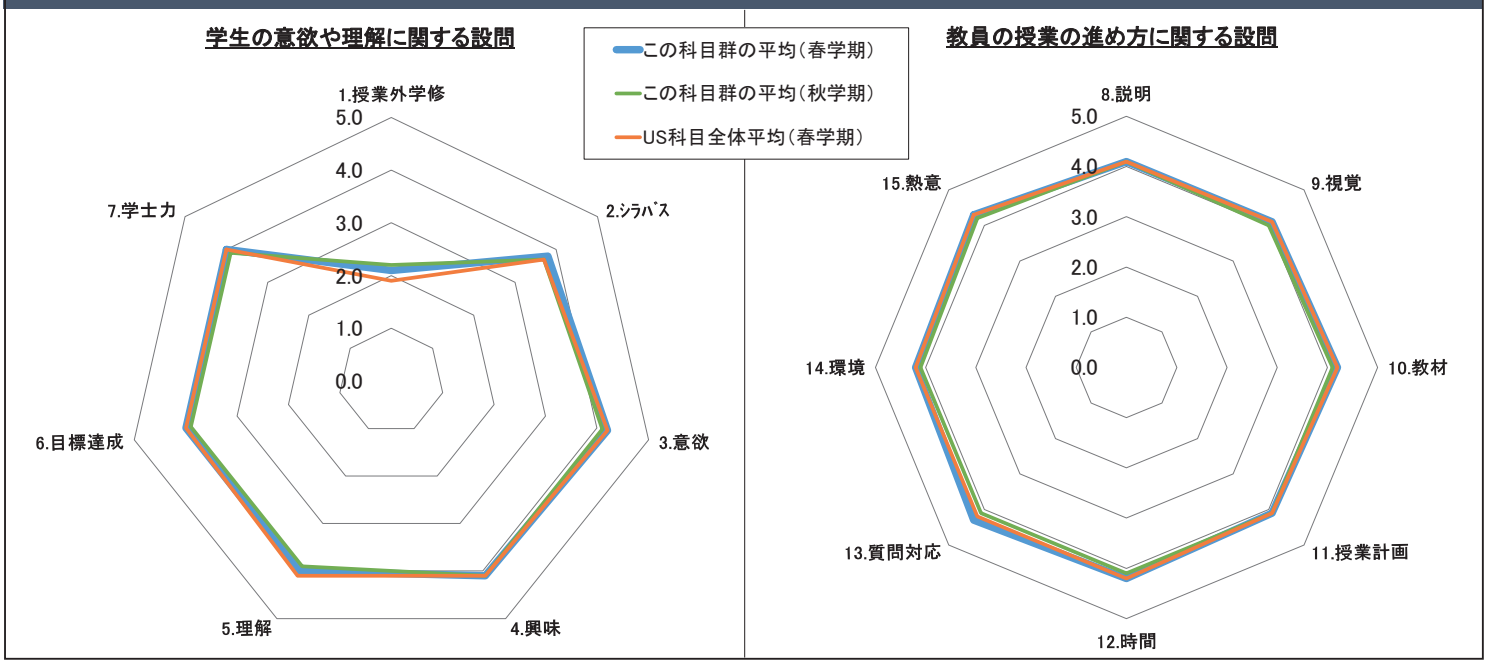
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

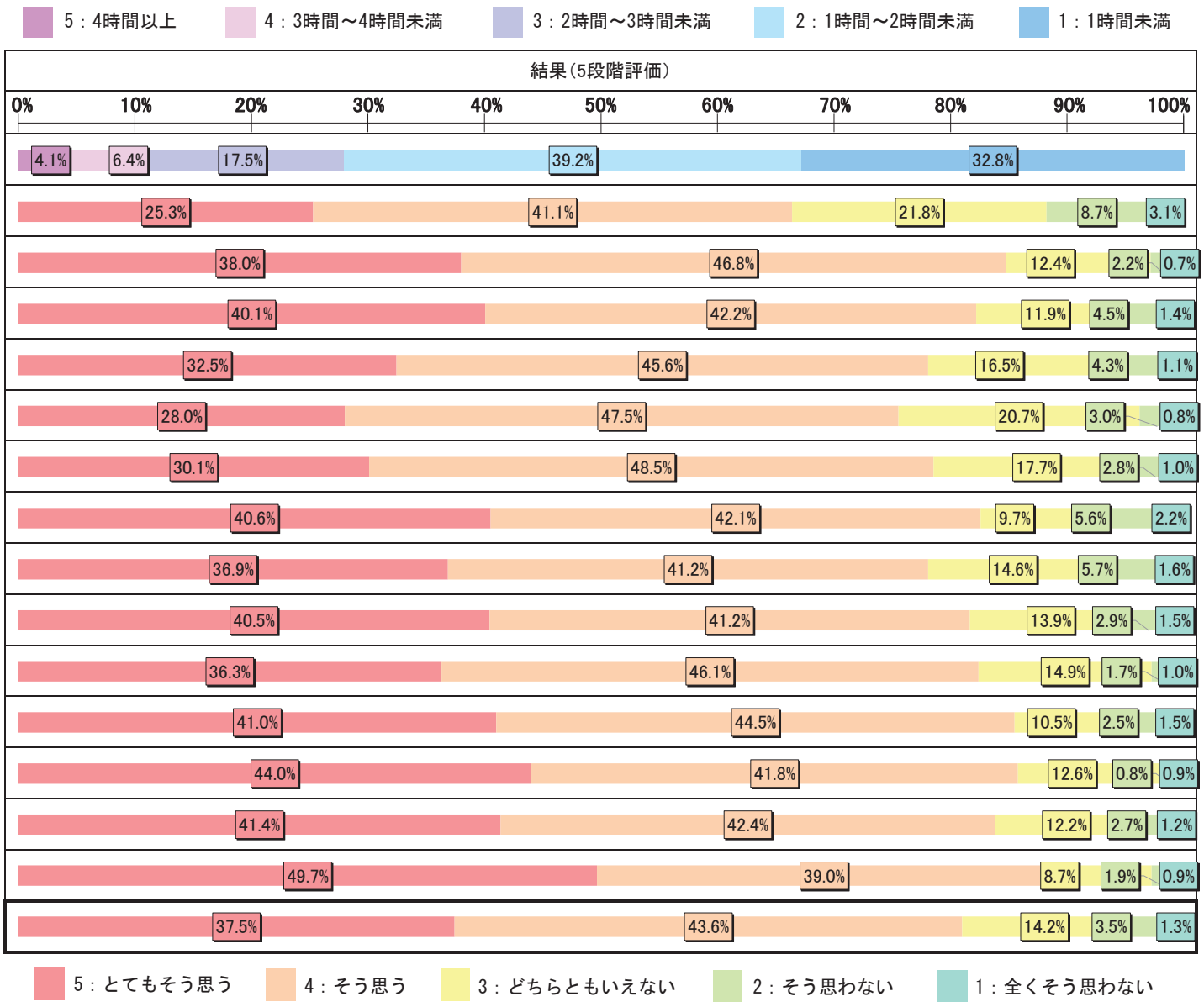
US科目　人文科学科目群　　履修者数：2,528 名　　回答者数：1,063 名　　回答率：42.0 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.8	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.2	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.3	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				4.0	4.0

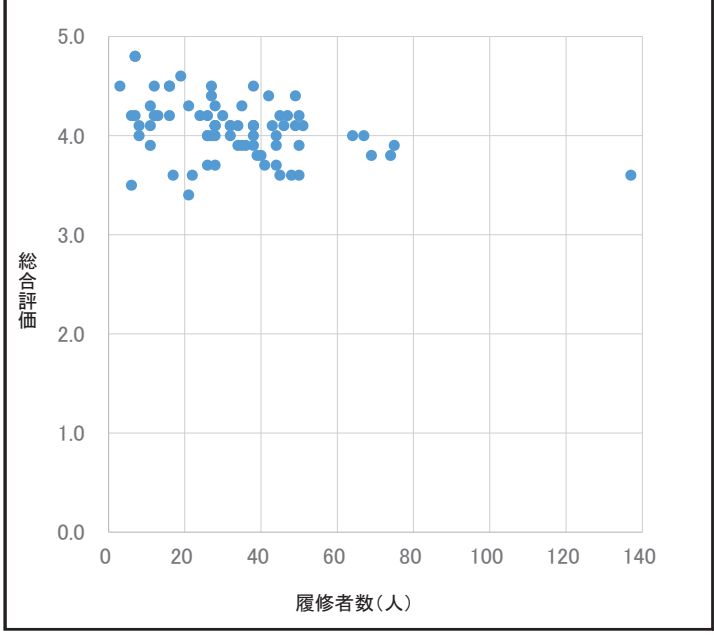
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

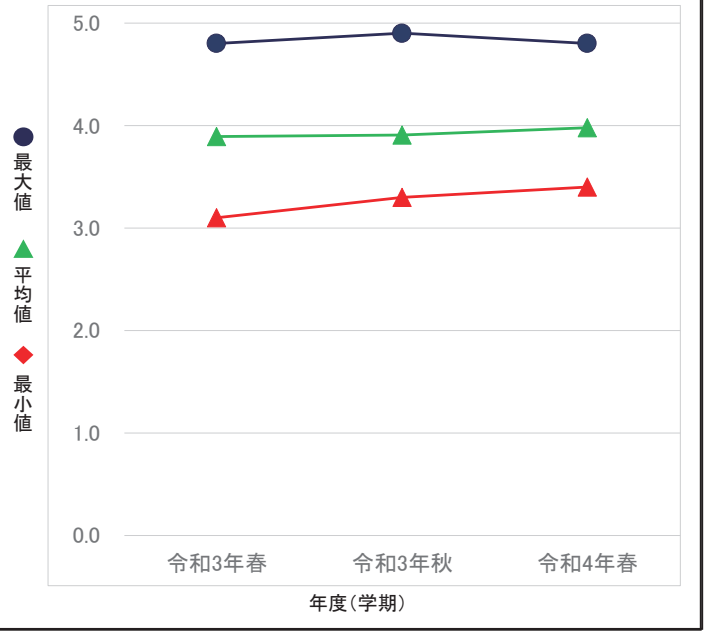




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



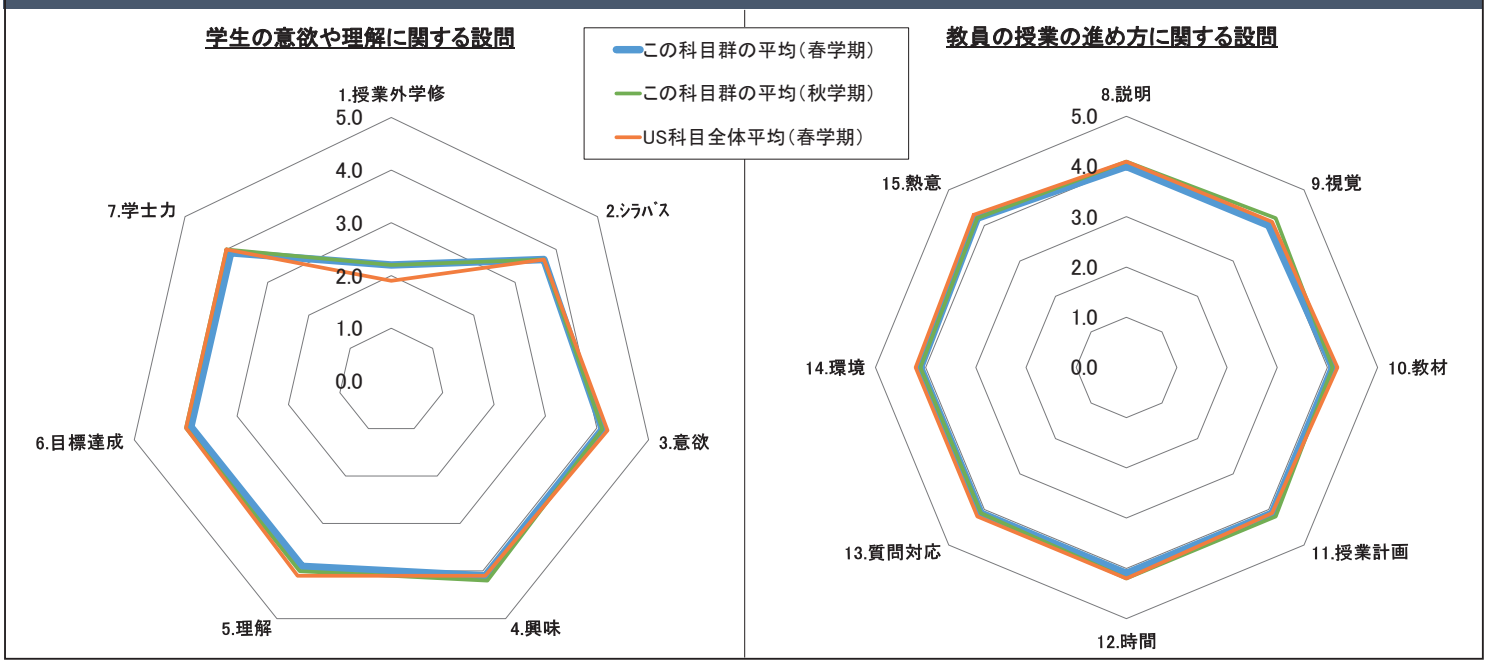
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

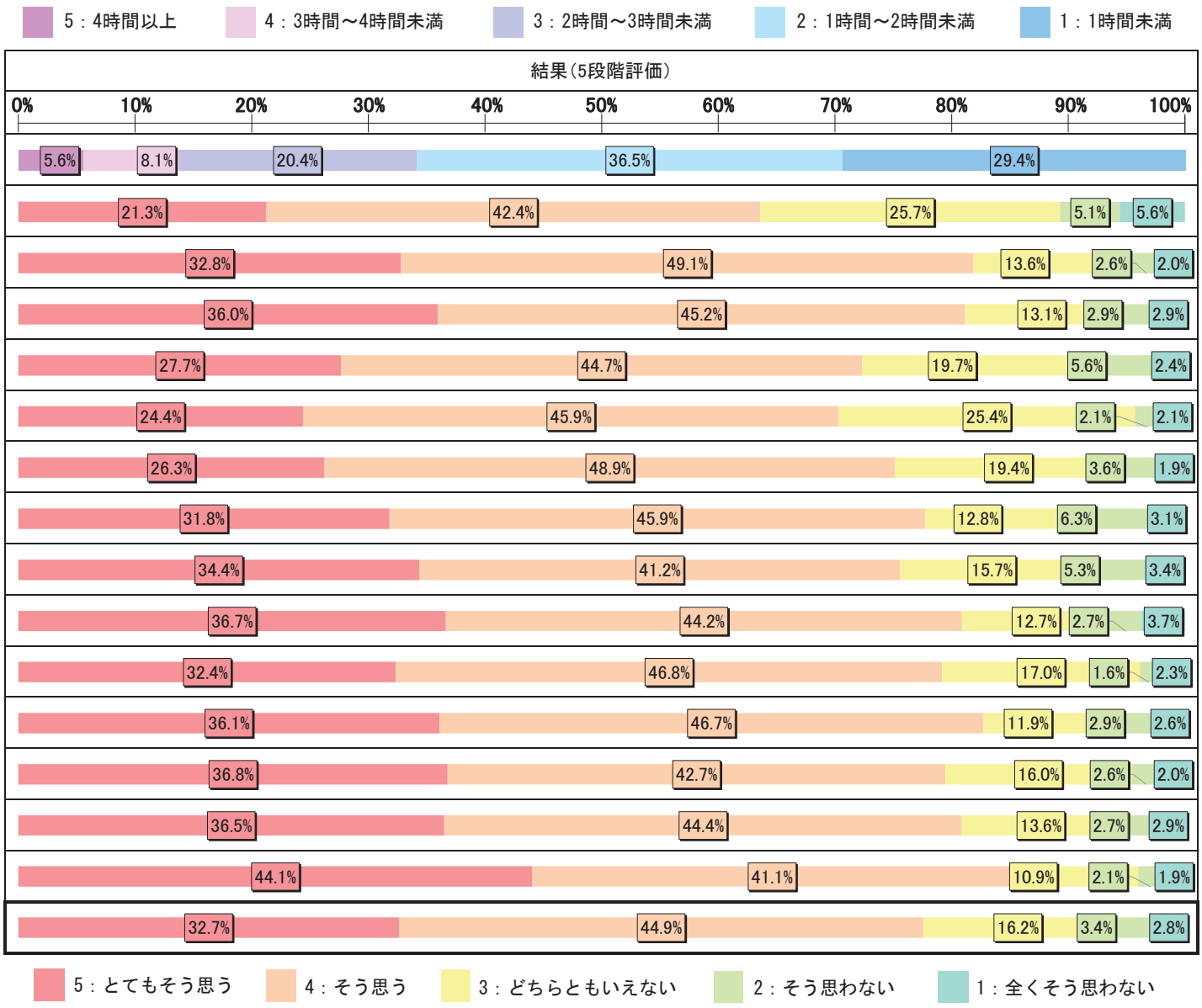
US科目　社会科学科目群　　履修者数：1,901 名　　回答者数：701 名　　回答率：36.9 %

			設問	科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.2	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.9	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	3.9	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.1	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2	4.3
総合評価				3.9	4.0

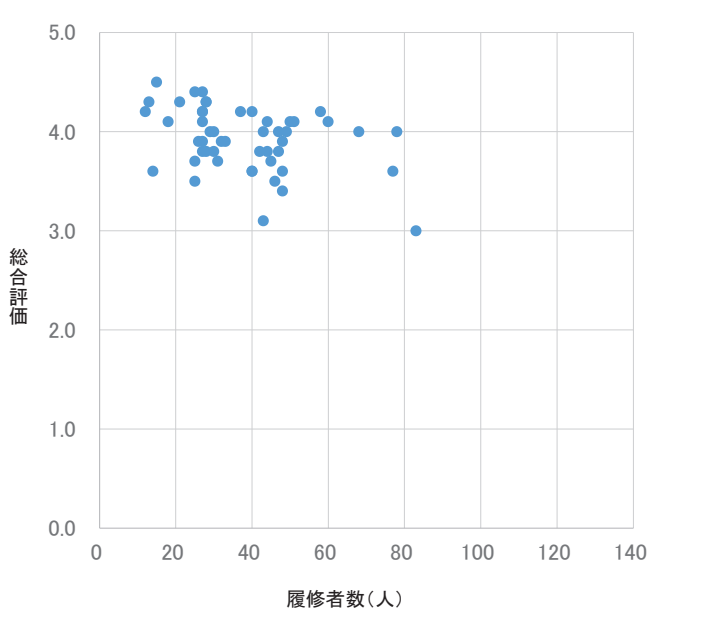
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

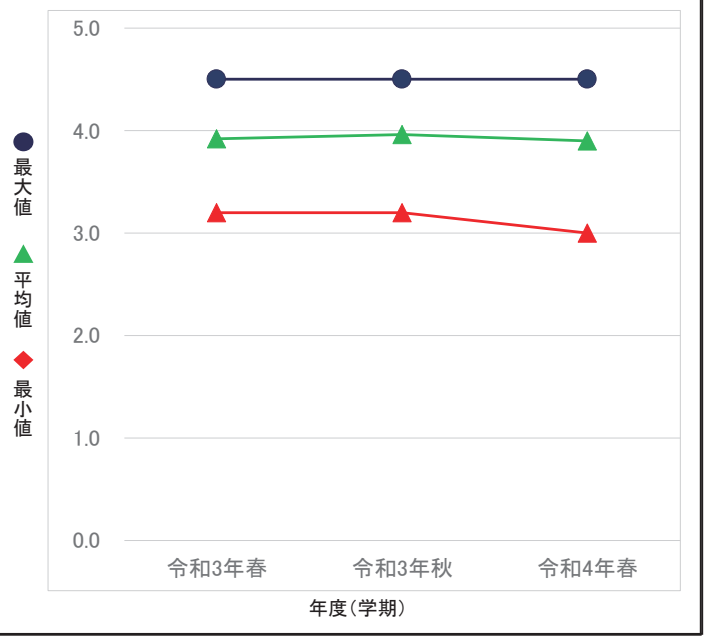




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



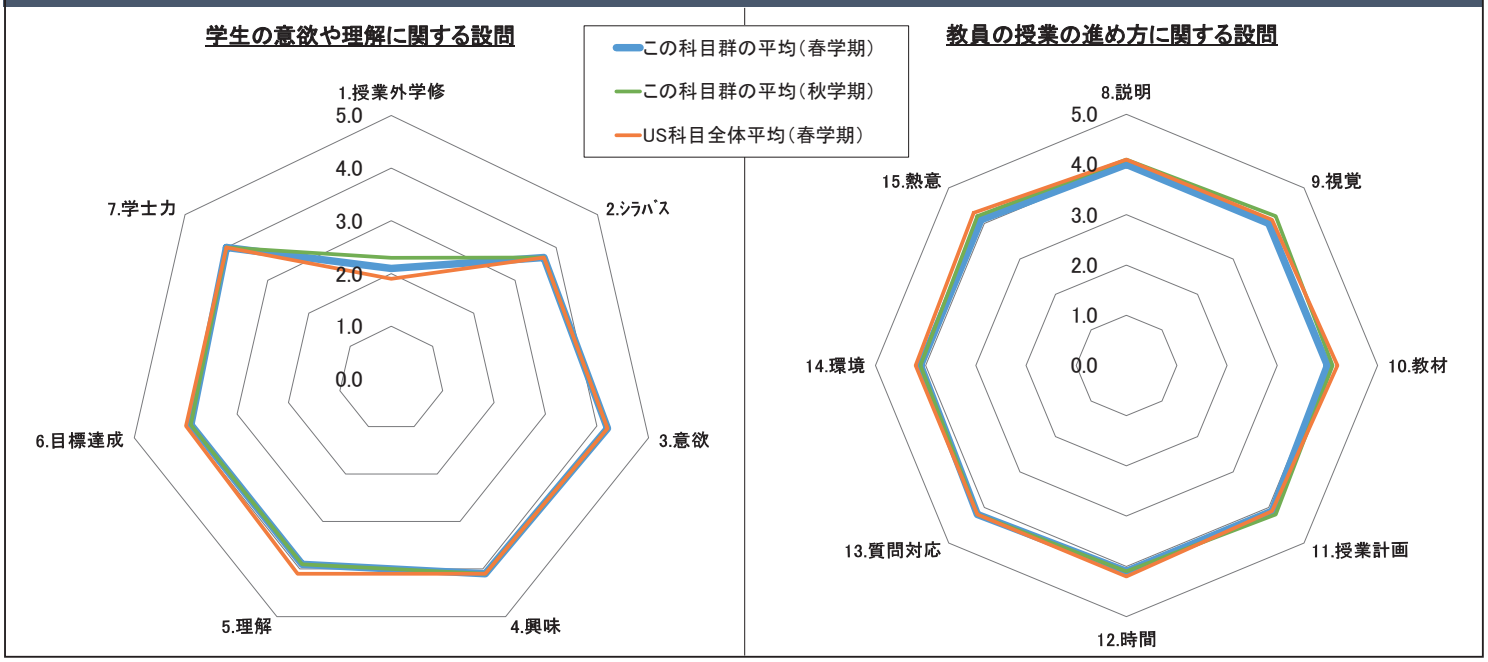
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

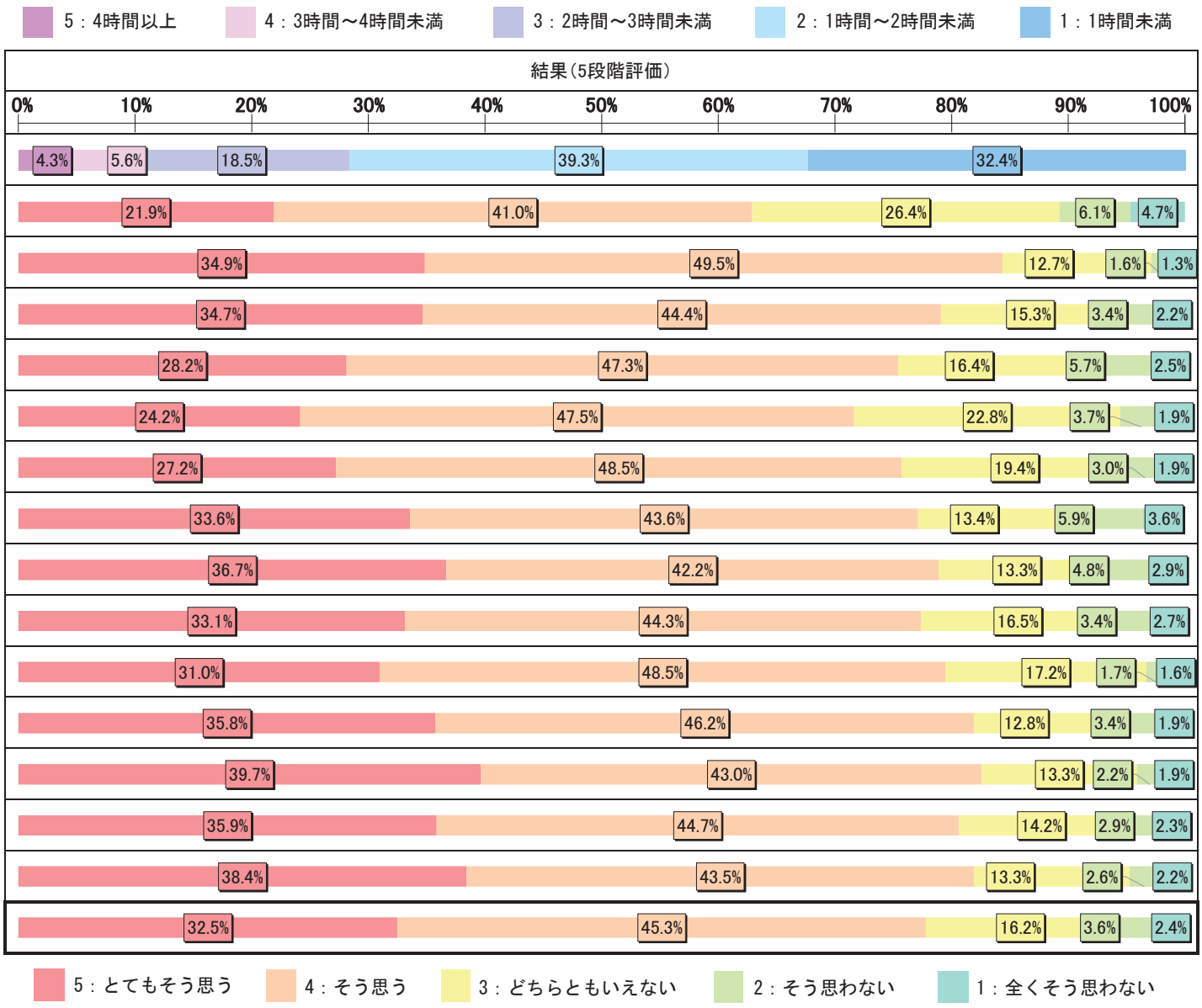
US科目　自然科学科目群　　履修者数：3,326 名　　回答者数：1,965 名　　回答率：59.1 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.9	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.0	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.1	4.3
総合評価				3.9	4.0

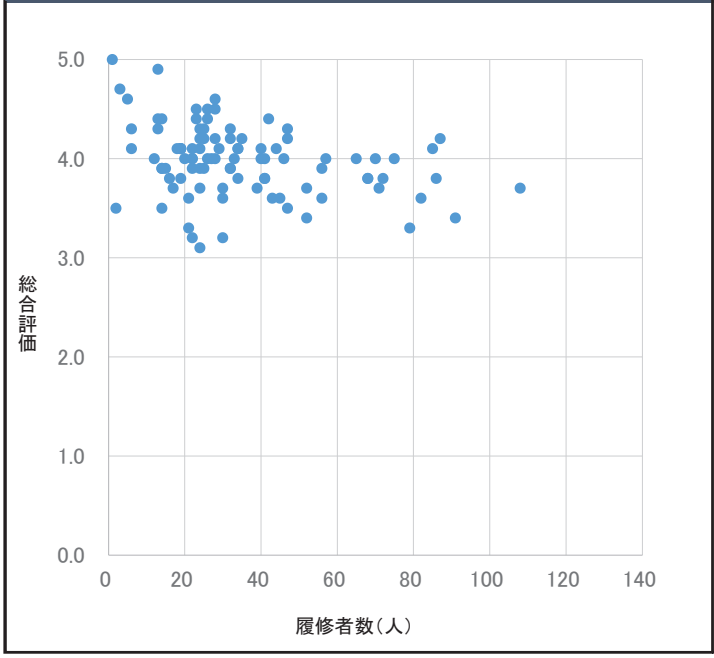
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

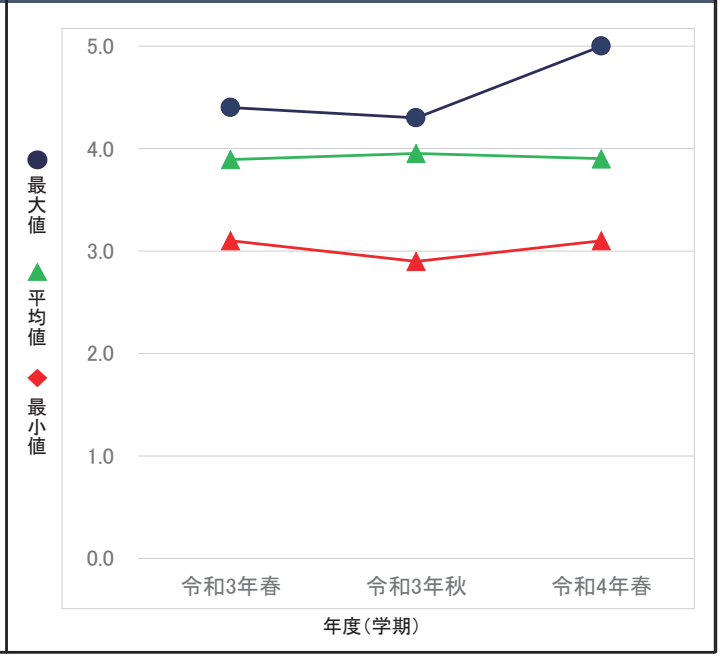




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



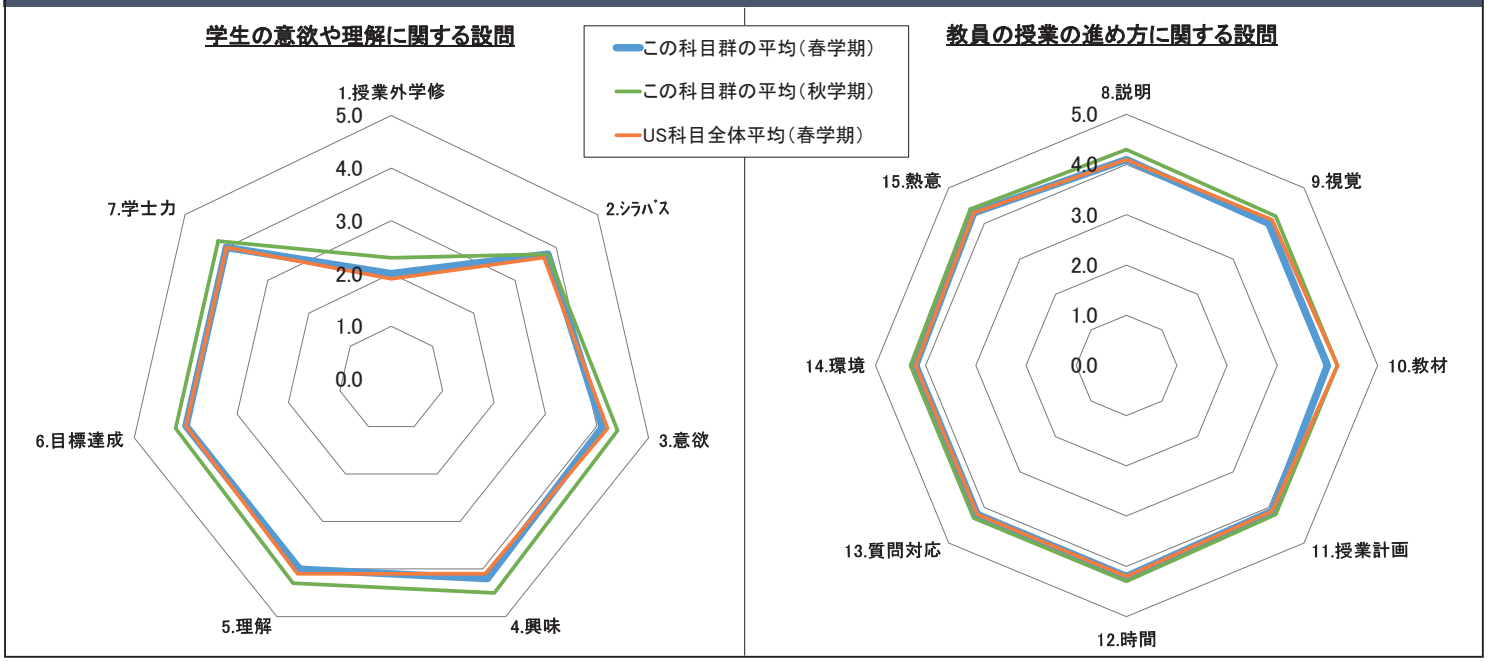
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

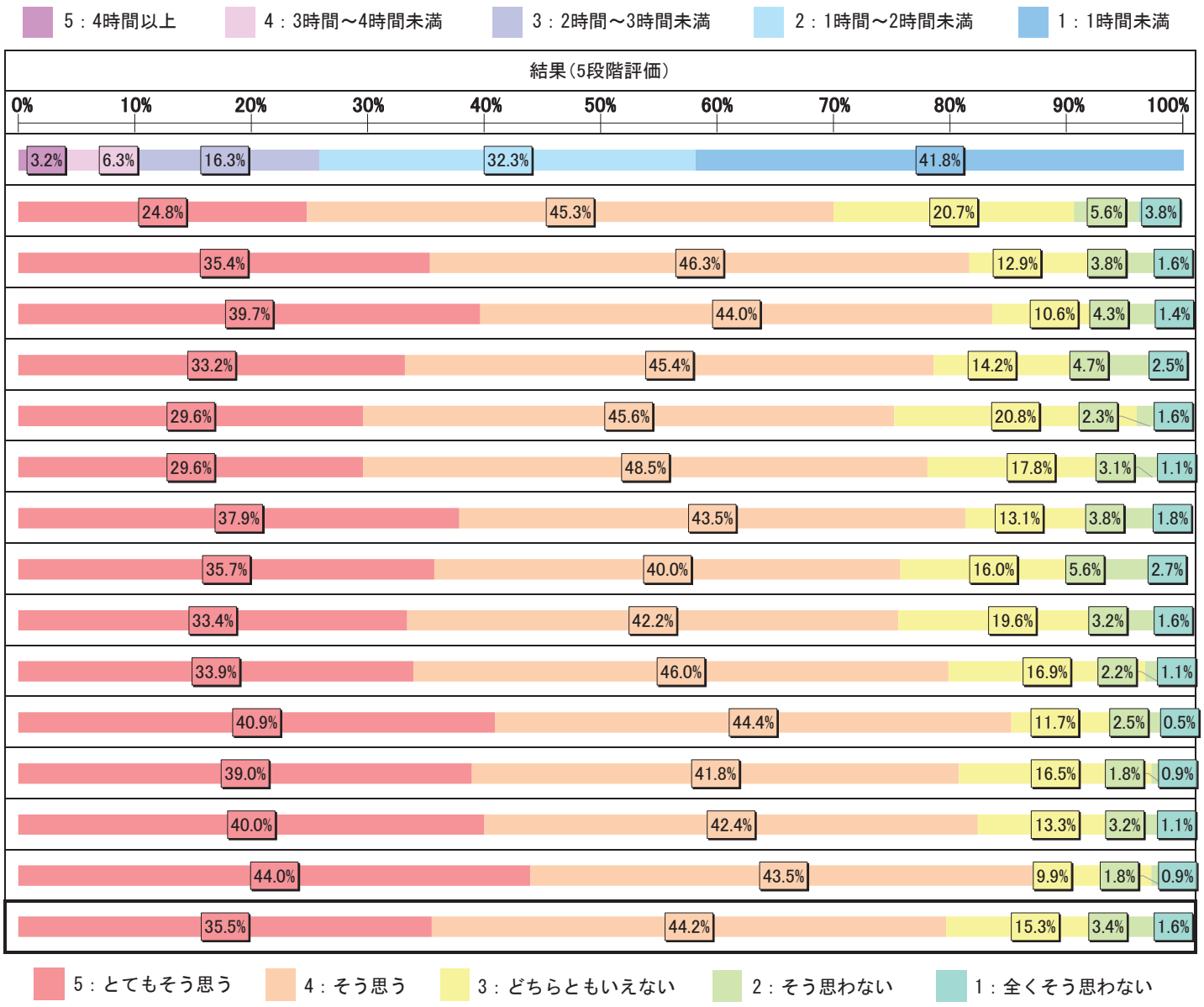
US科目　学際科目群　　履修者数：1,466 名　　回答者数：557 名　　回答率：38.0 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.0	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.8	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.0	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				3.9	4.0

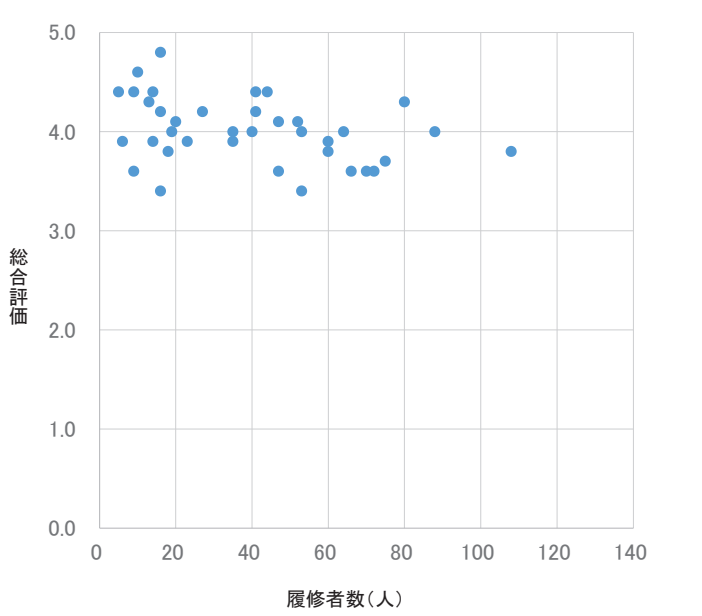
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

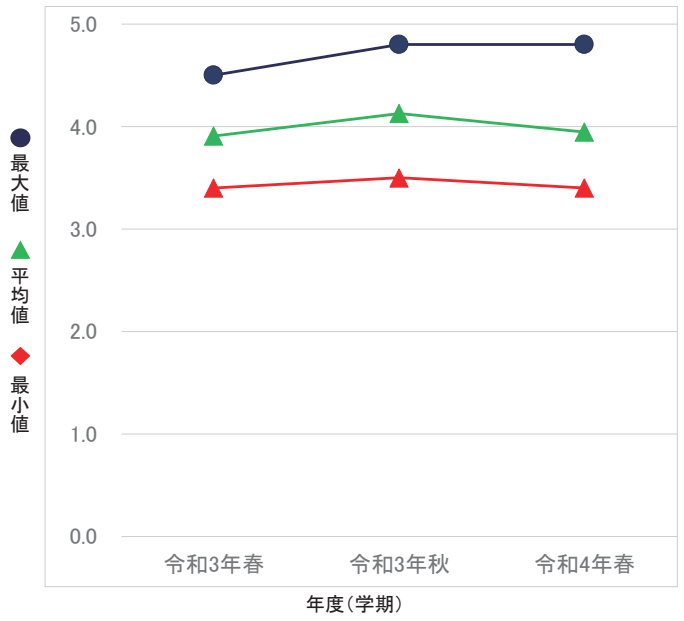




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



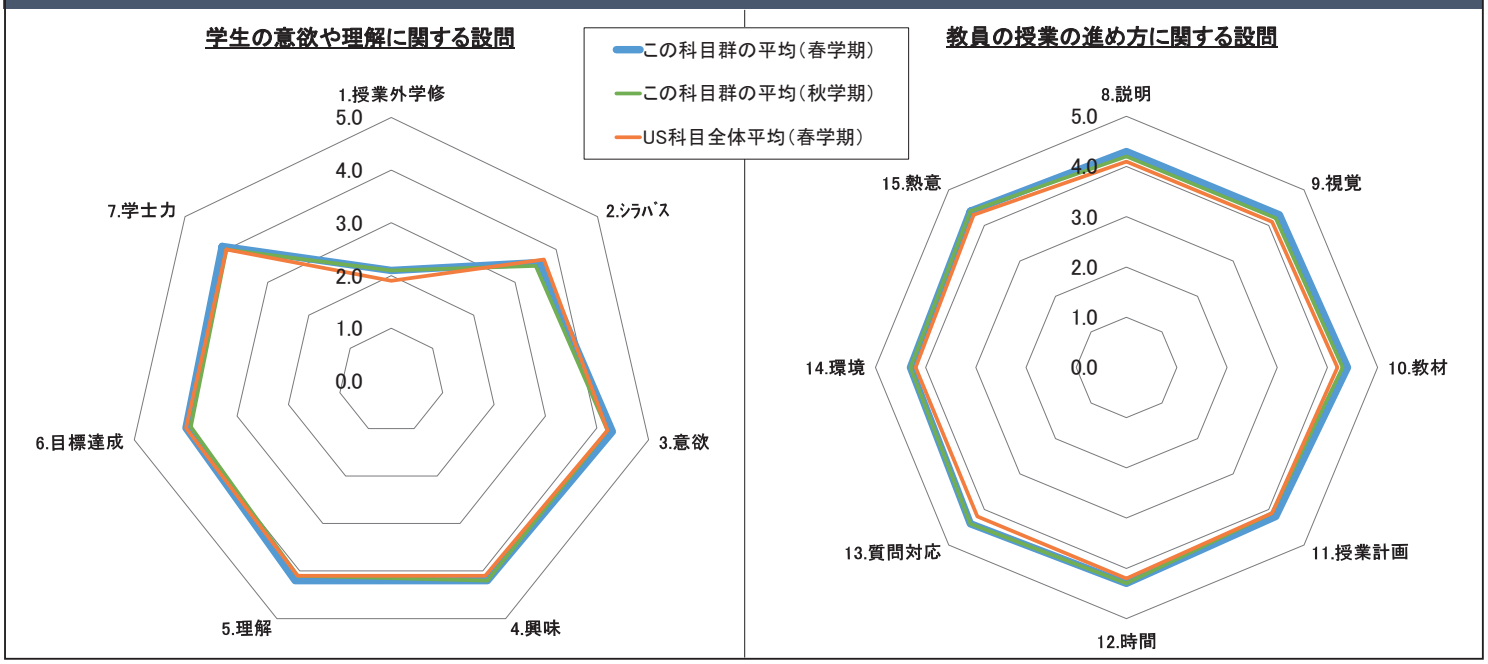
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

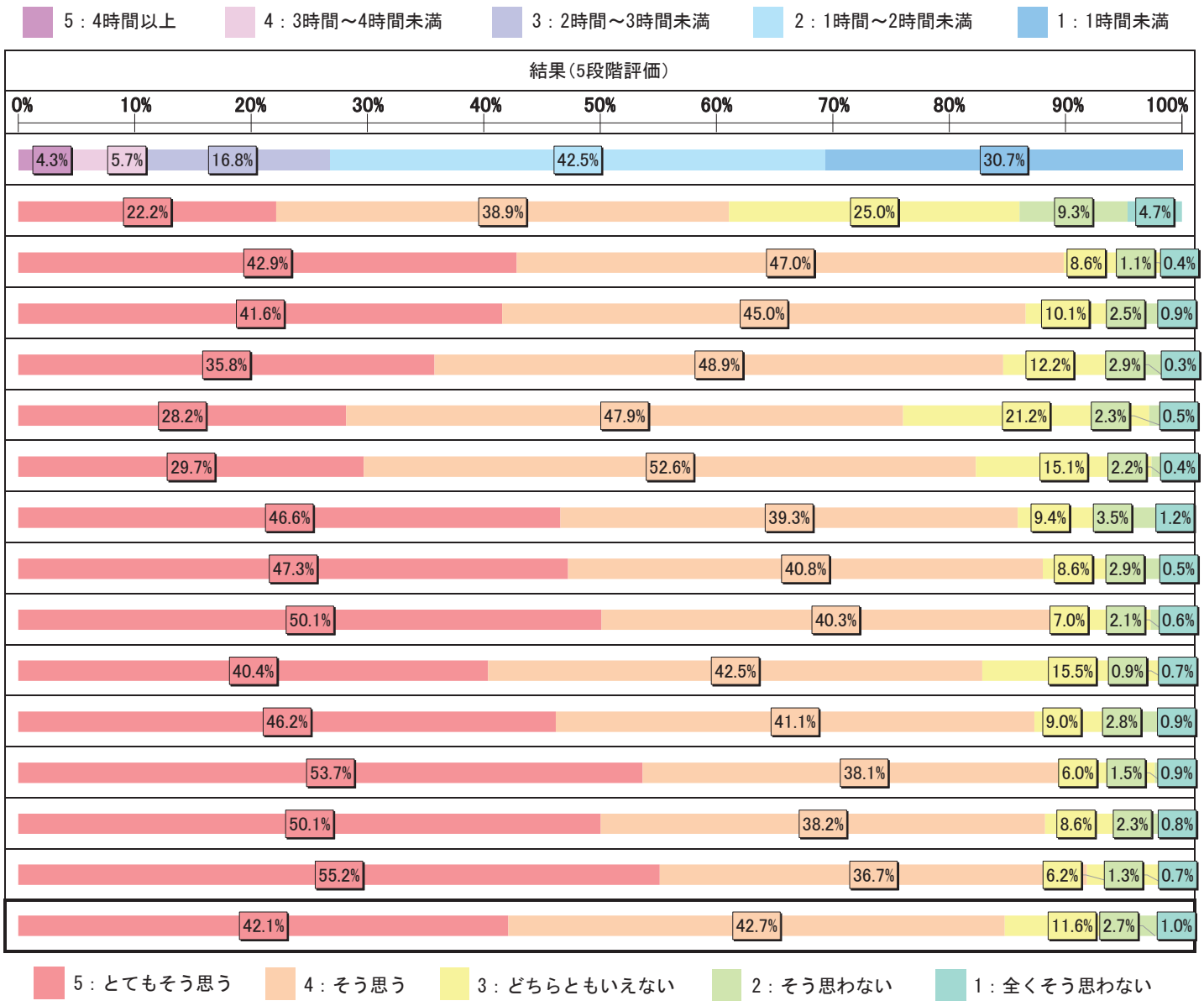
US科目　言語表現科目群　　履修者数：2,487 名　　回答者数：1,498 名　　回答率：60.2 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.6	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.2	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.1	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.3	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.3	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.4	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.2	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.3	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.4	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.3	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.4	4.3
総合評価				4.1	4.0

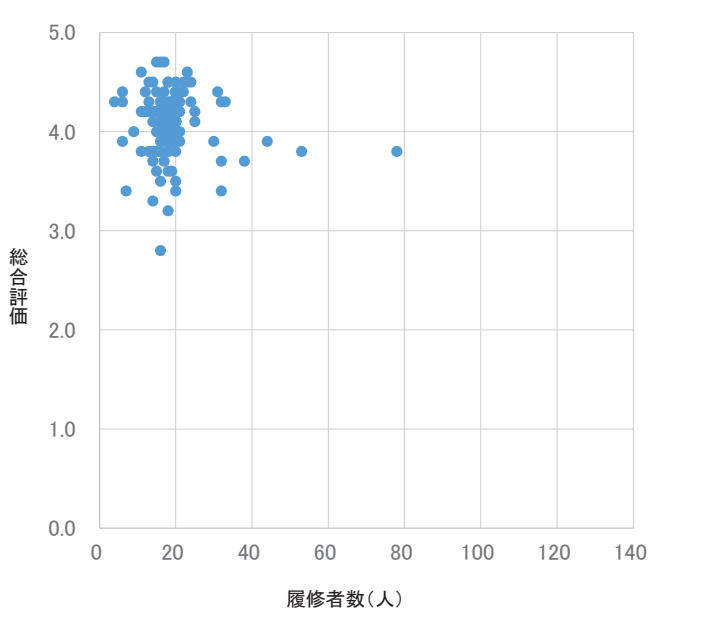
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

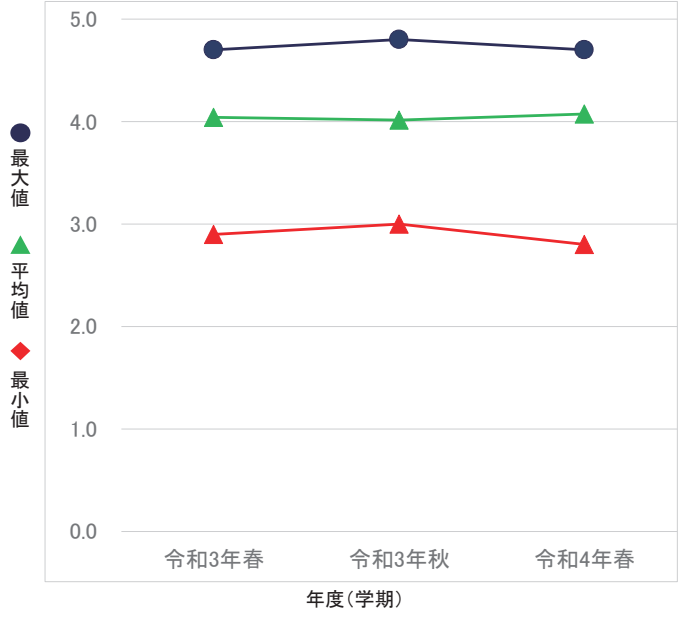




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



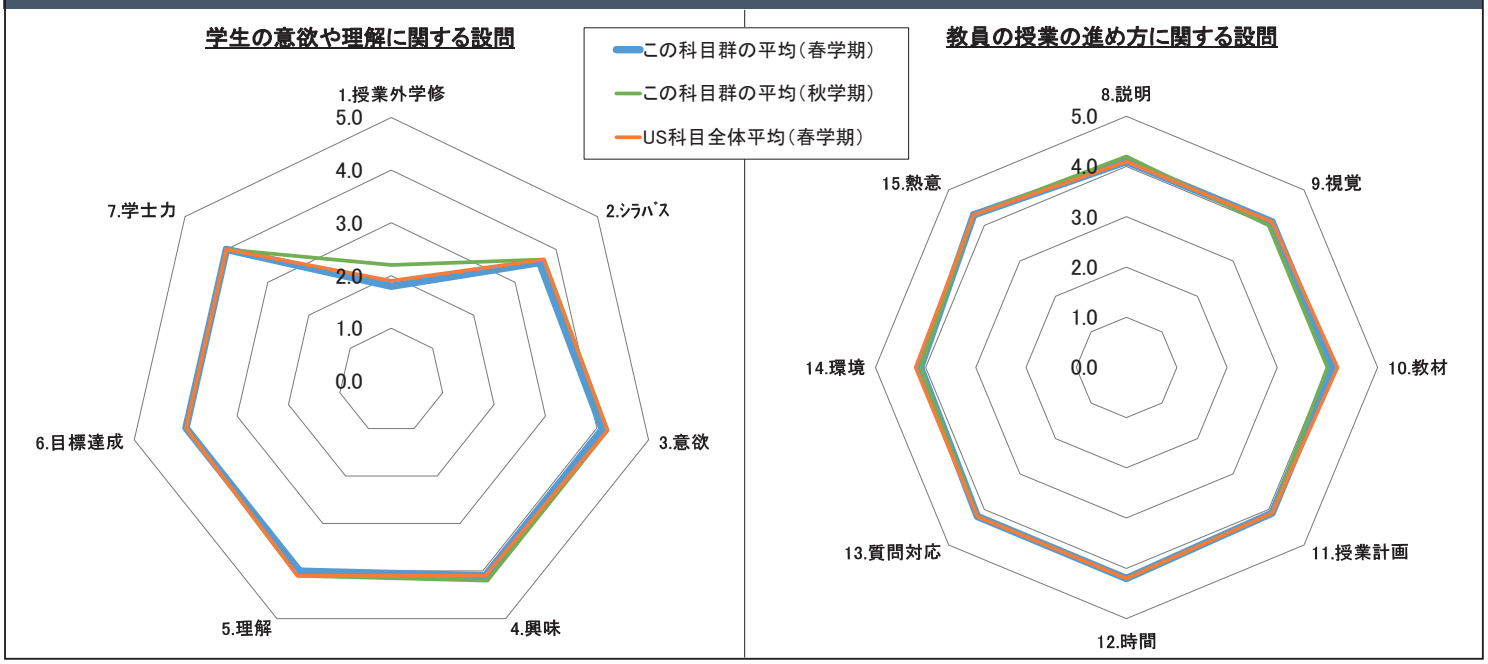
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

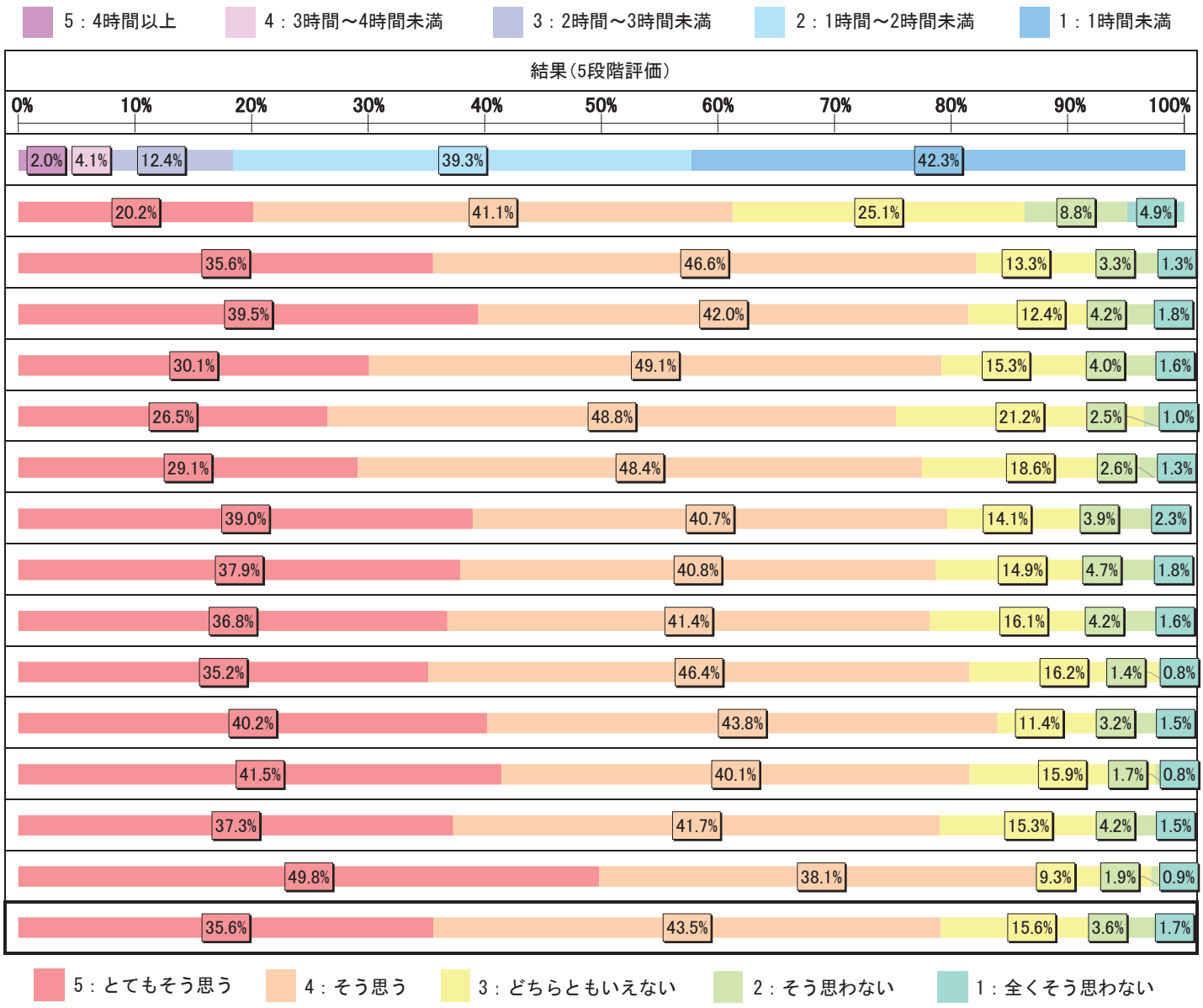
US科目　教職関連科目群　　履修者数：2,396 名　　回答者数：1,206 名　　回答率：50.3 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	1.8	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.6	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				3.9	4.0

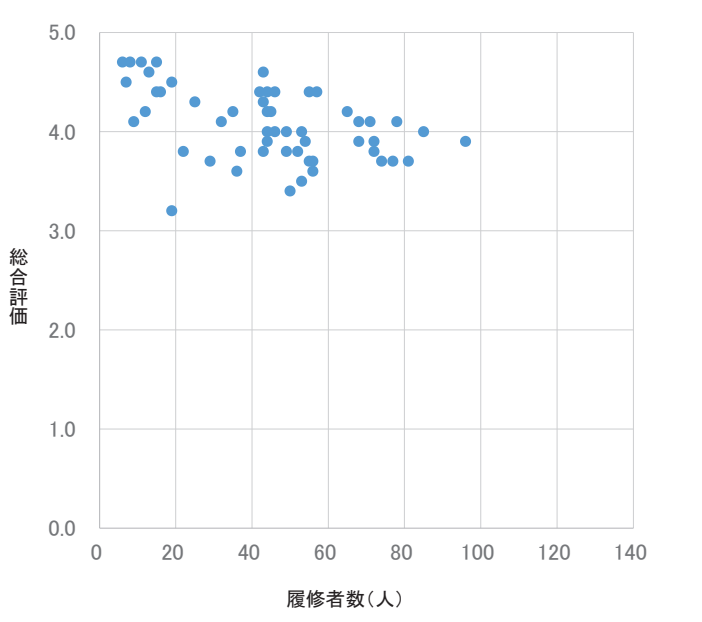
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

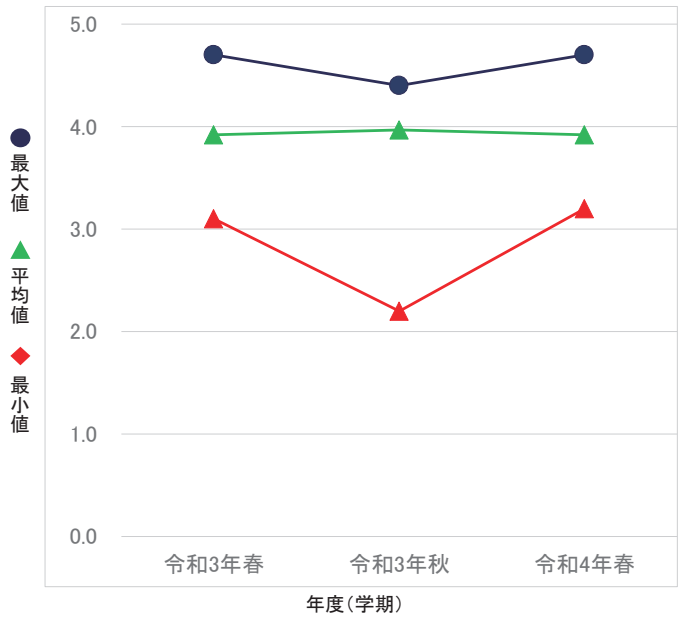




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



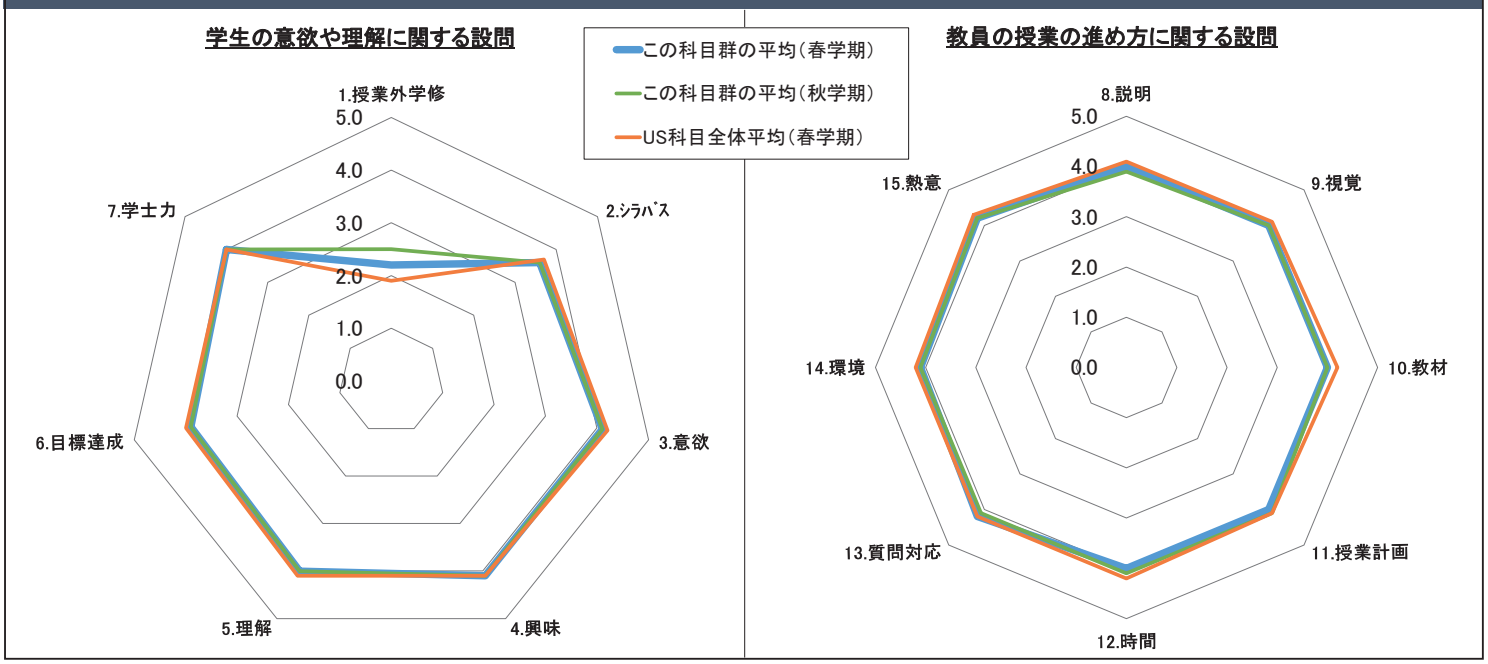
令和4年度　春学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

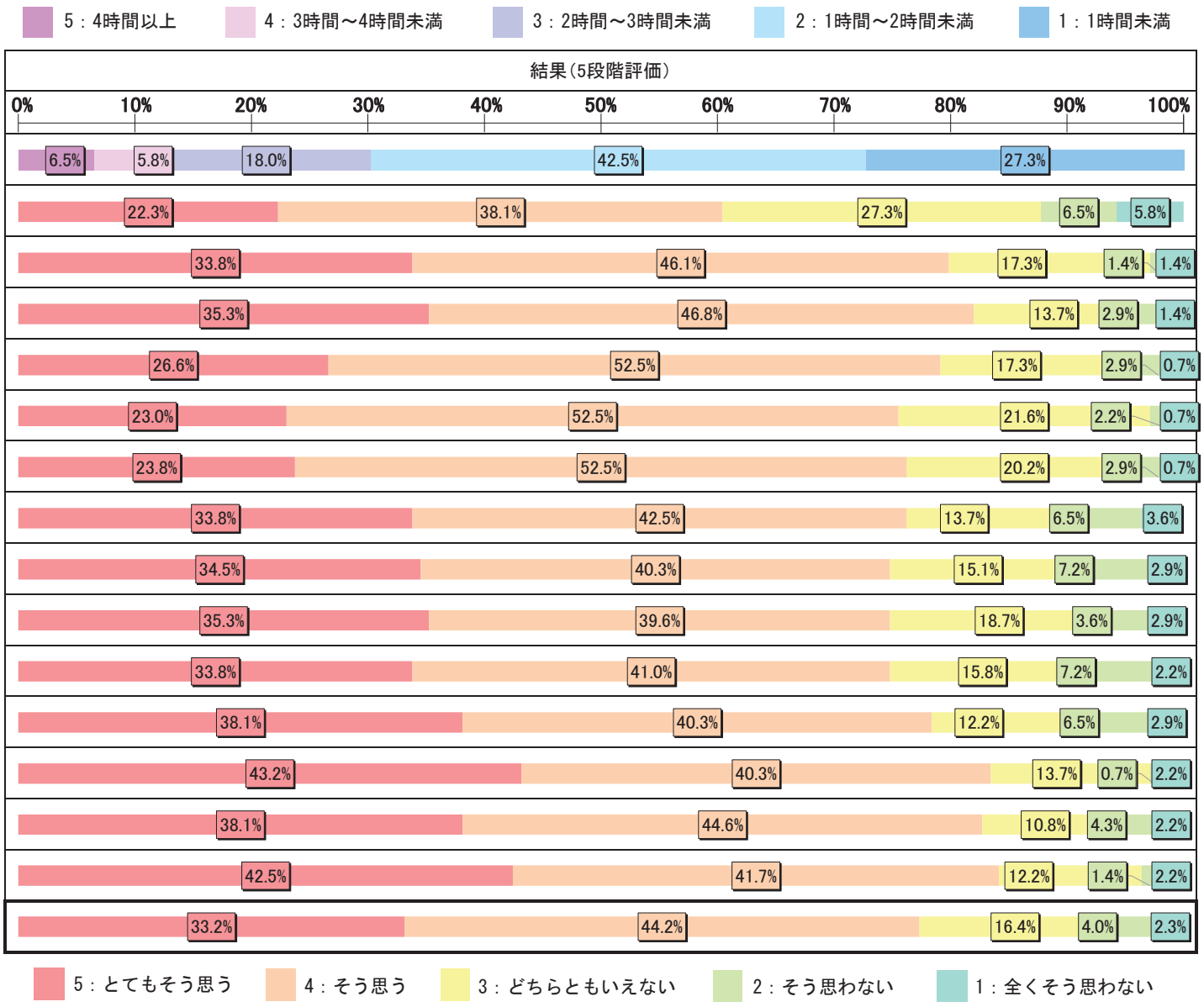
US科目　資格関連科目群　　履修者数：　386 名　　回答者数：　139 名　　回答率：　36.0 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.2	1.9
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.6	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.2
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0	4.1
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	4.0
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.0	4.2
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.0	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.0	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2	4.3
総合評価				3.9	4.0

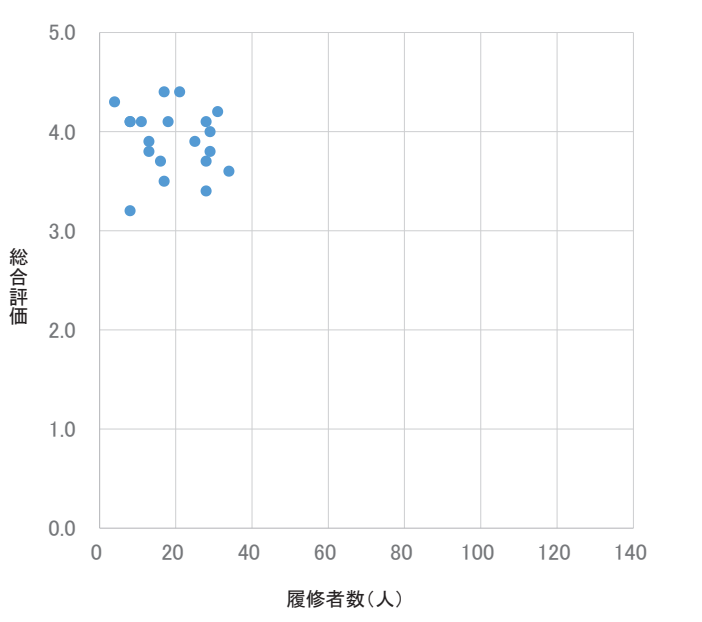
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

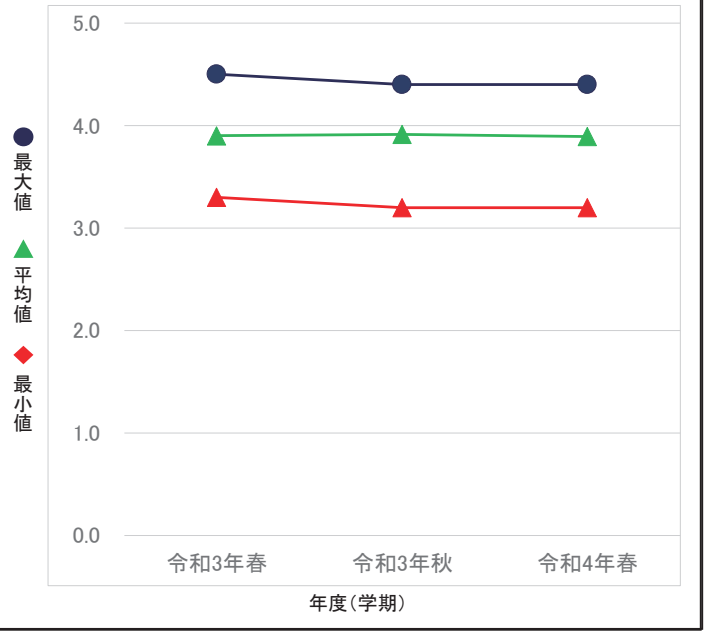




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



授業アンケート一覧＞**授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2022/08/10（水） 09:00～2022/08/16（火） 23:59

対象者数(延べ数)： 319人 回答者数(延べ数)： 68人 回答率 21.3%

2022_授業アンケート【サマーセッションⅠ期】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	4.4%	3人
3時間～4時間未満	7.4%	5人
2時間～3時間未満	25.0%	17人
1時間～2時間未満	52.9%	36人
1時間未満	10.3%	7人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	36.8%	25人
そう思う	47.1%	32人
どちらともいえない	14.7%	10人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	55.9%	38人
そう思う	35.3%	24人
どちらともいえない	5.9%	4人
そう思わない	2.9%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	58.8%	40人
そう思う	33.8%	23人
どちらともいえない	4.4%	3人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	1.5%	1人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	51.5%	35人
そう思う	38.2%	26人
どちらともいえない	7.4%	5人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	1.5%	1人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	42.6%	29人
そう思う	45.6%	31人
どちらともいえない	5.9%	4人
そう思わない	5.9%	4人
全くそう思わない	0.0%	0人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.1%	30人
そう思う	42.6%	29人
どちらともいえない	8.8%	6人
そう思わない	4.4%	3人
全くそう思わない	0.0%	0人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	57.4%	39人
そう思う	30.9%	21人
どちらともいえない	5.9%	4人
そう思わない	5.9%	4人
全くそう思わない	0.0%	0人

9．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	55.9%	38人
そう思う	35.3%	24人
どちらともいえない	7.4%	5人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	51.5%	35人
そう思う	38.2%	26人
どちらともいえない	5.9%	4人
そう思わない	2.9%	2人
全くそう思わない	1.5%	1人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	47.1%	32人
そう思う	47.1%	32人
どちらともいえない	4.4%	3人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	55.9%	38人
そう思う	30.9%	21人
どちらともいえない	5.9%	4人
そう思わない	4.4%	3人
全くそう思わない	2.9%	2人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	57.4%	39人
そう思う	35.3%	24人
どちらともいえない	4.4%	3人
そう思わない	2.9%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	58.8%	40人
そう思う	33.8%	23人
どちらともいえない	1.5%	1人
そう思わない	4.4%	3人
全くそう思わない	1.5%	1人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	63.2%	43人
そう思う	32.4%	22人
どちらともいえない	2.9%	2人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

Copyright(C) TAMAGAWA University 2009 AllRights Reserved

授業アンケート一覧> **授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2022/09/01（木） 09:00～2022/09/07（水） 23:59

対象者数(延べ数)： 287人 回答者数(延べ数)： 134人 回答率 46.7%

2022_授業アンケート【サマーセッションⅡ期】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	3.0%	4人
3時間～4時間未満	6.0%	8人
2時間～3時間未満	20.9%	28人
1時間～2時間未満	46.3%	62人
1時間未満	23.9%	32人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	18.7%	25人
そう思う	50.0%	67人
どちらともいえない	19.4%	26人
そう思わない	9.7%	13人
全くそう思わない	2.2%	3人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	46.3%	62人
そう思う	41.0%	55人
どちらともいえない	11.2%	15人
そう思わない	1.5%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	51.5%	69人
そう思う	40.3%	54人
どちらともいえない	6.7%	9人
そう思わない	1.5%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	35.1%	47人
そう思う	47.8%	64人
どちらともいえない	11.2%	15人
そう思わない	5.2%	7人
全くそう思わない	0.7%	1人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	31.3%	42人
そう思う	47.0%	63人
どちらともいえない	17.9%	24人
そう思わない	3.0%	4人
全くそう思わない	0.7%	1人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	35.1%	47人
そう思う	49.3%	66人
どちらともいえない	14.2%	19人
そう思わない	0.7%	1人
全くそう思わない	0.7%	1人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	47.8%	64人
そう思う	43.3%	58人
どちらともいえない	6.7%	9人
そう思わない	1.5%	2人
全くそう思わない	0.7%	1人

９．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	41.0%	55人
そう思う	44.8%	60人
どちらともいえない	10.4%	14人
そう思わない	3.7%	5人
全くそう思わない	0.0%	0人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	43.3%	58人
そう思う	38.8%	52人
どちらともいえない	14.2%	19人
そう思わない	3.7%	5人
全くそう思わない	0.0%	0人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.0%	59人
そう思う	40.3%	54人
どちらともいえない	14.2%	19人
そう思わない	1.5%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	54.5%	73人
そう思う	32.8%	44人
どちらともいえない	10.4%	14人
そう思わない	1.5%	2人
全くそう思わない	0.7%	1人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	53.7%	72人
そう思う	33.6%	45人
どちらともいえない	11.9%	16人
そう思わない	0.7%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.7%	68人
そう思う	35.8%	48人
どちらともいえない	11.2%	15人
そう思わない	2.2%	3人
全くそう思わない	0.0%	0人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	54.5%	73人
そう思う	36.6%	49人
どちらともいえない	7.5%	10人
そう思わない	0.7%	1人
全くそう思わない	0.7%	1人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

Copyright(C) TAMAGAWA University 2009 AllRights Reserved

授業アンケート一覧> **授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2022/09/16（金） 09:00～2022/09/22（木） 23:59

対象者数(延べ数)： 200人 回答者数(延べ数)： 106人 回答率 53.0%

2022_授業アンケート［サマーセッションⅢ期］

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	3.8%	4人
3時間～4時間未満	5.7%	6人
2時間～3時間未満	25.5%	27人
1時間～2時間未満	43.4%	46人
1時間未満	21.7%	23人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	23.6%	25人
そう思う	42.5%	45人
どちらともいえない	21.7%	23人
そう思わない	9.4%	10人
全くそう思わない	2.8%	3人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	53.8%	57人
そう思う	40.6%	43人
どちらともいえない	4.7%	5人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	52.8%	56人
そう思う	40.6%	43人
どちらともいえない	3.8%	4人
そう思わない	1.9%	2人
全くそう思わない	0.9%	1人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	40.6%	43人
そう思う	52.8%	56人
どちらともいえない	5.7%	6人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	38.7%	41人
そう思う	45.3%	48人
どちらともいえない	16.0%	17人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	41.5%	44人
そう思う	51.9%	55人
どちらともいえない	6.6%	7人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.9%	54人
そう思う	36.8%	39人
どちらともいえない	10.4%	11人
そう思わない	1.9%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

9．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.0%	53人
そう思う	34.0%	36人
どちらともいえない	15.1%	16人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.3%	47人
そう思う	42.5%	45人
どちらともいえない	10.4%	11人
そう思わない	2.8%	3人
全くそう思わない	0.0%	0人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.3%	47人
そう思う	41.5%	44人
どちらともいえない	12.3%	13人
そう思わない	1.9%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.0%	53人
そう思う	33.0%	35人
どちらともいえない	15.1%	16人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.9%	1人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	62.3%	66人
そう思う	29.2%	31人
どちらともいえない	6.6%	7人
そう思わない	1.9%	2人
全くそう思わない	0.0%	0人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	53.8%	57人
そう思う	35.8%	38人
どちらともいえない	7.5%	8人
そう思わない	2.8%	3人
全くそう思わない	0.0%	0人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	70.8%	75人
そう思う	24.5%	26人
どちらともいえない	3.8%	4人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

Copyright(C) TAMAGAWA University 2009 AllRights Reserved

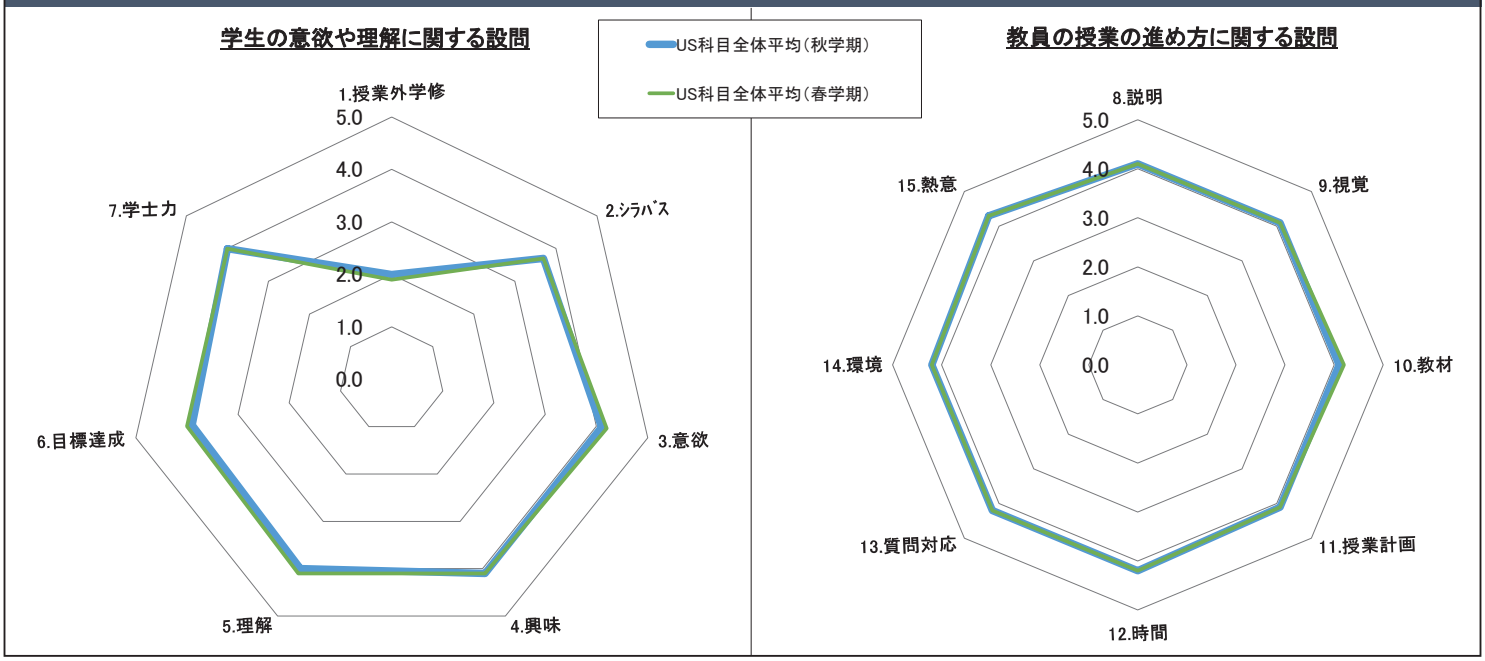
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

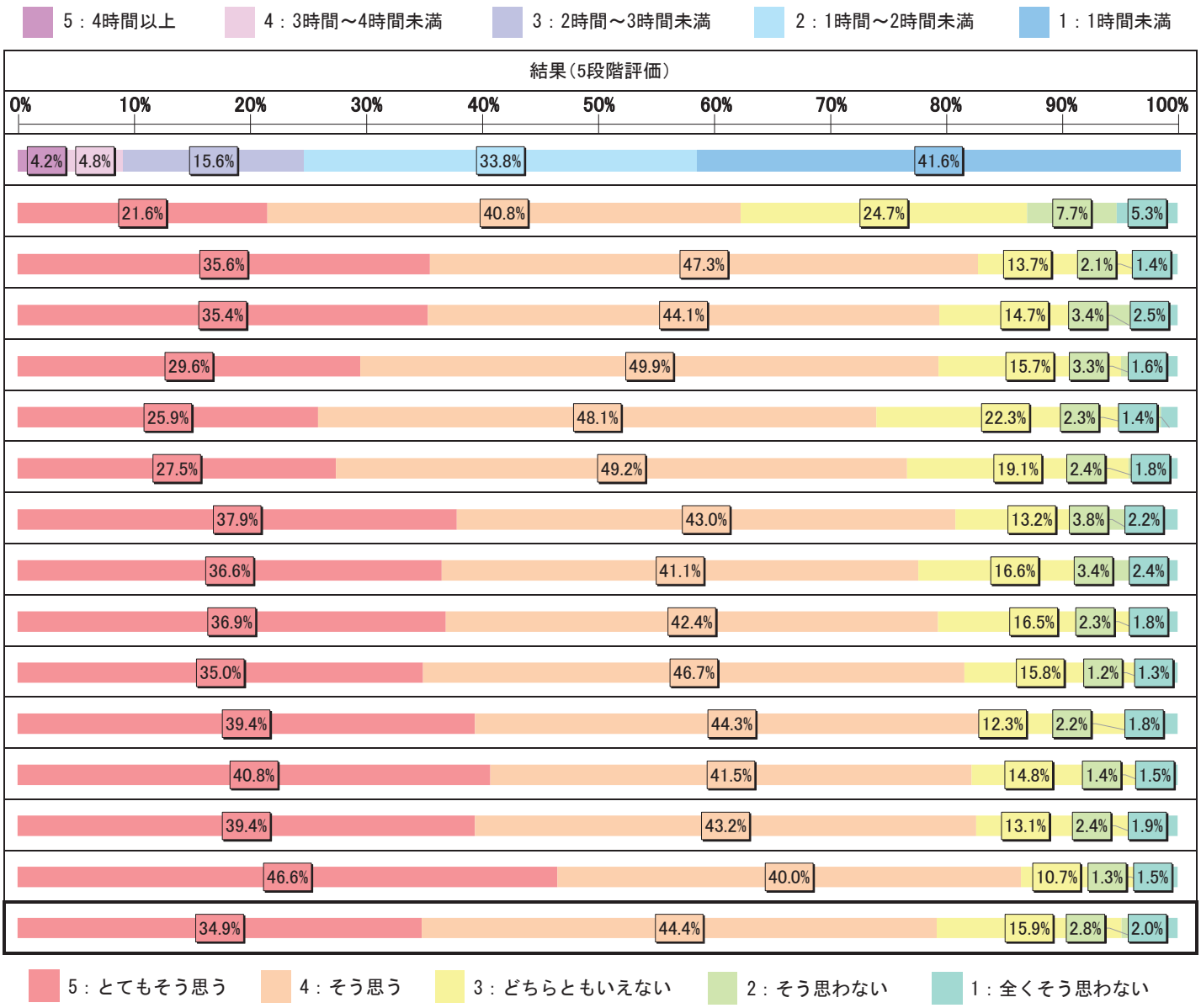
US科目全体　　履修者数： 17,434 名　　回答者数： 7,084 名　　回答率： 40.6 %

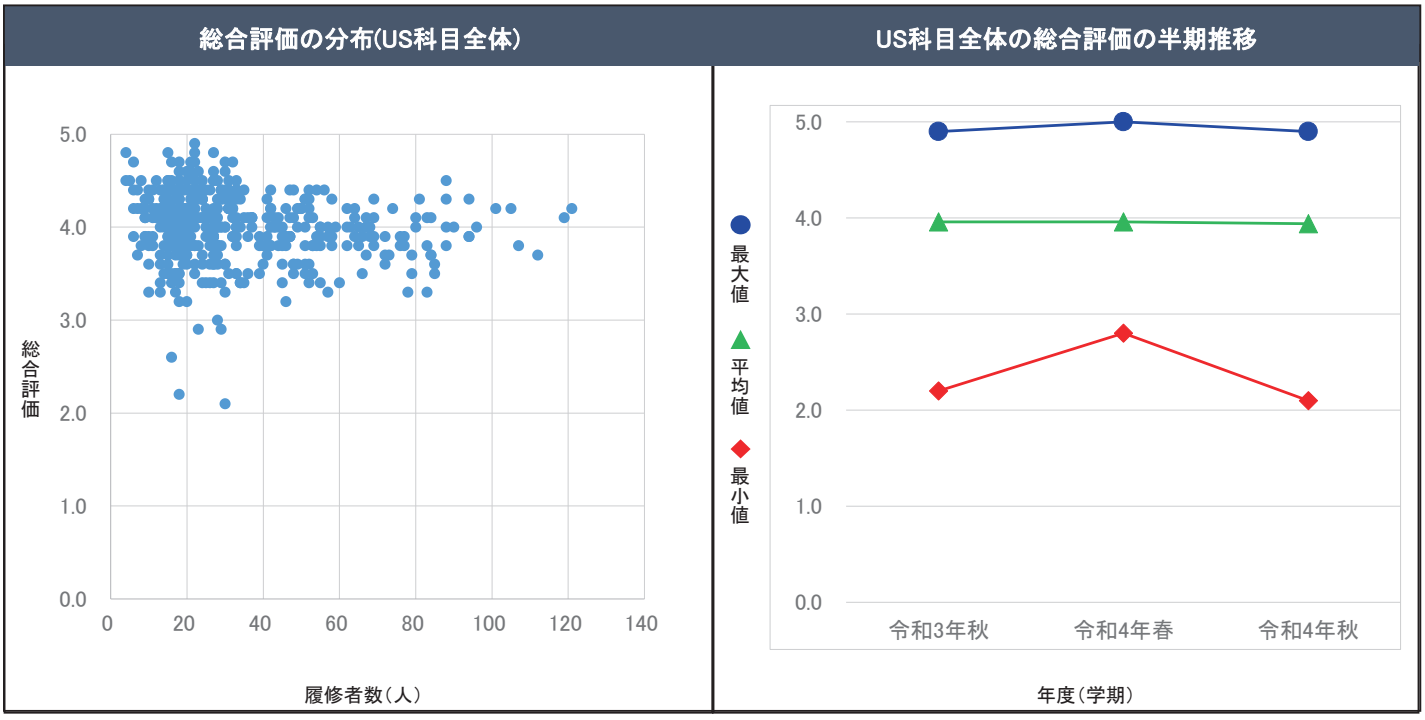
			設問	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3
総合評価				3.9

平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート




5：4時間以上
4：3時間～4時間未満
3：2時間～3時間未満
2：1時間～2時間未満
1：1時間未満
結果（5段階評価）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
4.2% 4.8% 15.6% 33.8% 41.6%
21.6% 40.8% 24.7% 7.7% 5.3%
35.6% 47.3% 13.7% 2.1% 1.4%
35.4% 44.1% 14.7% 3.4% 2.5%
29.6% 49.9% 15.7% 3.3% 1.6%
25.9% 48.1% 22.3% 2.3% 1.4%
27.5% 49.2% 19.1% 2.4% 1.8%
37.9% 43.0% 13.2% 3.8% 2.2%
36.6% 41.1% 16.6% 3.4% 2.4%
36.9% 42.4% 16.5% 2.3% 1.8%
35.0% 46.7% 15.8% 1.2% 1.3%
39.4% 44.3% 12.3% 2.2% 1.8%
40.8% 41.5% 14.8% 1.4% 1.5%
39.4% 43.2% 13.1% 2.4% 1.9%
46.6% 40.0% 10.7% 1.3% 1.5%
34.9% 44.4% 15.9% 2.8% 2.0%
5：とてもそう思う
4：そう思う
3：どちらともいえない
2：そう思わない
1：全くそう思わない


総合評価の分布(US科目全体)
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
総合評価
0
20
40
60
80
100
120
140
履修者数（人）
US科目全体の総合評価の半期推移
最大値
平均値
最小値
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
令和3年秋
令和4年春
令和4年秋
年度（学期）

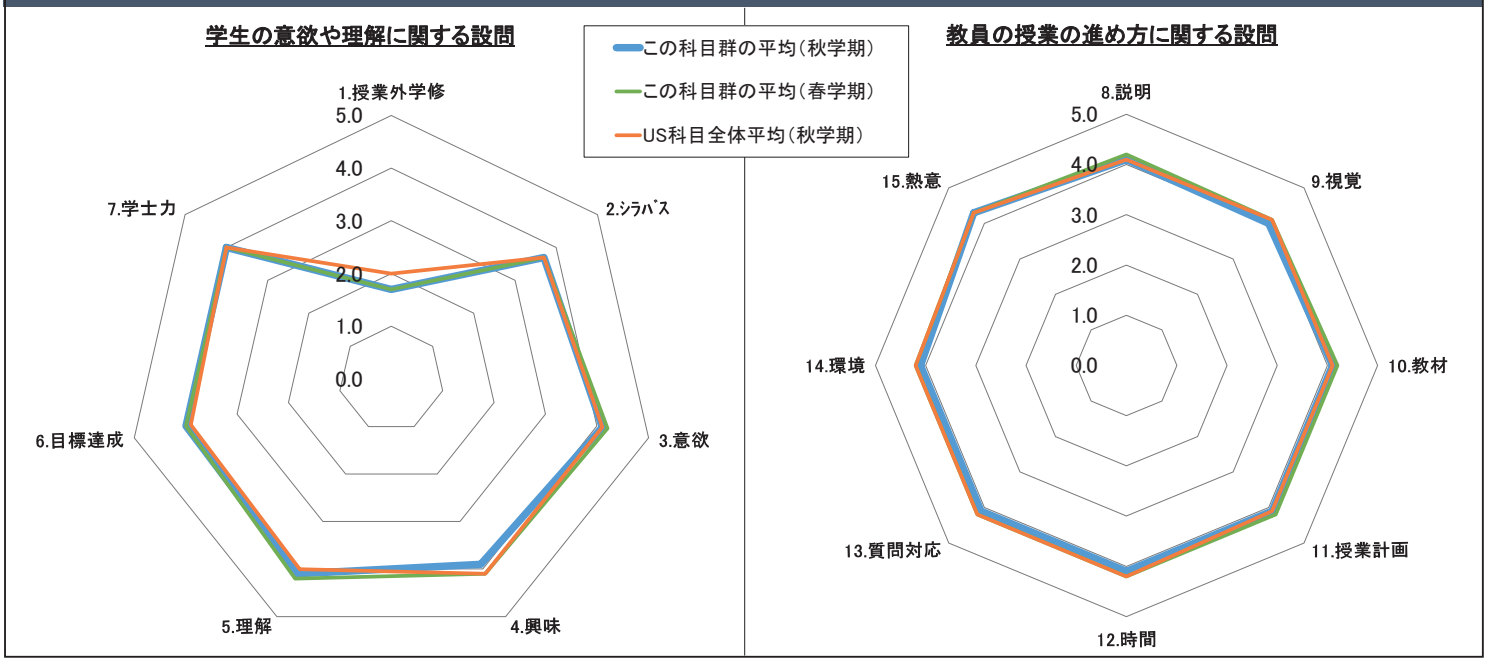
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

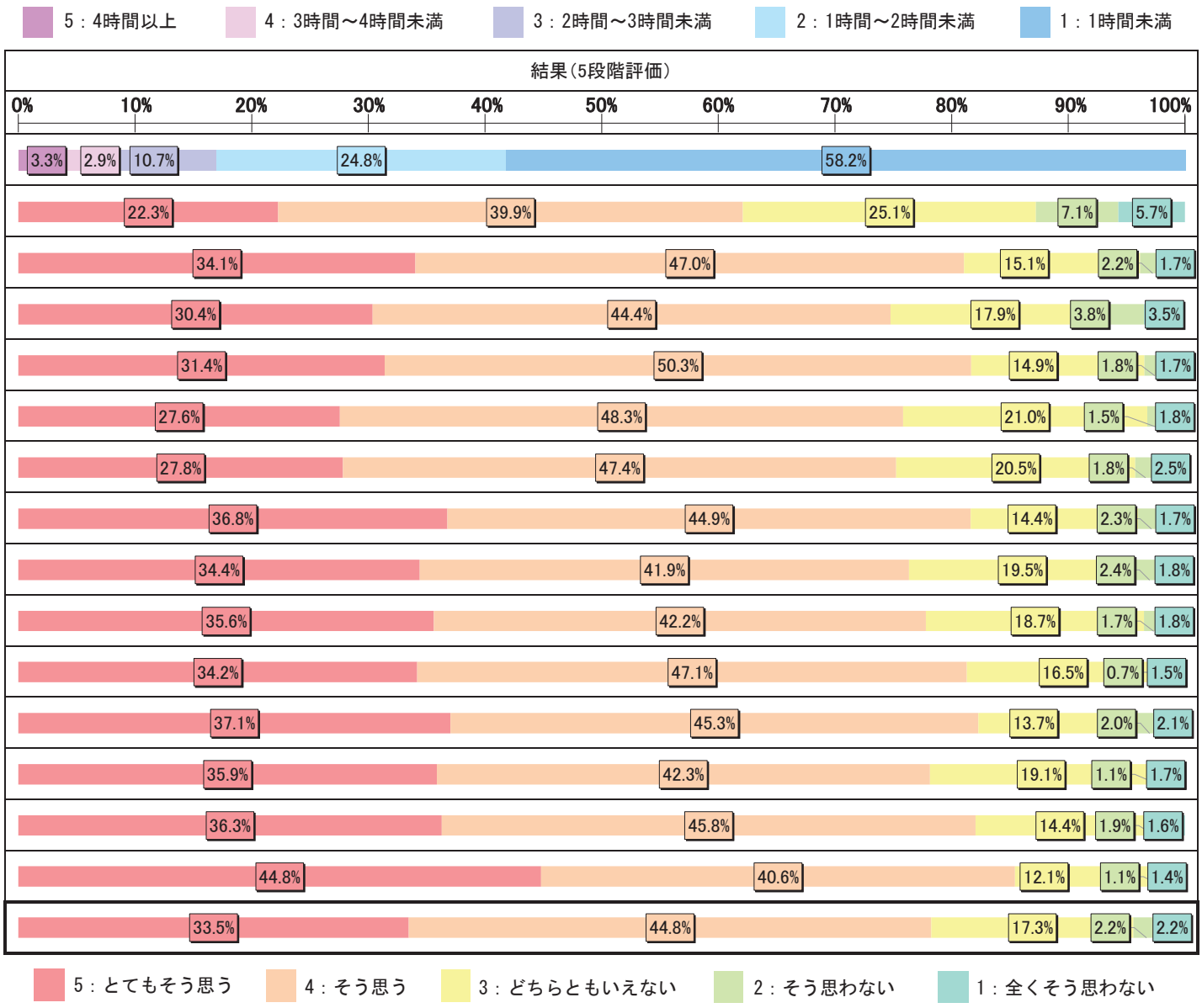
US科目　玉川教育・FYE科目群　　履修者数： 5,462 名　　回答者数： 2,397 名　　回答率： 43.9 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	1.7	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	3.9	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.1	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.1	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				3.9	3.9

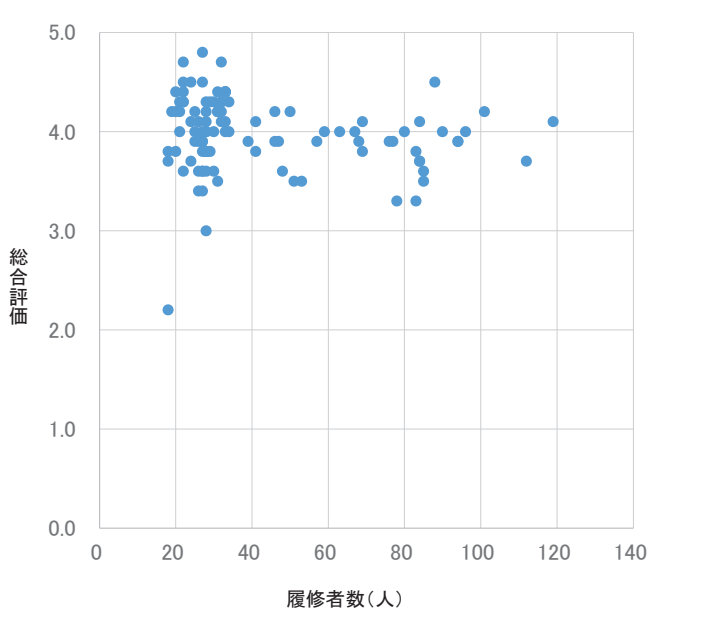
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

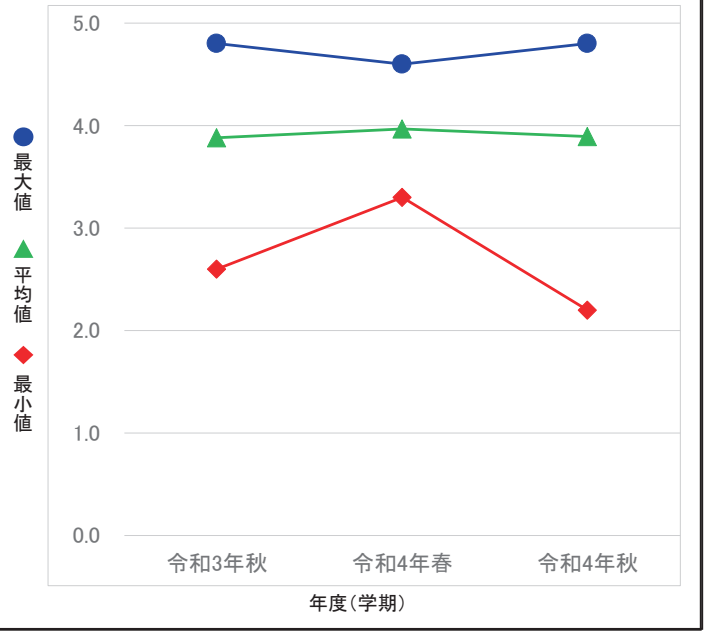




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



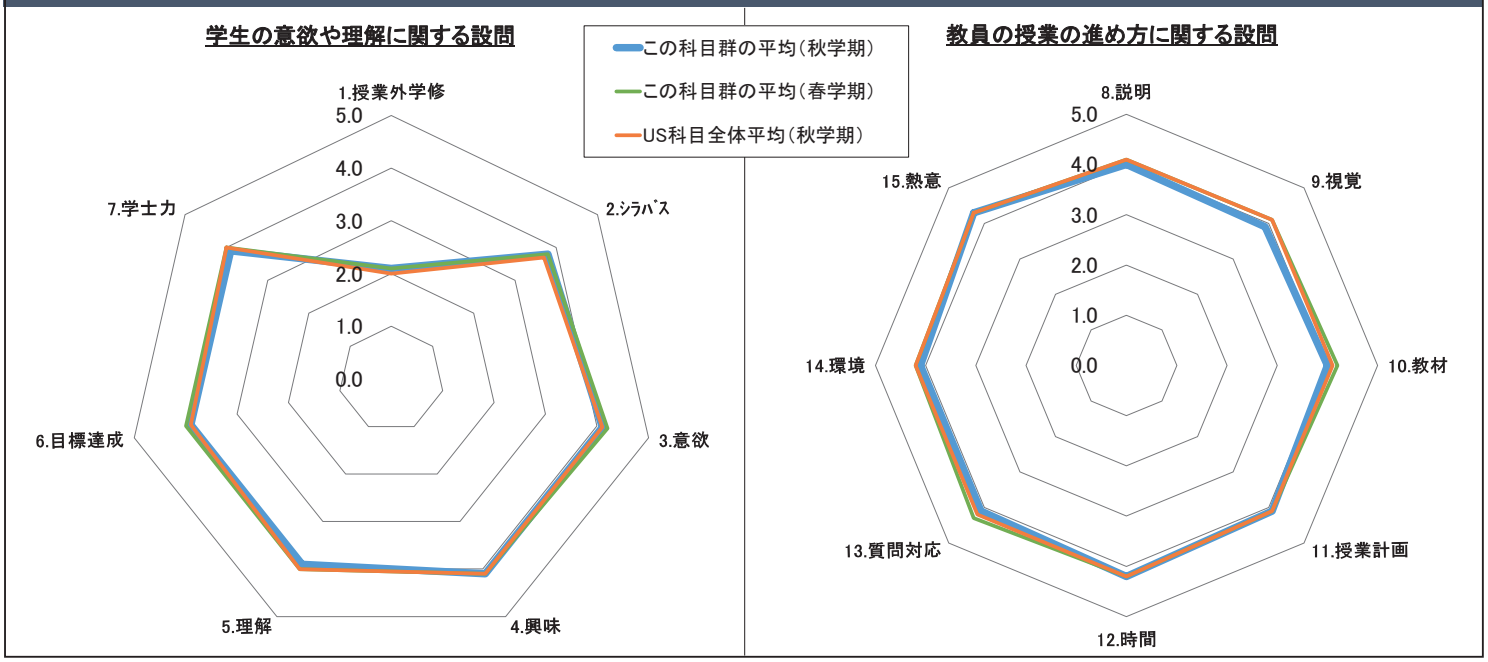
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

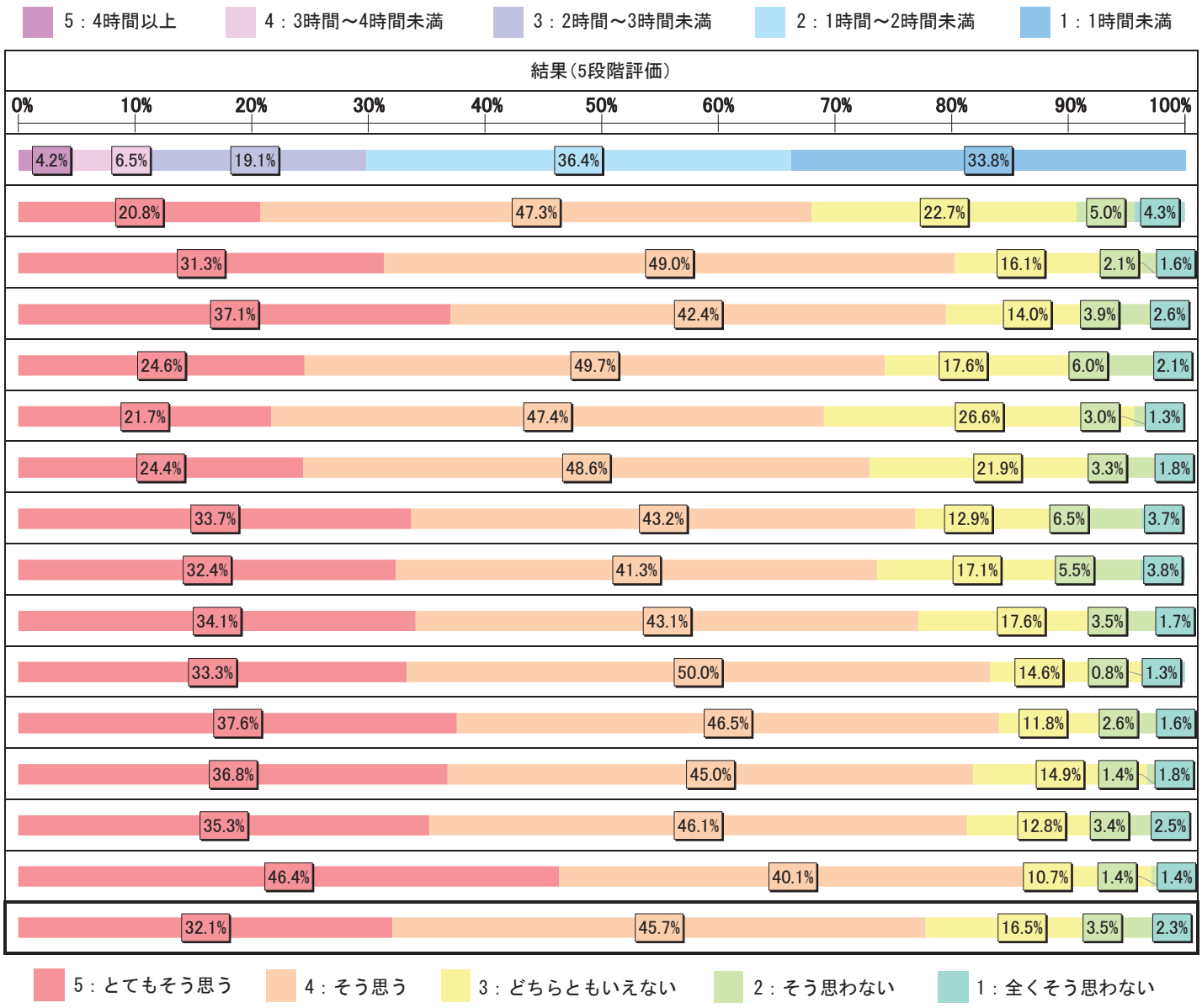
US科目　人文科学科目群　　履修者数：2,301 名　　回答者数：766 名　　回答率：33.3 %

			設問	科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.8	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.9	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	3.9	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	3.9	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.0	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.1	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				3.9	3.9

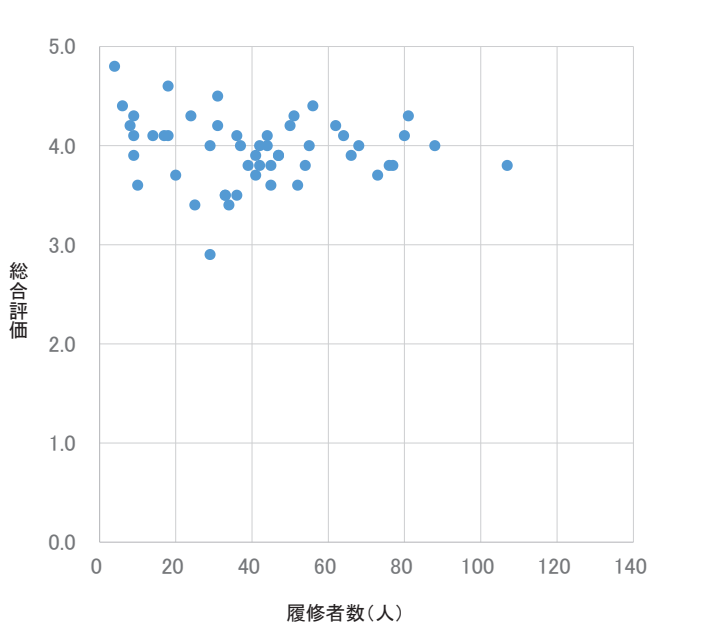
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

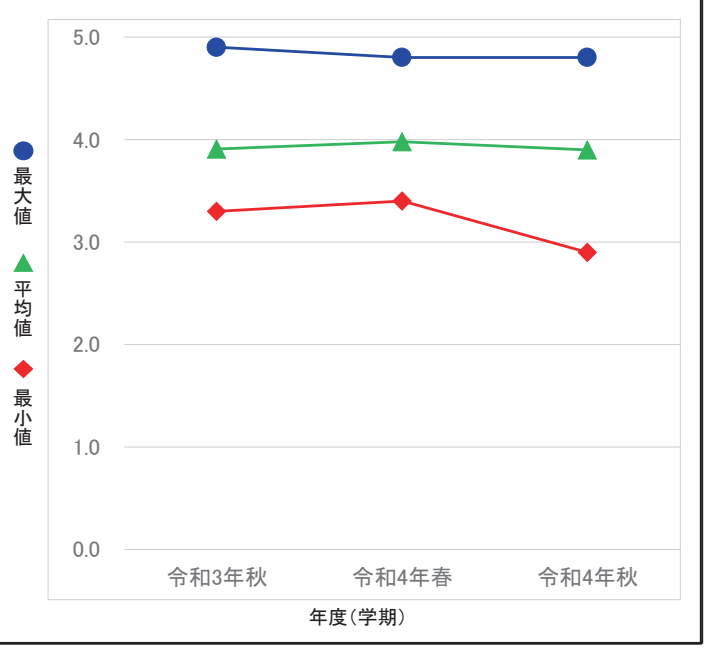




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



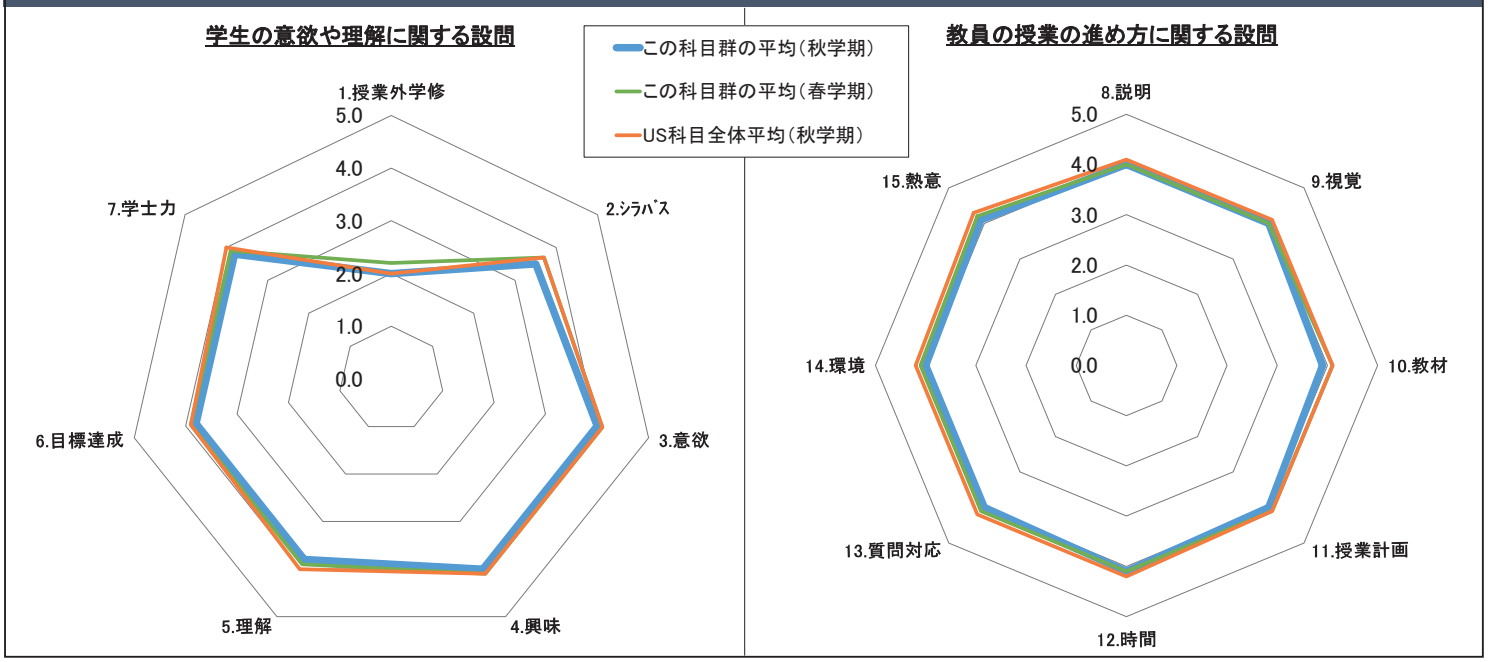
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

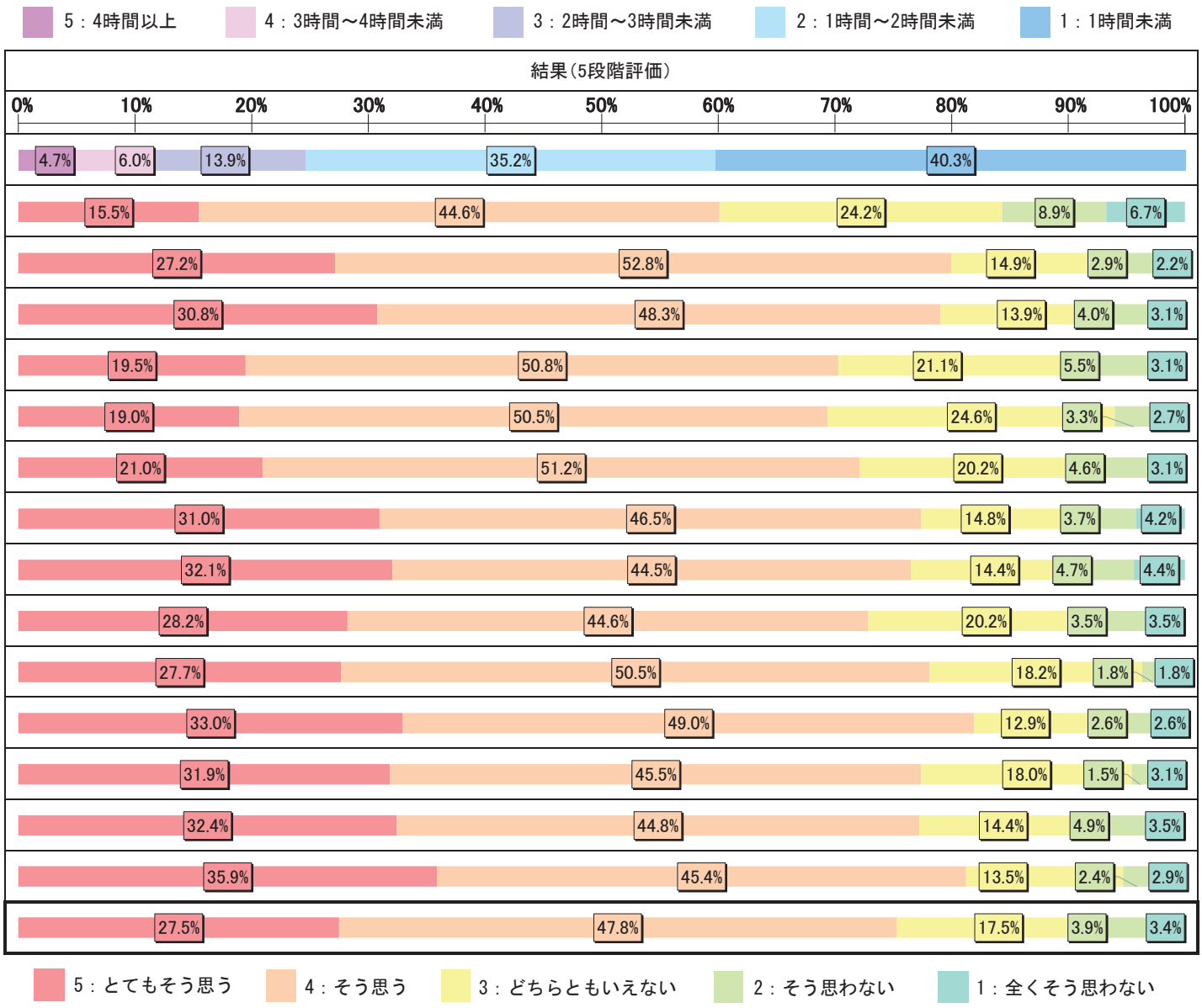
US科目　社会科学科目群　　履修者数：1,675 名　　回答者数：549 名　　回答率：32.8 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.0	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.5	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.0	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.0	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.8	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.8	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	3.8	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	3.9	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.0	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.0	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.0	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.1	4.3
総合評価				3.8	3.9

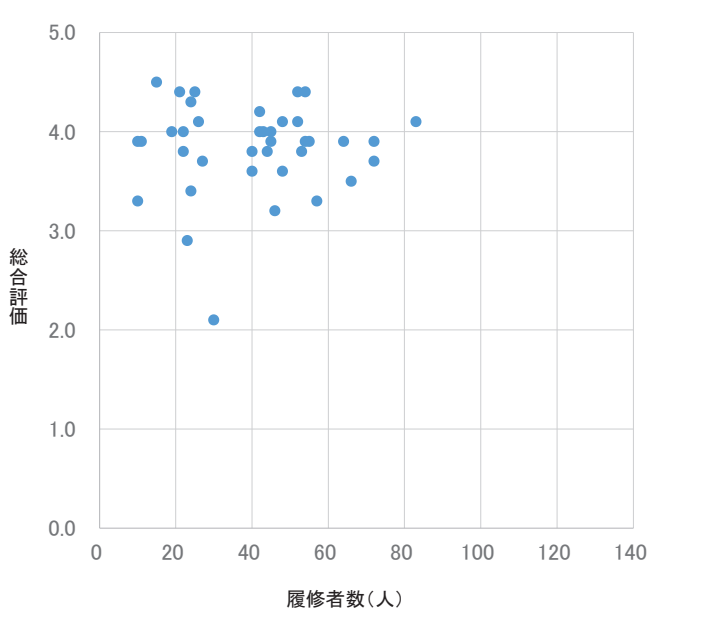
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

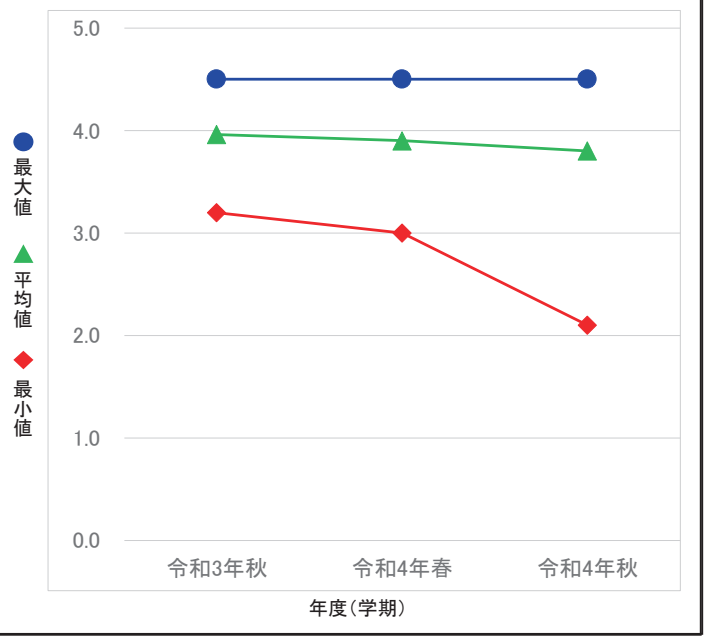




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



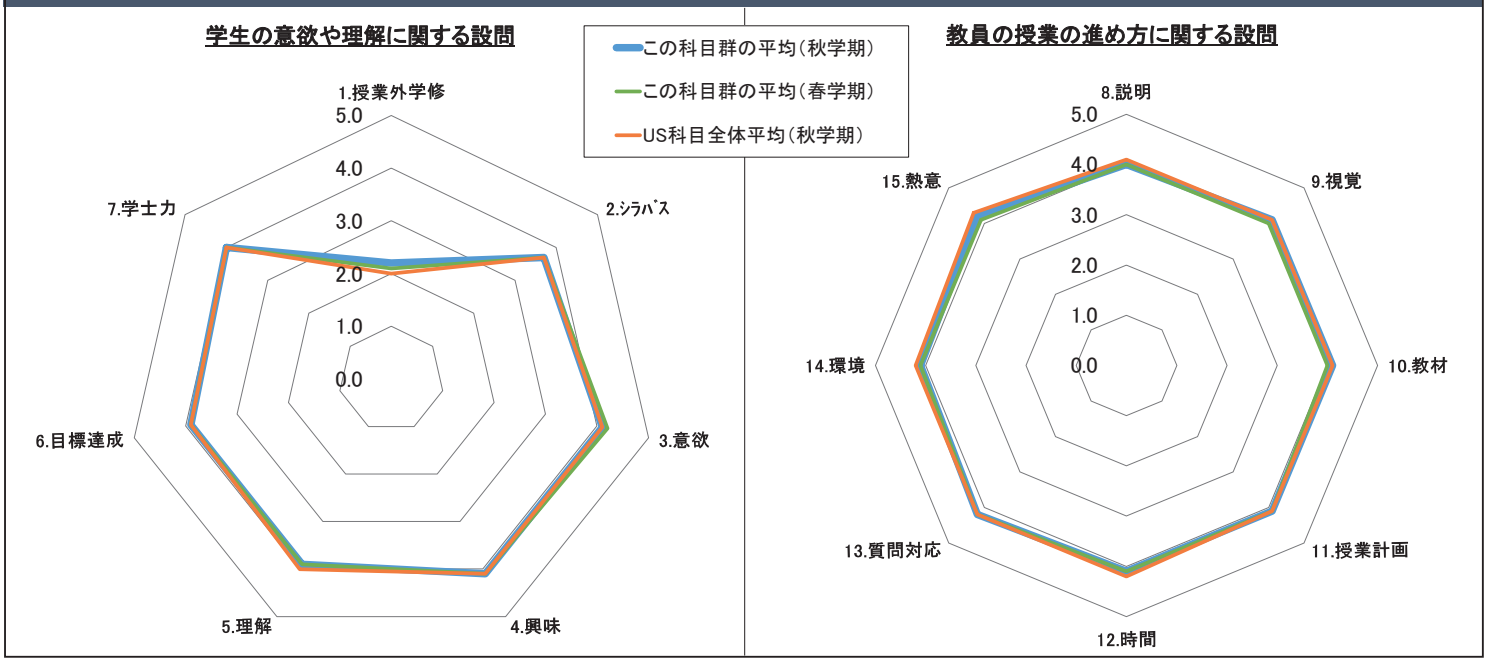
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

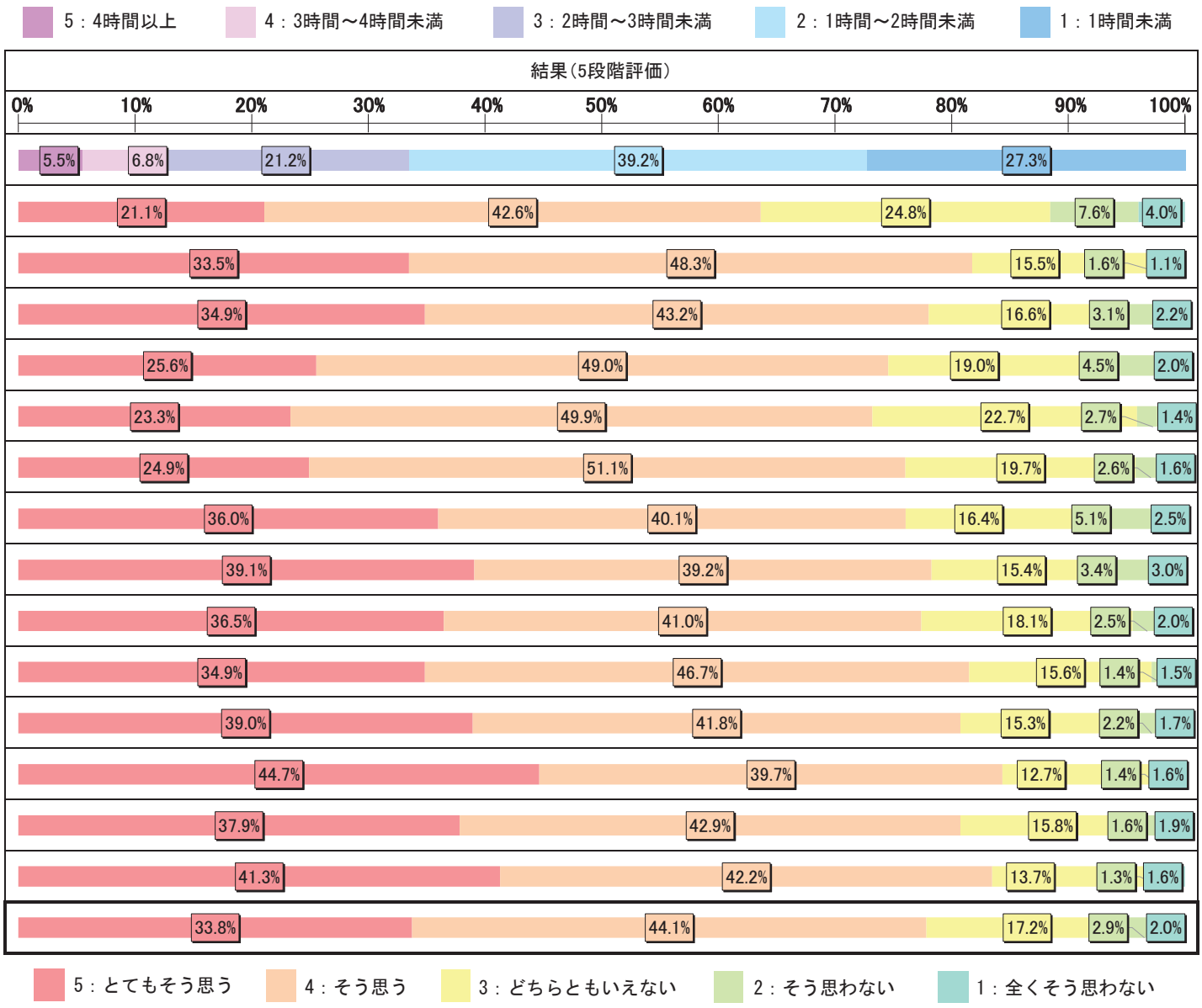
US科目　自然科学科目群　　履修者数：1,890 名　　回答者数：806 名　　回答率：42.6 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.2	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.1	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	3.9	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.0	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.1	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.1	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.2	4.3
総合評価				3.9	3.9

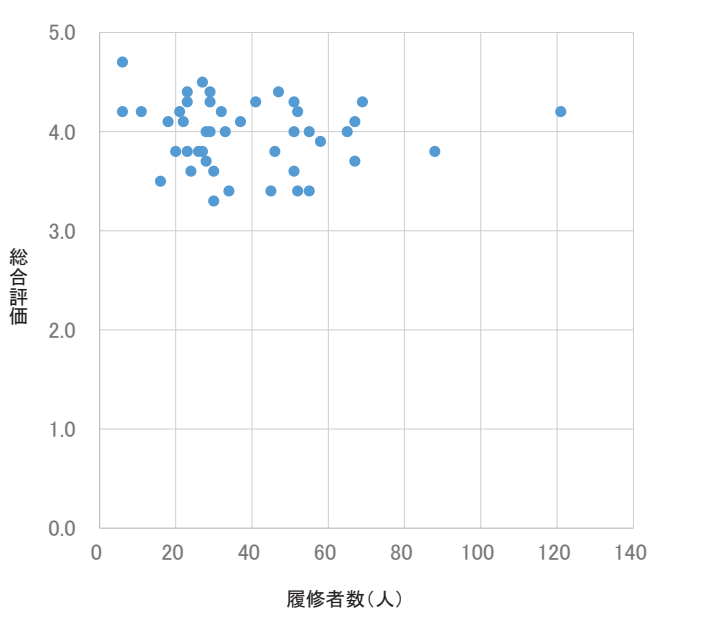
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

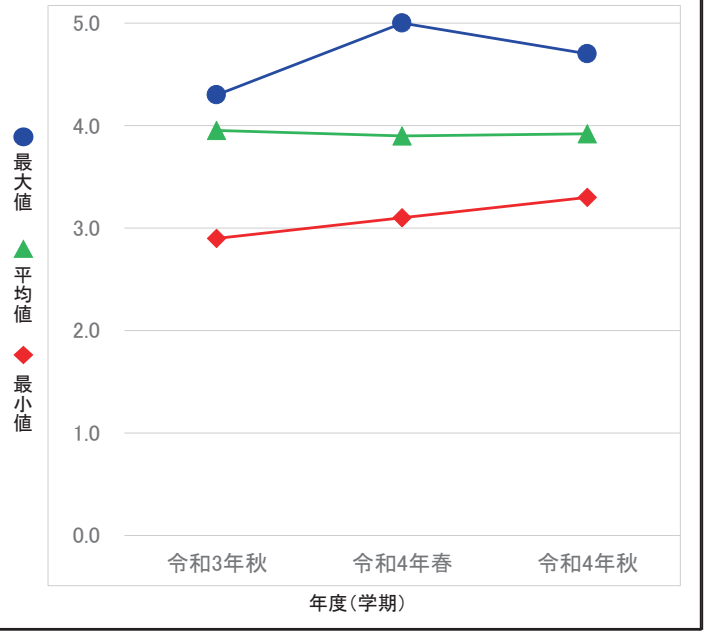




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



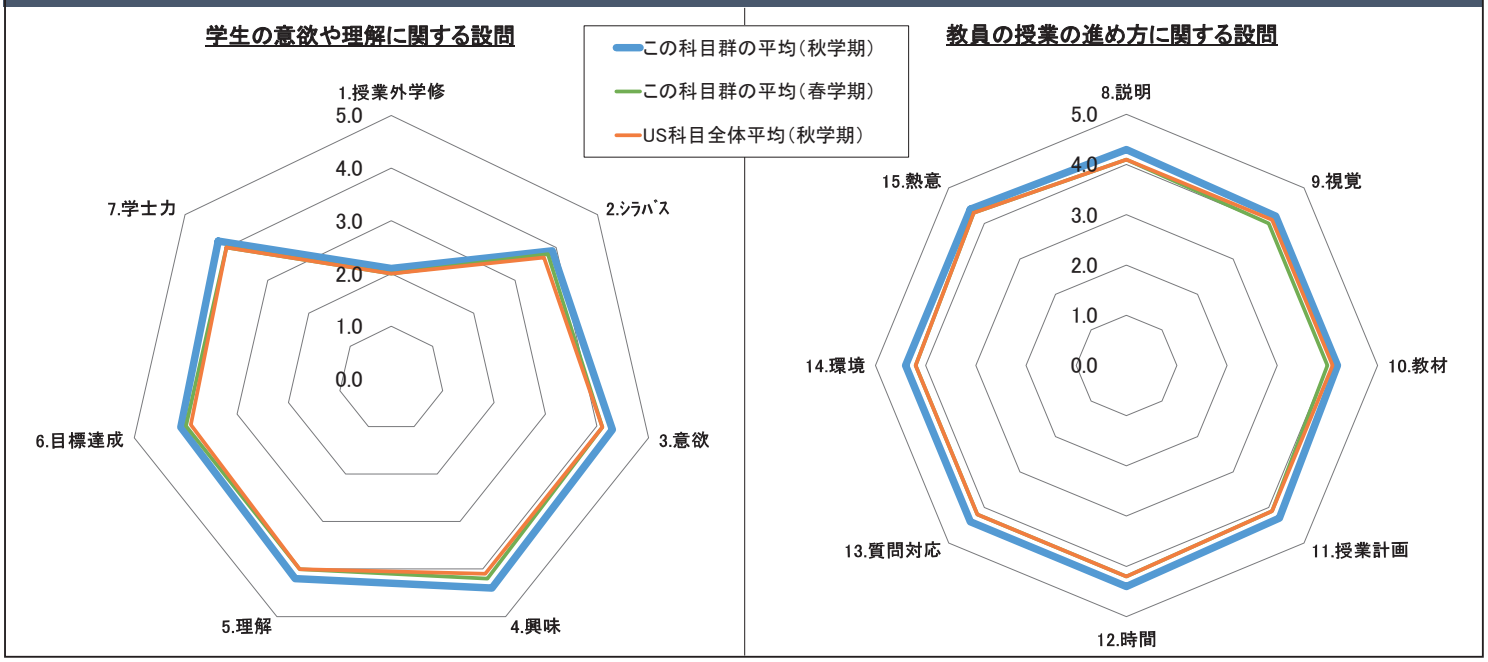
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

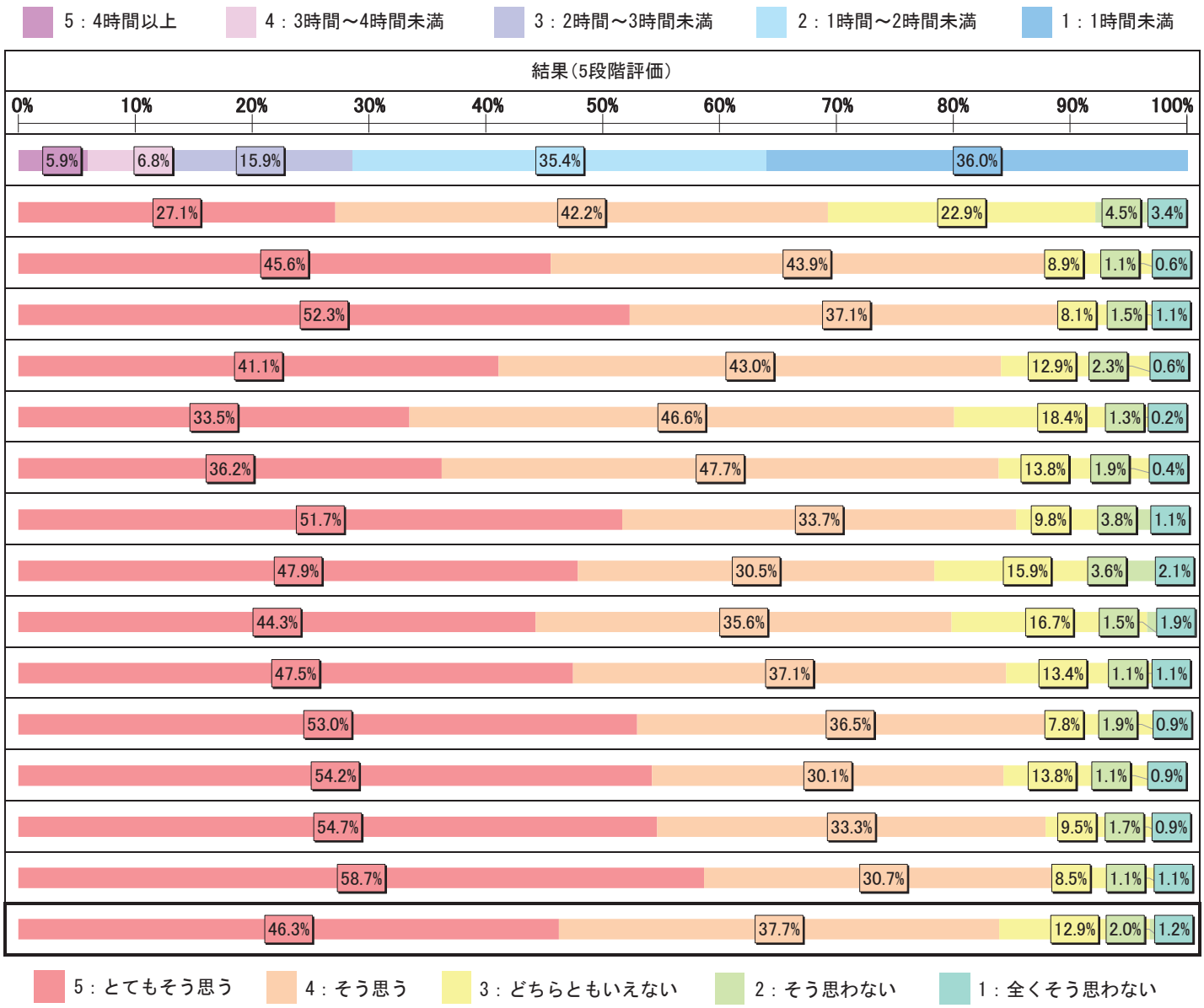
US科目　学際科目群　　履修者数：1,290 名　　回答者数：472 名　　回答率：36.6 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.9	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.4	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.2	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.1	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.2	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.3	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.2	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.2	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.3	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.4	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.4	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.4	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.4	4.3
総合評価				4.1	3.9

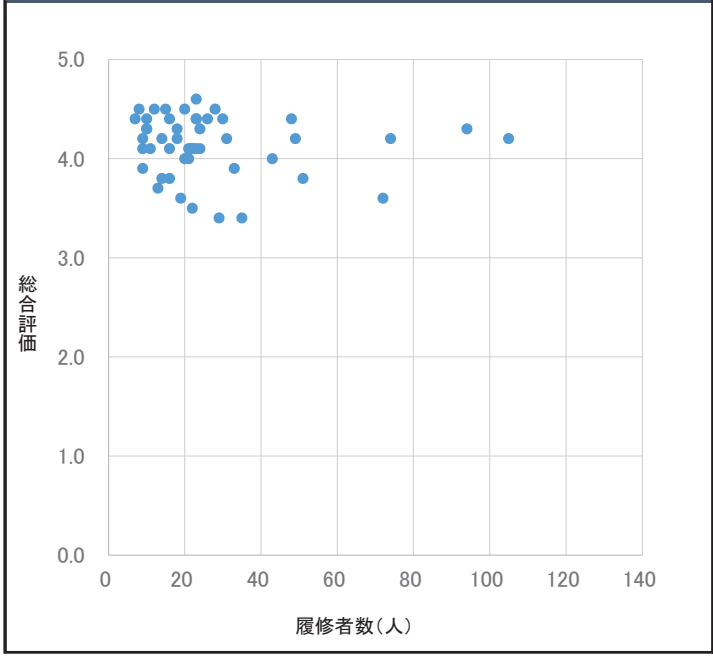
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

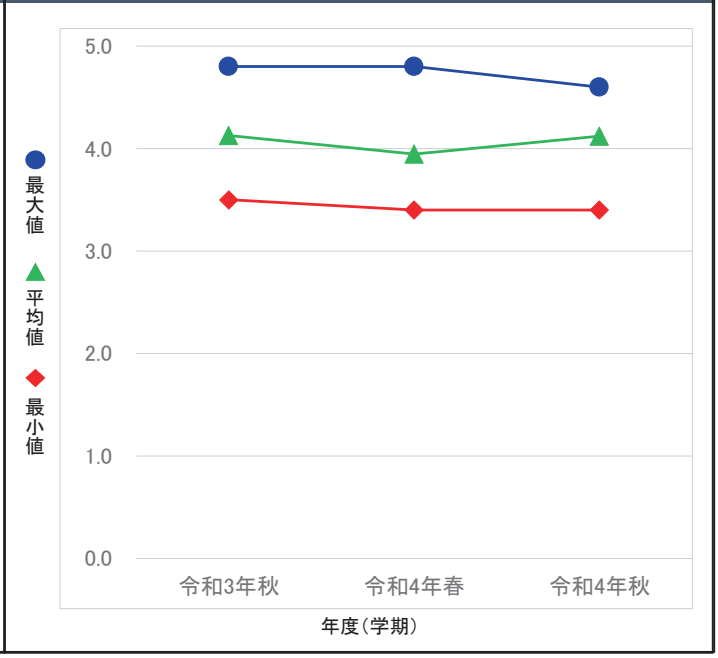




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



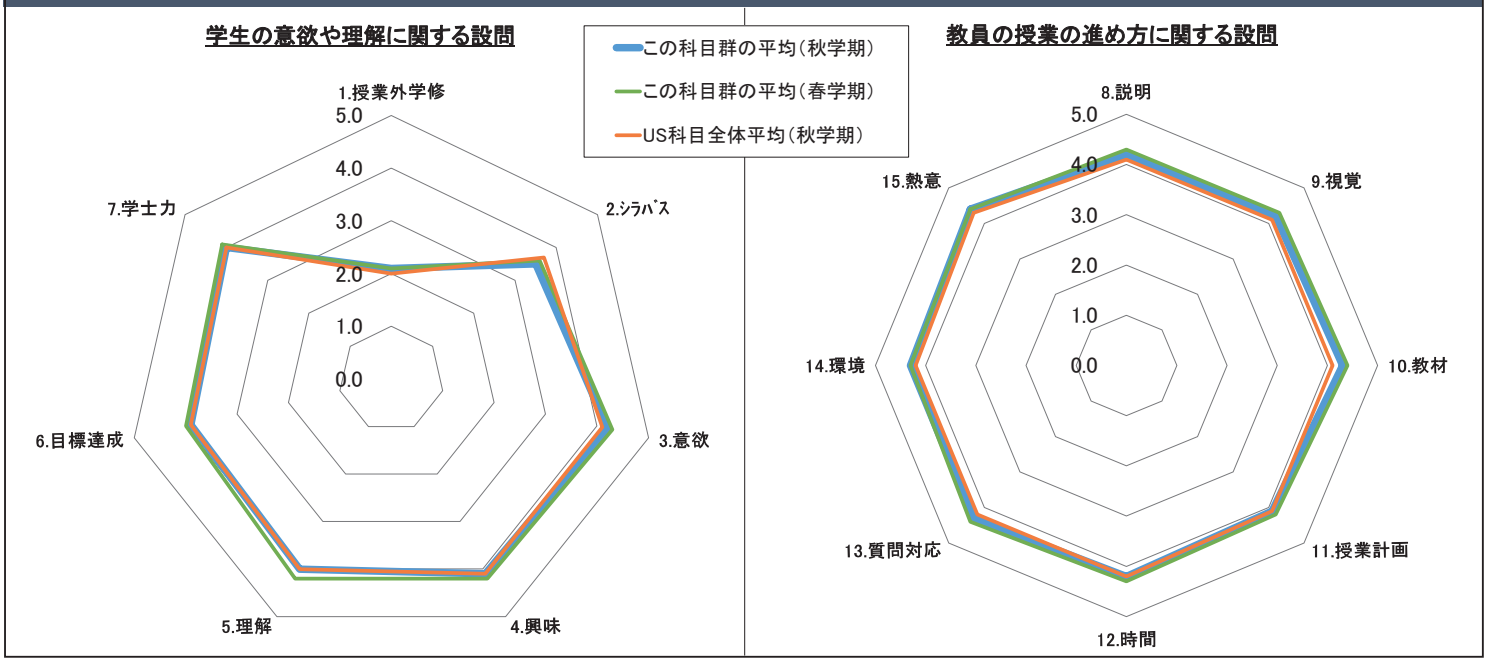
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

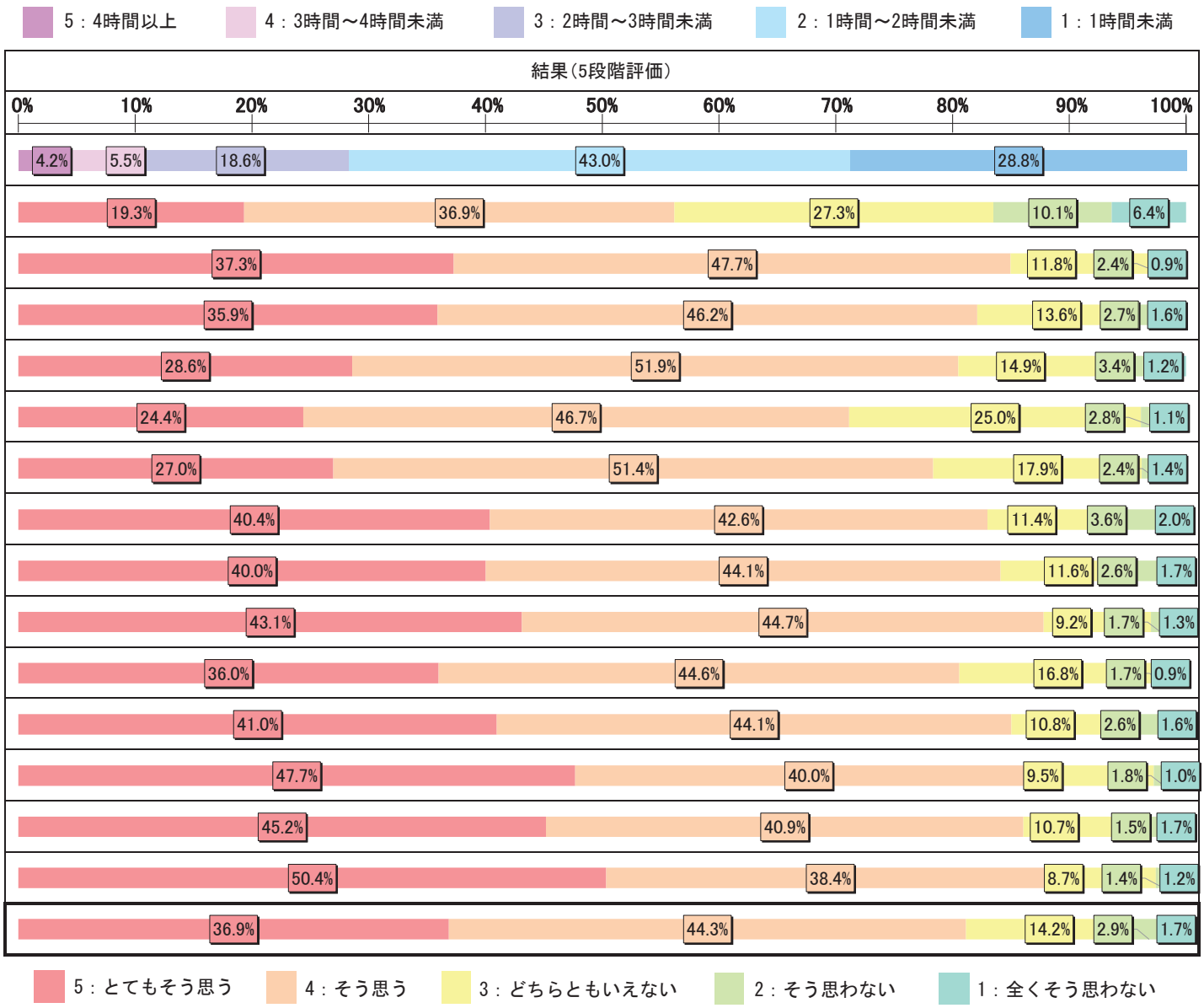
US科目　言語表現科目群　　履修者数：2,338 名　　回答者数：1,164 名　　回答率：49.8 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.1	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.5	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.1	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.0	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	3.9	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.2	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.2	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.3	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.3	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.3	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.4	4.3
総合評価				4.0	3.9

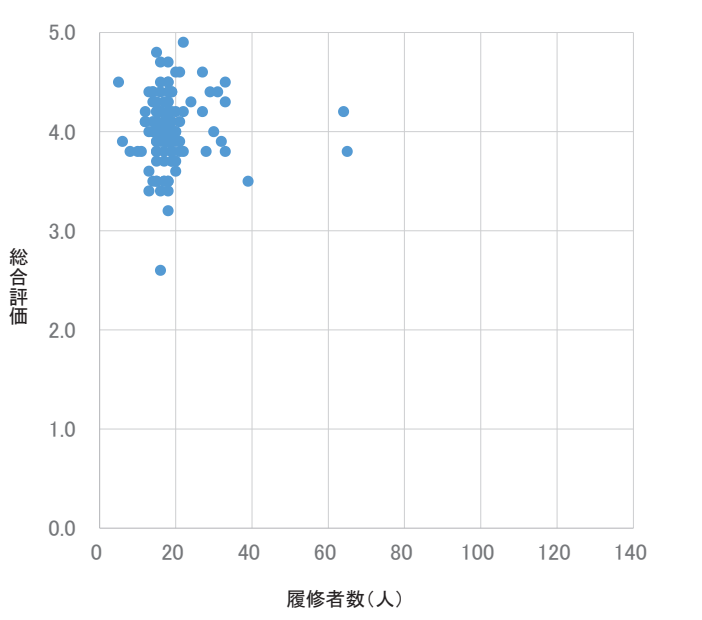
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

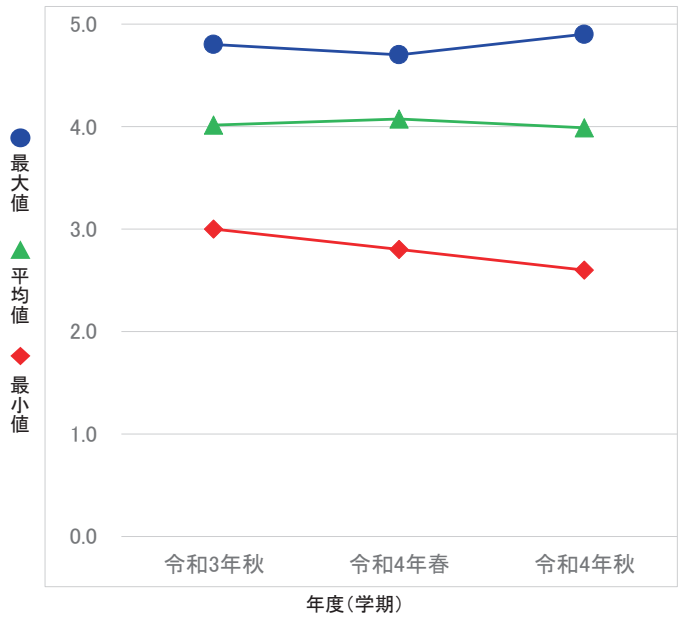




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



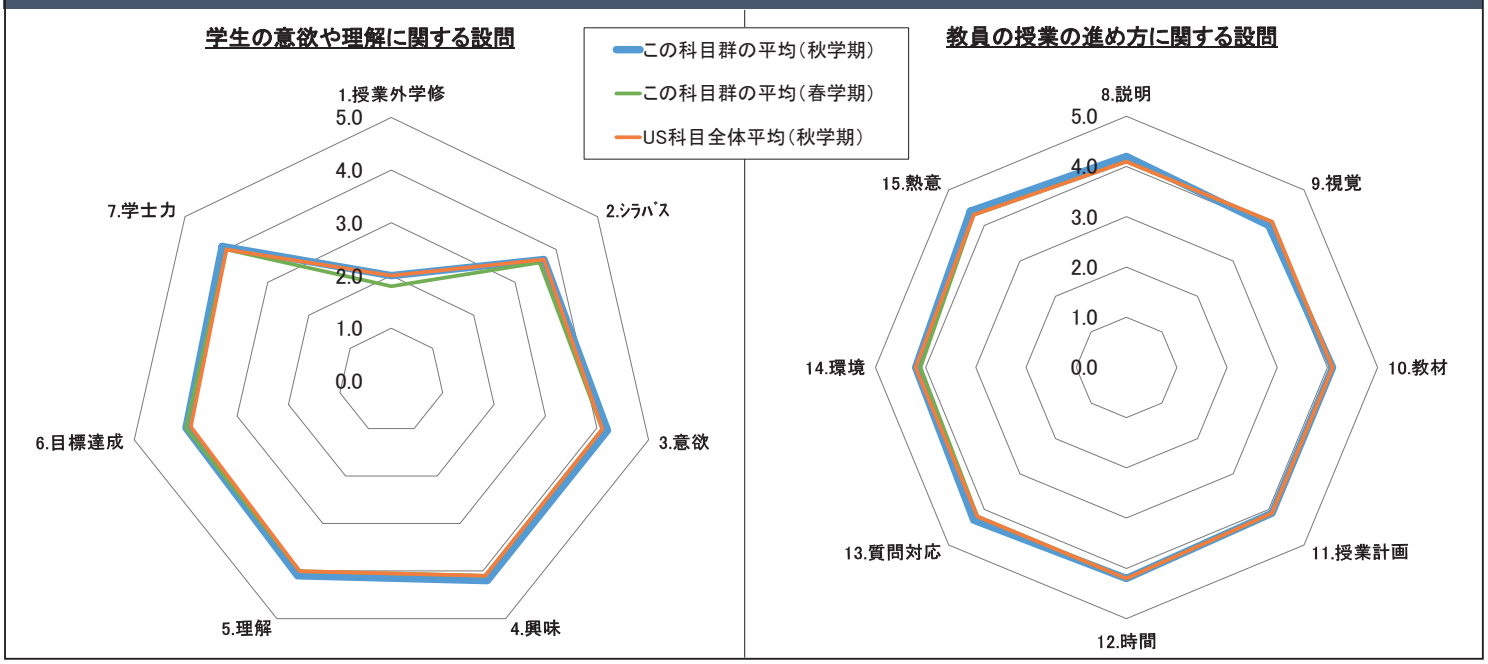
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

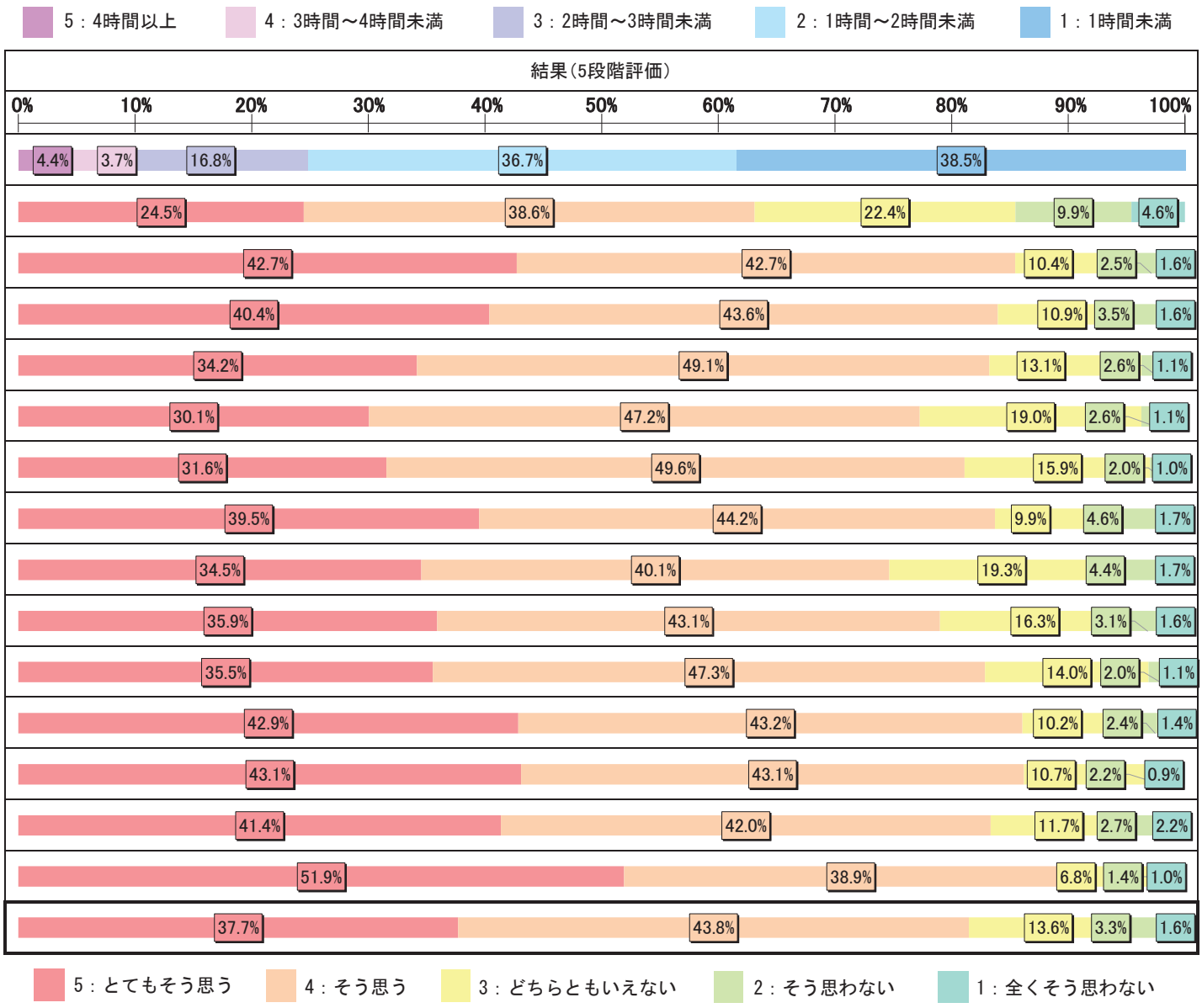
US科目　教職関連科目群　　履修者数：2,109 名　　回答者数：805 名　　回答率：38.2 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.0	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.7	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.2	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.2	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.1	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.1	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.2	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.0	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.1	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.3	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.2	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.4	4.3
総合評価				4.0	3.9

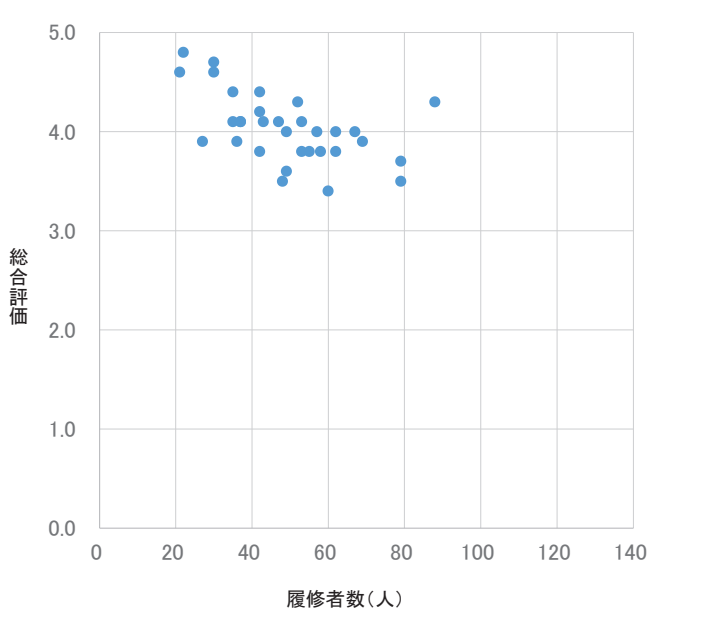
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

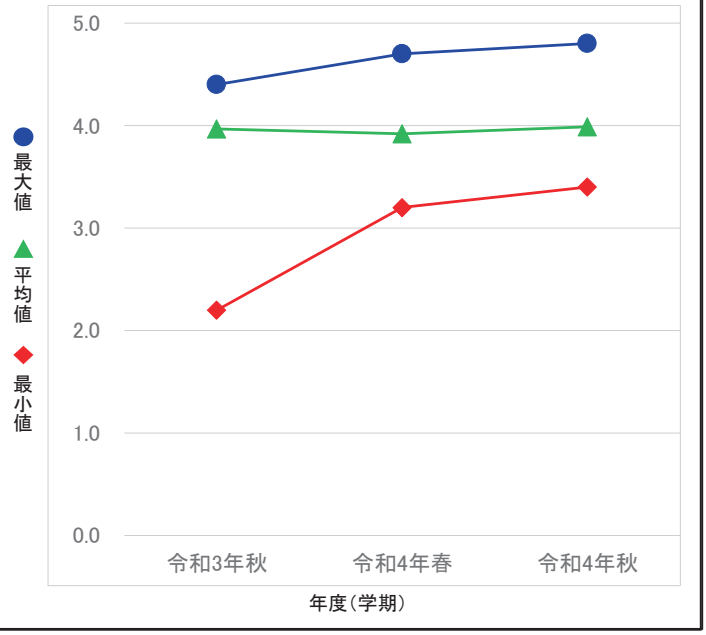




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



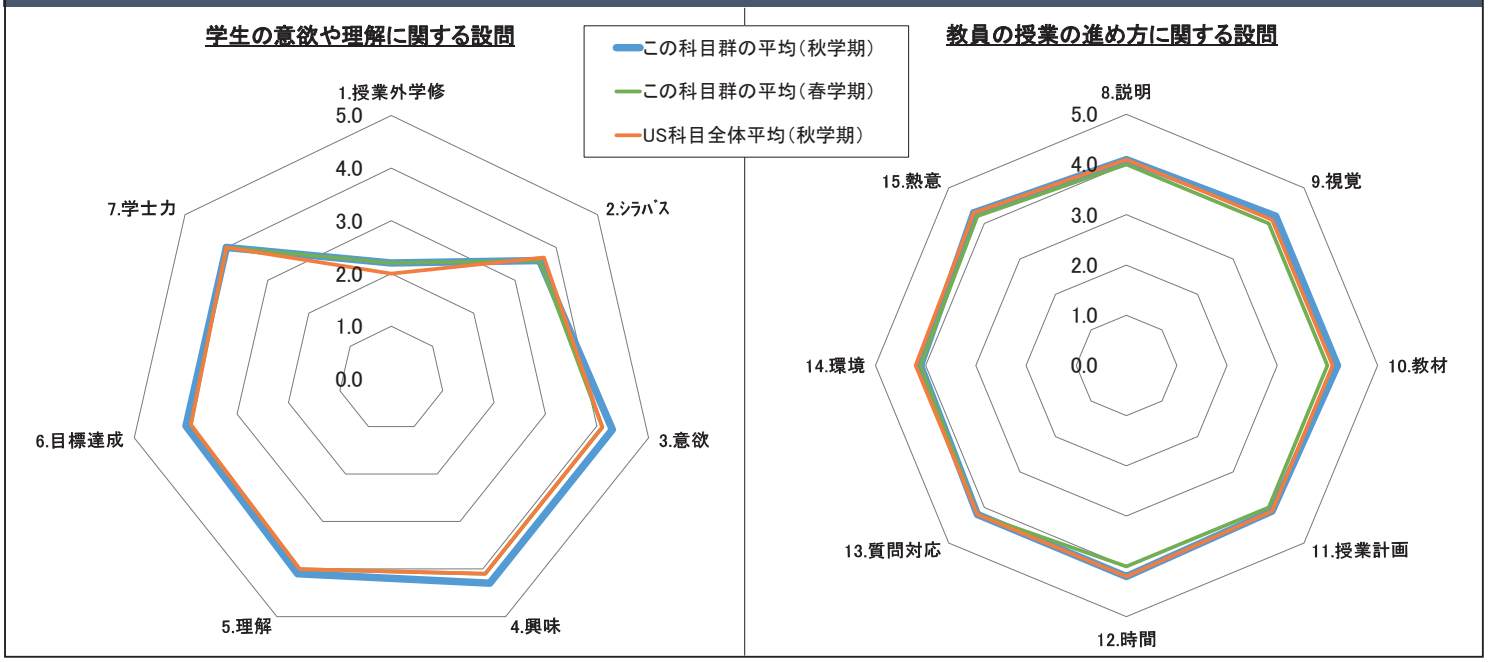
令和4年度　秋学期　学生による授業アンケート集計結果　　玉川大学

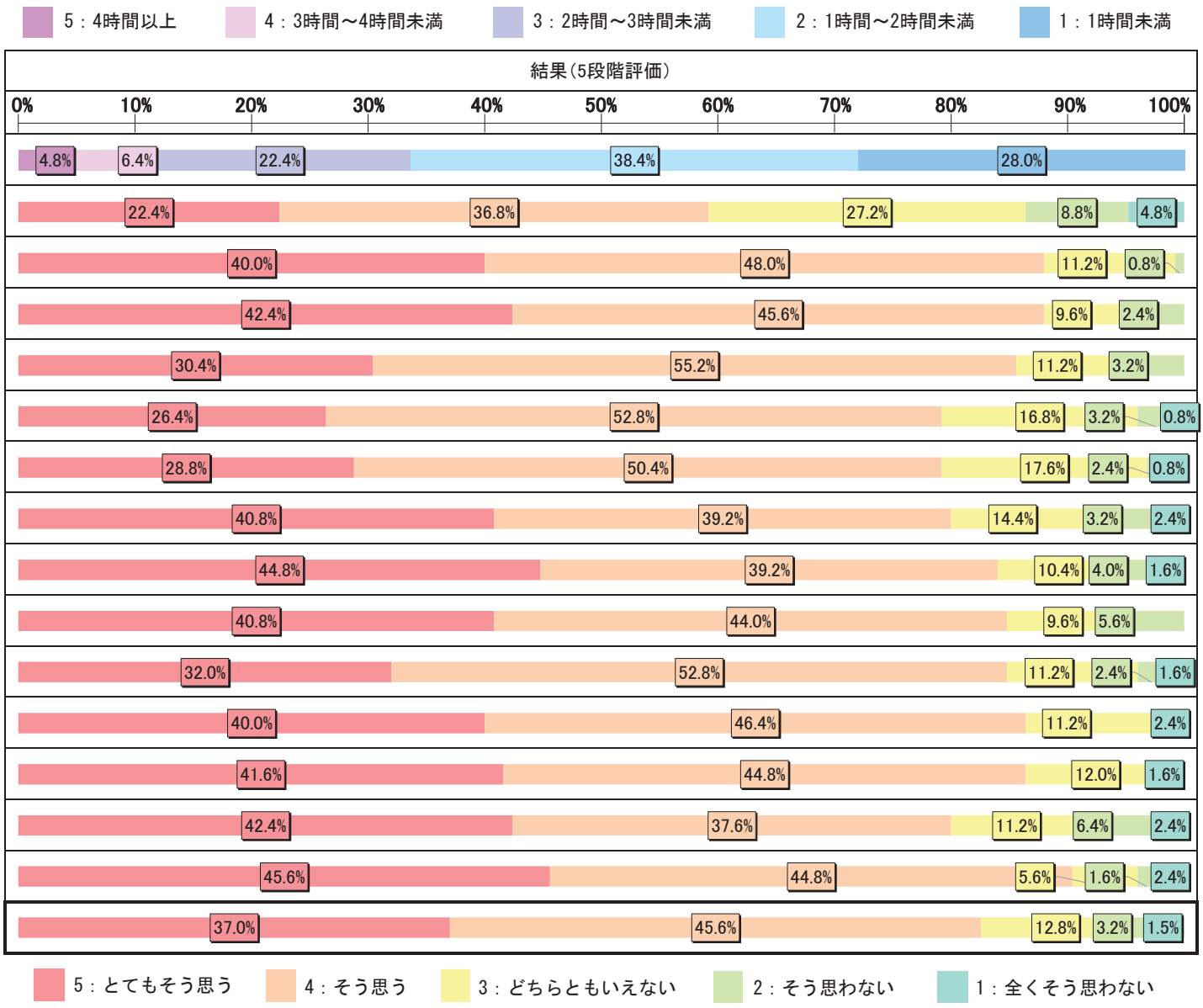
US科目　資格関連科目群　　履修者数：　369 名　　回答者数：　125 名　　回答率：　33.9 %

設問				科目群平均	US科目全体平均
学生の意欲や理解に関する設問	1	授業外学修	授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか	2.2	2.0
	2	ｼﾗﾊﾞｽ	学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか	3.6	3.7
	3	意欲	授業に意欲的に取り組みましたか	4.3	4.1
	4	興味	授業の内容に興味は持てましたか	4.3	4.1
	5	理解	授業の内容を十分に理解できましたか	4.1	4.0
	6	目標達成	シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか	4.0	3.9
	7	学士力	総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか ＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載	4.0	4.0
教員の授業の進め方に関する設問	8	説明	話し方や説明は分かりやすかったですか	4.1	4.1
	9	視覚	板書やパワーポイントなどは見やすかったですか	4.2	4.1
	10	教材	教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか	4.2	4.1
	11	授業計画	授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか	4.1	4.1
	12	時間	授業時間を有効に使っていましたか	4.2	4.2
	13	質問対応	質問に適切に対応してくれましたか	4.2	4.2
	14	環境	授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか	4.1	4.2
	15	熱意	授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか	4.3	4.3
総合評価				4.0	3.9

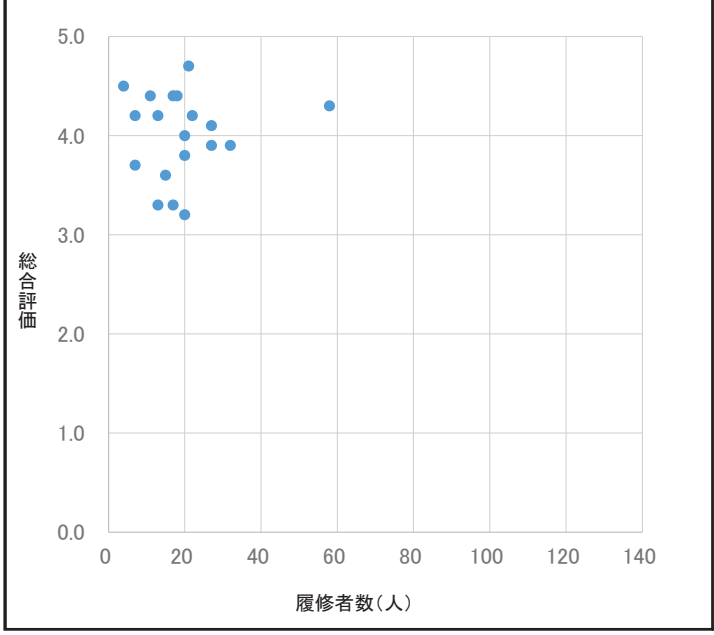
平均値＝（「5」回答数×5 ＋「4」回答数×4 ＋「3」回答数×3 ＋「2」回答数×2 ＋「1」回答数×1）／ 回答数（小数点第2位を四捨五入）

質問別評価平均レーダーチャート

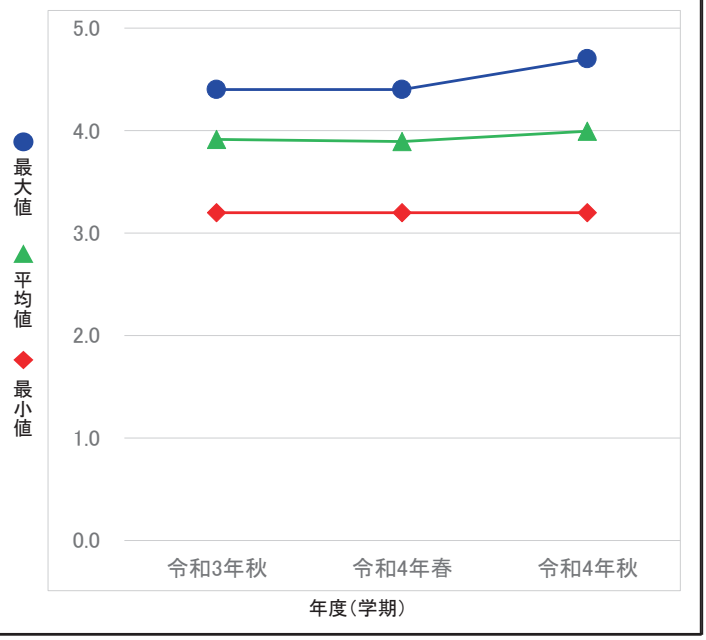




総合評価の分布(この科目群の全授業)



この科目群の総合評価の半期推移



授業アンケート一覧＞**授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2023/02/17（金） 09:00～2023/02/23（木） 23:59

対象者数(延べ数)： 249人 回答者数(延べ数)： 110人 回答率 44.2%

2022_授業アンケート【ウィンターセッションⅠ期】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	2.7%	3人
3時間～4時間未満	5.5%	6人
2時間～3時間未満	23.6%	26人
1時間～2時間未満	46.4%	51人
1時間未満	21.8%	24人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	30.0%	33人
そう思う	38.2%	42人
どちらともいえない	20.9%	23人
そう思わない	7.3%	8人
全くそう思わない	3.6%	4人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	63.6%	70人
そう思う	29.1%	32人
どちらともいえない	7.3%	8人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	72.7%	80人
そう思う	22.7%	25人
どちらともいえない	3.6%	4人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	58.2%	64人
そう思う	33.6%	37人
どちらともいえない	5.5%	6人
そう思わない	1.8%	2人
全くそう思わない	0.9%	1人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.0%	55人
そう思う	34.5%	38人
どちらともいえない	14.5%	16人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	53.6%	59人
そう思う	36.4%	40人
どちらともいえない	7.3%	8人
そう思わない	2.7%	3人
全くそう思わない	0.0%	0人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	66.4%	73人
そう思う	29.1%	32人
どちらともいえない	3.6%	4人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

9．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	58.2%	64人
そう思う	26.4%	29人
どちらともいえない	11.8%	13人
そう思わない	3.6%	4人
全くそう思わない	0.0%	0人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	67.3%	74人
そう思う	23.6%	26人
どちらともいえない	8.2%	9人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	66.4%	73人
そう思う	27.3%	30人
どちらともいえない	5.5%	6人
そう思わない	0.9%	1人
全くそう思わない	0.0%	0人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	73.6%	81人
そう思う	21.8%	24人
どちらともいえない	4.5%	5人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	75.5%	83人
そう思う	20.9%	23人
どちらともいえない	3.6%	4人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	73.6%	81人
そう思う	22.7%	25人
どちらともいえない	3.6%	4人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	83.6%	92人
そう思う	11.8%	13人
どちらともいえない	4.5%	5人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	0.0%	0人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

授業アンケート一覧> **授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2023/03/06（月） 09:00～2023/03/12（日） 23:59

対象者数(延べ数)： 377人 回答者数(延べ数)： 147人 回答率 39.0%

2022_授業アンケート【ウィンターセッションⅡ期】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	3.4%	5人
3時間～4時間未満	5.4%	8人
2時間～3時間未満	22.4%	33人
1時間～2時間未満	40.8%	60人
1時間未満	27.9%	41人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	23.1%	34人
そう思う	44.2%	65人
どちらともいえない	21.8%	32人
そう思わない	7.5%	11人
全くそう思わない	3.4%	5人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	41.5%	61人
そう思う	46.9%	69人
どちらともいえない	7.5%	11人
そう思わない	3.4%	5人
全くそう思わない	0.7%	1人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.9%	66人
そう思う	44.2%	65人
どちらともいえない	6.8%	10人
そう思わない	1.4%	2人
全くそう思わない	2.7%	4人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	36.7%	54人
そう思う	46.9%	69人
どちらともいえない	12.2%	18人
そう思わない	2.7%	4人
全くそう思わない	1.4%	2人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	29.9%	44人
そう思う	48.3%	71人
どちらともいえない	17.7%	26人
そう思わない	2.0%	3人
全くそう思わない	2.0%	3人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	33.3%	49人
そう思う	51.0%	75人
どちらともいえない	12.9%	19人
そう思わない	1.4%	2人
全くそう思わない	1.4%	2人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	45.6%	67人
そう思う	39.5%	58人
どちらともいえない	10.2%	15人
そう思わない	2.7%	4人
全くそう思わない	2.0%	3人

9．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	40.1%	59人
そう思う	39.5%	58人
どちらともいえない	11.6%	17人
そう思わない	6.8%	10人
全くそう思わない	2.0%	3人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	45.6%	67人
そう思う	36.7%	54人
どちらともいえない	12.2%	18人
そう思わない	2.7%	4人
全くそう思わない	2.7%	4人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	38.8%	57人
そう思う	43.5%	64人
どちらともいえない	13.6%	20人
そう思わない	3.4%	5人
全くそう思わない	0.7%	1人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	46.3%	68人
そう思う	38.8%	57人
どちらともいえない	7.5%	11人
そう思わない	6.1%	9人
全くそう思わない	1.4%	2人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.3%	74人
そう思う	41.5%	61人
どちらともいえない	6.8%	10人
そう思わない	0.7%	1人
全くそう思わない	0.7%	1人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	50.3%	74人
そう思う	38.1%	56人
どちらともいえない	6.1%	9人
そう思わない	2.0%	3人
全くそう思わない	3.4%	5人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	58.5%	86人
そう思う	33.3%	49人
どちらともいえない	6.1%	9人
そう思わない	0.7%	1人
全くそう思わない	1.4%	2人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

授業アンケート一覧＞**授業アンケート結果参照**　戻る

期間： 2023/03/23（木） 09:00～2023/03/29（水） 23:59

対象者数(延べ数)： 170人 回答者数(延べ数)： 65人 回答率 38.2%

2022_授業アンケート【ウィンターセッションⅢ期】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。
入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1．授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか （必須）

	比率	人数
4時間以上	1.5%	1人
3時間～4時間未満	3.1%	2人
2時間～3時間未満	16.9%	11人
1時間～2時間未満	33.8%	22人
1時間未満	44.6%	29人

2．学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	24.6%	16人
そう思う	47.7%	31人
どちらともいえない	16.9%	11人
そう思わない	3.1%	2人
全くそう思わない	7.7%	5人

3．授業に意欲的に取り組みましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	46.2%	30人
そう思う	44.6%	29人
どちらともいえない	6.2%	4人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	1.5%	1人

4．授業の内容に興味は持てましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	46.2%	30人
そう思う	43.1%	28人
どちらともいえない	7.7%	5人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	1.5%	1人

5．授業の内容を十分に理解できましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	44.6%	29人
そう思う	47.7%	31人
どちらともいえない	6.2%	4人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

6．シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	40.0%	26人
そう思う	47.7%	31人
どちらともいえない	10.8%	7人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

7．総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載 （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	41.5%	27人
そう思う	49.2%	32人
どちらともいえない	7.7%	5人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

教員の授業の進め方について

8．話し方や説明は分かりやすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	56.9%	37人
そう思う	38.5%	25人
どちらともいえない	3.1%	2人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

9．板書やパワーポイントなどは見やすかったですか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	63.1%	41人
そう思う	30.8%	20人
どちらともいえない	1.5%	1人
そう思わない	3.1%	2人
全くそう思わない	1.5%	1人

１０．教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	67.7%	44人
そう思う	26.2%	17人
どちらともいえない	4.6%	3人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

１１．授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	55.4%	36人
そう思う	41.5%	27人
どちらともいえない	1.5%	1人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

１２．授業時間を有効に使っていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	60.0%	39人
そう思う	33.8%	22人
どちらともいえない	1.5%	1人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	3.1%	2人

１３．質問に適切に対応してくれましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	60.0%	39人
そう思う	35.4%	23人
どちらともいえない	3.1%	2人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

１４．授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	55.4%	36人
そう思う	35.4%	23人
どちらともいえない	6.2%	4人
そう思わない	1.5%	1人
全くそう思わない	1.5%	1人

１５．授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか （必須）

	比率	人数
とてもそう思う	61.5%	40人
そう思う	33.8%	22人
どちらともいえない	3.1%	2人
そう思わない	0.0%	0人
全くそう思わない	1.5%	1人

自由記述欄

その他、意見、感想等があれば記述してください【200字以内】
（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。
ご協力ありがとうございました。

集計結果CSV出力

Ⅱ　大学院 FD 活動報告

＜文学研究科＞

（1）講演会・研修会・ワークショップなど

FD 活動計画のとおり、文学研究科の修了生および現役の大学院生に対して、「大学院での学修はどのように役に立っているか」と題したインタビュー調査を行い、文学研究科のカリキュラム等の改善のための資料を得ることを試みた。人間学専攻の修士 2 年の学生 1 名（修士論文の審査等が終了し、修了を待つのみの学生）と英語教育専攻の修了生 2 名に対して、Zoom でのインタビューを行った。インタビューの中では、以下のような質問を行った。

・修士課程在籍中には何を学んだと感じているか。
・現在の職業において修士課程での学びが役立っている点はあるか。
・修士課程在籍中に、これは学んでおきたかったという点はあるか。
・修士課程在籍中に、学び以外の点で、この点をサポートしてほしかった、という点はあるか。あるいはサポートがあってよかったという点はあるか。
・職業生活以外で、修士課程での学びが役立っている点はあるか。

文学研究科の教員はインタビューに参加、または、後日録画動画を視聴した後に、次の項目について、各自がレポートを提出した。

・今後の大学院の授業で、新しく取り組みたいことや、より意識していきたいこと
・大学院のカリキュラム改編への案
・入学者を増やすための取り組みの案

これらの点について、インタビューを視聴した教員から、以下のような報告が見られた。

・ 必ずしも大学院での研究のための基礎的知識を備えた学生が入学してくるとも限らない昨今の状況を鑑み、学生一人ひとりの希望に応じた学びの指導をきめ細かく行う必要がある。
・ 大学院生の興味関心になるべく合うような題材を選ぶとともに、テキストの読解力、発表の能力、論理的思考と議論の展開の能力を鍛えるような授業になることを心がける必要がある。
・ 院生自身が文献を読み、知識を吸収し、考えることを土台としながらも、教員、他の受講生たちとの議論が考えを深めることの重要な手段として認識されていることが分かった。教員としても重要な手段として認識し、院生が知を深める支援をしていく必要がある。
・ 今回のインタビューにより、教職に就いた修了生とそうではない修了生では、大学院で学修した事柄に対する評価がかなり異なっていたため、両方の進路に適切に対応できる大学院のカリキュラムを編成する必要がある。

・ 特に教職に就いた修了生の話から、大学院生のときに現場との接点を持つ機会をより充実させる必要があると感じた。
・ インタビューを受けた修了生が大学院の時はコロナ禍ということもあり、人と人とのつながりが非常に重要であることをほのめかしていたので、「修了生と大学院生」および「大学院生と学部生」との交流の機会、また、他大学の大学院生との交流の機会を増やす試みをしていくことが必要である。
・ 現職英語教員を想定した大学院のプログラムの検討をしていくべきである。

また、カリキュラムや学生の研究指導などに関して、文学研究科の教員が集まって実践や意見を交換し合う機会を以下のとおり、2 回設定した。

・令和 4 年 9 月 21 日（水）10 時 30 分～12 時 00 分
・令和 5 年 3 月 23 日（木）13 時 30 分～15 時 00 分

この話し合いの中で確認した課題等を次年度以降に解決していく予定である。

（2）調査・研究など
FD 活動計画のとおり、カリキュラム・授業改善のための基礎データ収集の目的で、修了生へのインタビューを行った。内容については、上記（1）で示したとおりである。

（3）学会発表の成果の検証
FD 活動計画では、学会発表の成果検証として、学会発表後に、学生および指導担当教員が報告書を提出することになっていたが、令和 4 年度は学生の学会発表はなかった。

（4）学生による授業アンケート
FD 活動計画のとおり、学生による授業アンケートを行った。対象となった授業は文学研究科が提供しているすべての授業であった。下記のとおり、全授業において、おおむね評価が高かった。「2. この授業で学修したことを、自分の研究課題に関連付けることができた。」の項目について、平均値が他の項目と比べてやや低いものが散見されるが、履修するすべての科目が、各学生の研究課題と直接関係するわけではないことから、今後、特に改善すべき点として捉える必要はないと考える。履修者が少ない授業、特に履修者が 1 名の授業においては、回答した学生の匿名性が確保されないが、学生からは特にその点の指摘がなかったことから、今後も、すべての科目で同様のアンケートを実施する予定である。また、項目の内容の見直しを行い、必要があれば、新項目を設定するなど、アンケート内容を改良していく予定である。
授業ごとの結果は以下の表のとおりだが、各授業における数値は、以下の 4 段階の尺度の平均値である。なお、春学期の「研究指導Ⅰ」と秋学期の「研究指導Ⅱ」は指導担当教員ごとに異なる授業内容になるが、すべての指導担当教員の授業を合算した数値を示している。

4 とても当てはまる　　3 やや当てはまる
2 あまり当てはまらない　　1 まったく当てはまらない

春学期		ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾘﾃﾗｼｰ	思想文化演習	応用倫理学演習	応用言語学研究	英語教育研究	英語科コースデザイン	ELF研究	研究指導Ⅰ
	履修者数	4名	1名	1名	4名	4名	1名	3名	3名
1	この授業の専門分野に関する知識やスキルが高まった。	3.5	4.0	4.0	3.8	3.8	4.0	3.7	4.0
2	この授業で学修したことを、自分の研究課題に関連付けることができた。	3.3	3.0	3.0	3.8	3.3	4.0	3.0	4.0
3	この授業を通して、自分の研究を遂行するための論理的思考力が高まった。	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.7	4.0
4	この授業を通して、自分の研究を遂行するために必要な知識やスキルを身に付けることができた。	3.5	4.0	4.0	3.5	3.0	3.0	3.3	4.0
5	この授業を通して、自分の研究課題に関する新たな視点を発見することができた。	3.8	3.0	3.0	3.8	3.8	3.0	4.0	4.0

秋学期		現代社会研究	社会行動学研究	言語使用研究	英語教育総合	入門期英語教育研究	英語教育研究入門	言語獲得研究	研究指導Ⅱ
	履修者数	2名	4名	4名	4名	3名	3名	1名	3名
1	この授業の専門分野に関する知識やスキルが高まった。	3.0	3.0	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
2	この授業で学修したことを、自分の研究課題に関連付けることができた。	3.5	3.0	2.8	3.5	3.0	4.0	3.0	4.0
3	この授業を通して、自分の研究を遂行するための論理的思考力が高まった。	4.0	3.5	3.5	3.8	4.0	3.7	3.0	4.0
4	この授業を通して、自分の研究を遂行するために必要な知識やスキルを身に付けることができた。	3.5	3.0	3.5	3.8	4.0	3.7	3.0	4.0
5	この授業を通して、自分の研究課題に関する新たな視点を発見することができた。	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0

（５）その他（院生に対する研究倫理教育の実施）

昨年度に引き続き、文学研究科の全学生に eL CoRE の受講を義務づけた。年度初めの 4 月中に学生が受講を終え、受講証明書を提出した。また、学生自身が実際にデータ収集を行う際に適切なプロセスを踏んでいるかどうかを確認するため、eL CoRE の学習内容、及び関連学会の研究倫理を参考にしながら、研究倫理チェックリストを作成し、学生に配付した。2 年生は、修士論文の提出の際に、チェックを入れたものを一緒に提出した。提出したリストを教員が確認したところ、すべての学生が適切な手順で研究を行っていた。今後は、研究倫理チェックリストを必要があれば改良し、引き続き、学生に配付した上で、研究を行う際に活用していく予定である。

＜農学研究科＞

活動計画

（１）講演会「多様な学生の心のケアについて」

（２）ワークショップ「オンライン教材、オンデマンド教材、対面講義教材の作成時に利用可能なサポート体制について」

（３）研修会（研究談話会）の実施

（４）大学院生の学修・研究環境の実態調査とその改善

（５）学生による授業アンケート「科学英語表現」

活動計画（１）学生の心のケアに関する講演会の開催

「多様な学生の心のケア」（講師：保健センター健康院・カウンセラー　伊東 優子先生）という演題でコロナ禍での学生の精神的不安・負担に対する対応に関する講演をオンライン形式で開催した。講演では、保健センター健康院での学生カウンセリング制度の紹介やコロナ禍での取り組みについて説明していただき、事前に教員から提出してもらった質問に対する回答・コメントをいただいた。具体的な対応をアドバイスしていただき、それらの情報を教員間で共有した。

活動計画（２）オンライン教材，オンデマンド教材，対面講義教材の作成時に利用可能なサポート体制についての講演会の開催

学修支援課（浅利課長）、DTS（井上氏、村松氏、太田氏）、および農学部生産農学科大塚みゆき准教授をプレゼンターとして、本学のオンライン授業支援の制度、実施例などを紹介頂き、遠隔授業のみならず対面授業やハイフレックス授業でも利用可能な映像教材の作成法について理解を深めた。多くの参加者からオンライン教材作成法について具体的な方法やその運用例の内容が把握できたとのコメントを得ており、オンライン教材作成についてより具体的な理解につながったと思われる。

活動計画（３）研究談話会の開催

大学院教育は教員の研究活動が教育の質に直結するため、教員の研究レベルの向上も FD 活動として重要である。高い評価を受けている研究や最先端の技術を取り込んだ研究の紹介は教員にとって大いに参考になり、研究に対する動機付けも高まる。農学研究科では「研究談話会」を企画して、そのような機会を教員や大学院生に提供している。令和 4 年度は「育種研究の視点で種苗会社を考える」（講師：ヴィルモランみかど株式会社　酒井隆子氏）、「清酒中の 5-アミノレブリン酸（ALA）濃度に影響する製造要因」、および「野生生物の持続可能な利用　ワシントン条約におけるアフリカ象・象牙の取引を巡る議論の動向と課題」という 3 演題で講演をしていただいた。農学研究科教員を始め、農学部教員、大学院生、学部生からの参加があり、活発な質疑応答が行われた。

活動計画（４）大学院生の学修・研究環境の実態調査とその改善

大学院生が学修・研究活動に集中できる環境を提供するために、大学 6 号館の大学院生共通学修スペースの利用状況について、前年度に引き続き同様な調査を行った。プリンターやコピー機の利用やロッカーの割振りなど、従来の利用上の問題を実態調査した上で、より良い利用

法を決め、必要な物品購入を進めた。

活動計画（５）学生による授業アンケート「科学英語表現」

今回は授業アンケートを取ることができなかったが、受講生からのコメントを得ることはできた。英語によるプレゼンテーションにおける最低限の手法やマナー、発表資料の作成方法などを修得することができたことが非常に良かったという意見が見られた。また、一人の学生は国際会議で発表する機会があり、大いに役立ったという意見もあった。

＜工学研究科＞

令和 4 年度工学研究科 FD 活動として、大学院生による授業アンケートの実施と授業改善の推進、「専門演習Ⅰ」の実施と効果分析による実践的技術力指導の改善および大学院教育活動の質向上を目的とした 2 回の FD 研修会を計画に沿って実施した。大学院生によるアンケートについては、各科目の授業アンケートを実施したほか、令和 3 年度修了予定者を対象として令和 4 年 3 月に実施したアンケートを分析した。FD 研修会の内容について、実施計画では「数理・データサイエンス・AI 教育実施環境の構築」のみであったが、令和 4 年 11 月 24 日に「オンライン授業支援の利用」の講演が追加された。以下に活動の報告とその成果および課題についてまとめた。

（1） 大学院生による授業アンケートの実施と授業改善の推進

春学期および秋学期において大学院生による授業アンケートを実施した。対象科目は、工学研究科の大学院生が受講している全科目である。アンケートは遠隔で行われ、Microsoft Forms を用いて作成し、全面的に実施した。大学院生には PC やスマートフォンを用いてオンラインで回答を入力してもらい、その回答は匿名性を確保した上で収集した。

各科目の授業アンケートの結果は、授業改善に活用してもらうため、授業担当教員にフィードバックした。さらに、教務担当者会で各科目の結果および全体の集計結果について議論した後、全体の集計結果は工学研究科会で全教員に報告とした。なお、秋学期の集計結果については、令和 5 年度初回の第 1 工学研究科会（令和 5 年 4 月 1 日）で報告する予定である。

この活動の成果として、授業アンケートの実施から評価、公表、改善への活用までの一連のプロセスを実施することができた。アンケートの回答率は、春学期が 55%、秋学期が 44% であった。集計結果から、回答があった授業科目においては特に問題は見出されず、良好であることが確認された。授業外学修時間の項目で、1 回の授業あたりの平均が 3.94 時間と十分な学修時間を取る学生が大半であったことが確認された。

次年度も授業アンケートを実施し、授業の改善活動を継続していく。アンケートの回答率が低かった点を改善すべく、Blackboard での工学研究科全体アナウンスだけでなく各授業担当者に講義内での直接的なアンケートの周知を依頼する、アンケート回答期間を 1～2 週間程度早く実施するなど検討を行う予定である。

（2） 大学院生による修了生アンケートの実施

令和 3 年度修了予定者を対象とし、令和 4 年 3 月に「修了予定者を対象としたアンケート」を匿名により実施した。対象者は修士課程機械工学専攻、電子情報工学専攻、博士後期課程システム科学専攻の修了予定者 8 名であり、そのうち 7 名が回答した（回答率 88%：参考）。これは工学研究科のアセスメント・ポリシーの定める「修了時の学生へのアンケート」に対応するアンケートであり、ディプロマ・ポリシーの評価の役割を担う。アンケート項目は前年度実施のものと基本的には同じであり、工学研究科の人材養成等教育研究に係る目的に照らし合わせて、工学研究科が研究教育活動を通じて育みたい人物像であるか否かを抽出できるように設計をされている。今年度に関しては、回答となる選択肢の並び方を微調整した。集計時に肯定的内容が左側、否定的内容が右側に位置するように全体を統一した点が調整箇所である。

回答結果はまず教務担当者会で検討された。教務担当者会の分析を添えて、令和 4 年度第

1 回第 1 工学研究科会（令和 4 年 4 月 1 日）で報告された。また、第 3 回第 1 工学研究科会（令和 4 年 5 月 26 日）で、アセスメント・ポリシーに基づき令和 3 年度の研究教育活動を点検した結果を報告する際に、このアンケートの基本統計が改めて報告された。

回答内容では､研究指導教員への信頼の高さや今後の生活への意欲の高さをはじめとして、おおむね修了生は満足感をもって玉川から旅立つ様子が、昨年度に引き続いて確認された。注意をすべき点は次の通り：（1）外部や他教員との交流があまりできなかった様子を確認した。学内外の集まりでの対面形式再開の様子からみて、COVID-19 の影響で落ち込んだ分は自然に改善に向かうと考える。（2）「玉川大学が提供する様々な相談窓口をうまく利用できましたか」という問いに対して、回答学生全員が否定的な解答をしていた。この声には対応が必要と判断し、キャリアセンターに相談することになった。その結果、令和 4 年度のガイダンス（令和 4 年 4 月 2 日実施）において、キャリアセンターから直接に学生に対してキャリアセンター利用を呼びかけて頂く時間を設けることにした。（3）入学前に大学院の情報を得るのに何が役に立ったのかを問う項目では、学部生向け就職説明会の場ではほぼ大学院情報を得ていないことがわかった。学部生のうちにキャリアパスとしての大学院の存在を理解してもらうため、様々な場面での学部生への呼びかけを各教員に促している。次年度は、引き続きの実施はもちろんのこと、アンケートの検出精度・検出能力向上を目指しアンケート内容の追加・更新・削除の検討も行う。

（3）「専門演習Ⅰ」の実施と効果分析による実践的技術力指導の改善

工学研究科の必修科目である「専門演習Ⅰ」は、修士課程 1 年生を対象とし、工学研究科の全教員がその内容と評価に関わる科目である。この科目の狙いは、装置の製作等の実際的な課題による工学の基礎的な知識および技術の修得と、「大学院技術発表会」における発表・質疑応答を通した技術者および研究者に必要なコミュニケーション能力の向上である。

技術発表会は令和 4 年 9 月 15 日（木）にオンライン（Zoom）口頭発表の形式で開催された。大学院生の発表が 10 件行われ、参加した教員および他の学生との間で活発な質疑応答が行われた。また、発表に対し Microsoft Forms を利用した投票方式での審査が行われ、教員 9 名、大学院生 17 名、学部生 1 名の計 27 名による投票結果により上位 3 名に大学院技術賞が授与された。科目の実施概要および発表会の審査結果は、工学研究科会で全教員に報告された。

成果としては、前年度から引き続き教員だけでなく博士課程の TA（本年度は 1 名）を活用した実習指導によって、質の高い発表内容が見られ、研究科全体として継続的に大学院生の実践力強化のための教育方法の改善を確認することができた。

次年度も、履修者がより早い時期に具体的なテーマを決め、計画を適切に立案し、課題に取り組めるよう、4 月当初に予定されている新入生ガイダンスで科目に関する説明をし、TA による指導を効果的に取り入れ、内容の充実を検討していく。また、実践的技術力指導の改善案として、Microsoft Forms の投票サイトに教員に対するアンケート項目を追加することを検討する。

（4） 大学院教育活動の質向上を目的としたFD研修会の実施

1) 数理・データサイエンス・AI教育実施環境の構築

・実施日：令和4年6月1日（水）～8月23日（火）

・場所：オンライン（オンデマンド）

・概要

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが開設するWebサイトを訪れ、他大学で実施している数理・データサイエンス・AIに関する教育の実施環境を構築するための動画視聴型の研修を行う。

・到達目標

担当する授業の様々な場面で数理・データサイエンス・AIに関する内容の講義を実施できる環境を整える。

・活動内容

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのサイト「リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材」で紹介されている動画を視聴する動画視聴型の研修を実施した。参加者は研修のテーマの観点から関心のある動画を選択する。受講期間は令和4年6月1日（水）～9月22日（木）とした。研修への参加状況の確認は授業運営課工学部担当の協力のもと UNITAMA のアンケート機能を利用した。

・評価

工学部・工学研究科の教員29名が参加した。参加者の平均視聴動画本数は4.6本だった。 研修終了後のアンケートでは「とても有益であった」が27.6%、「有益であった」が69.0%、「あまり有益でなかった」が3.4%、「まったく有益でなかった」が0%だった。

2) オンライン授業支援の利用

・実施日：令和4年11月24日（木）17：00～17：40

・場所：オンライン（Zoom）

・概要

学生支援センター学修支援課が行っているオンライン授業支援の利用方法と活用事例に関する研修会を行う。

・到達目標

オンライン授業支援を利用した授業方法を共有する。

・活動内容

学修支援課　浅利茂「冒頭あいさつ＆支援の位置づけ」

DTS　井上邦彦「授業支援の利用方法＆具体例について」

工学部　山﨑浩一「活用事例」

工学部　平社和也「活用事例」

・評価

教授会の前に実施され、工学部・工学研究科の教員 39 名が参加した。本研修会を撮影した動画はDTSにより編集され、FD活動を目的として他学部に提供された。また、DTSから提供されたオンライン授業支援に関する教育学部の尾関はゆみ先生

のインタビュー動画を全教員に紹介した。

（5）アセスメント・ポリシーに基づく点検情報の共有

令和 4 年度第 3 回工学研究科会（令和 4 年 5 月 26 日）において令和 3 年度の工学研究科の活動に対する点検結果を報告した。工学研究科のアセスメント・ポリシーでは、研究科としてアセスメントする項目は合計で 15 項目あり、内訳はディプロマ・ポリシーに関連するもの 7 項目、カリキュラム・ポリシーに関連するもの 7 項目、アドミッション・ポリシーに関連するもの 1 項目となっている。令和 2 年度の結果（令和 3 年度第 3 回工学研究科会報告）と比較すると大きな変化はなかったが、ディプロマ・ポリシーに関連する項目の一つである「学位論文授与数」の箇所で、令和 3 年度の論文博士の申請が 2 件あったことは近年では珍しく、本件について報告された。学修成果はおおむね良好な水準にあると思われ、著しく劣るものはないことを確認した。

＜マネジメント研究科＞

（1）コースのカリキュラムや授業改善に関する検証

【報告】

カリキュラムや授業改善に関する検証を行うため、例年、大学院生（本学職員）、教員、人事部スタッフ参加による FD 会を実施している。スクール・マネジメント研究コースの院生は日常業務を遂行しながらの研究活動となるため、多角的な視点での議論が不可欠であり、教員間においても情報共有を密にすることが大切である。近年はコロナ禍により、効果的な議論を行うには難しい状況であったが、本年は対面で実施ができ有効な意見交換が行われた。

FD 会で実際の声を聴いて現状を把握した上で、授業担当教員及び研究指導担当教員間でワークショップを開き、認識の共有及びコースカリキュラムや授業改善に繋げるための意見交換を行った。コースの特性を理解しつつ、適切に指導及び支援していくことが必要となるため貴重な機会となった。

【成果・課題】

FD 会及びワークショップ実施により、以下のような二つの課題を確認した。第一に昨年度と重複するが、出身学部が異なることによる講義科目及び研究指導への影響である。現行では担当教員が柔軟に対応しているが、カリキュラムとしての対応の必要性については引き続き議論が必要である。第二に院生としてはじめて研究活動を本格的に開始していくことになるが、同時に職員としてもはじめて業務を学んでいく状況にあるため、両立のための意識の持ち方が難しいという点である。この課題は、研究科の問題以外も含まれるため、関係部署とも連携し、継続的に取り組んでいきたい。

（2）課題研究セミナーⅠ・Ⅱの指導方法検証

【報告】

今年度は 5 名のスクール・マネジメント研究コースの院生が大学院を修了した。ワークショップにおける指導方法の検証では、今一度起点となる部分の共有の必要性が生じ、マネジメント研究科にスクール・マネジメント研究コースが移設された経緯や課題研究と修士論文の違いなど、ベースとなる背景を含めて議論をした。

【成果・課題】

スクール・マネジメント研究コースにおける特性を設立経緯から把握し、現行の形式までの道のりを教員間で共有することができた。課題研究と修士論文における指導方法の具体的な事項については引き続き議論が必要であるが、議論の土台をつくることができた。（1）で触れたが、対面での議論が可能となってきているため、FD を切っ掛けに認識の共有を図ることとする。

（3）大学院生による授業アンケートの実施

【報告】

春学期及び秋学期終了後に授業に対する記述式アンケートを実施した。回収したアンケートを担当教員へフィードバックし、授業改善に役立ててもらった。

【成果・課題】

全体として、授業に対して不満を感じていることはないことを確認した。（1）の課題とも密接に関係するため、授業アンケートについては次年度も継続して実施し、大学院生からの要望を把握したい。

＜教育学研究科＞

（１）【活動計画】研修会（FD 委員会）の開催

・研究科会後に FD 委員会を 8 回開催。（4/27、5/25、6/29、10/26、11/30、12/21、1/6、2/15）

【成果・課題】

・授業開講期間中、上記の日程で「授業および研究指導体制の改善について」の研修会（FD 委員会）を行うことで授業改善の意識を教員全体で共有することができた。

・気になる学生の情報共有などをして、研究指導体制の見直しや改善を討論することができた。

・大学院 HP のニュースやコラムの内容や執筆者について討論を行い、院生や入学検討者に伝えたいことが伝わるようにできた。

（２）【活動計画】研修会「Lessons from the Pandemic - Tools to support online and blended learning」（講師：教育学研究科 ビーバーフォード，カーティス教授・令和 4 年 7 月 27 日（水））の開催

・オンライン授業で使用しているさまざまな工夫を講義し、実践的に使用できるように学ぶ。これらは対面の授業でも使用可能であり、全教員が実際に使用することができることを紹介する。

【成果・課題】

・教育学研究科の教員が IB 教育や IB 教育におけるオンライン授業の方法への知見を深めることができ、各自の授業に使用できる可能性が高まった。

・使いこなすまでには練習も必要であり、各自で試みることとした。

（３）【活動計画】研修会「教育学研究科　乳幼児教育研究コースの学生ニーズと課題」（講師：若月芳浩教育学研究科長・令和 4 年 9 月 21 日（水））の開催

・乳幼児教育研究コースへの入学者が増加したため、学生のニーズを研究科全教員が把握し、その課題について理解を深める。特に、今年度入学生には、代々幼稚園経営をする学生が多く、乳幼児の学問と研究の変遷を学ぶ。

【成果・課題】

・乳幼児教育研究コースへの入学者が増加したため、学生のニーズを研究科全教員が把握し、その課題について理解を深めることができた。

・幼稚園経営の側面からの乳幼児の学問と研究の変遷を知ることにより、院生の満足度を高めるような授業内容を共有することができた。

（４）【活動計画】調査「M1 対象の入学 1 ヶ月の学修及び生活調査」（期間：令和 4 年 4 月から 5 月）

・研究科に入学して 1 ヶ月経過した頃に、学修への取り組み及び生活状況についてのアンケートを行い、学生の状況を理解する。学修についての意見は授業改善に役立てる。生活についての意見は困っていることの改善を手伝う。

【成果・課題】

・結果は全ての教員に配付し、研究科全体として討論をした。今後の大学院生として

の生活が円滑に進むよう、全体及び個人の意見を抽出し、生活の改善点および授業改善など初期に討論をすることができた。

・院生室の使用状況や学修の取り組みなどを把握し、希望があるものについては迅速に改善を試み、学修環境の改善をすることができた。

（５）【活動計画】研究「授業研究のための相互授業見学（対面とオンライン）と研究会」の開催（期間：令和４年４月～令和５年１月）

・各教員による授業見学を行い、事後、研究会を行う。ほぼ全教員が 1 回の授業見学を実施。

【成果・課題】

・授業参観を行うことでより具体的な形で授業形態を把握でき、それを自らの授業にも取り入れ、授業改善に役立てることができた。

・IB のオンライン授業を録画したものを視聴可能としたことで、多くの教員が実際の授業やツールの使い方を学ぶことができた。

・時間の調整が難しく、実施できない場合が生じたので、早めの取り組みが必要であった。

（６）【活動計画】学期終了後の授業アンケートの実施及び分析

・全開講科目を対象　春学期末、秋学期末の実施及び分析。

【成果・課題】

・集計の結果は全ての教員に配付し、研究科全体として授業改善に取り組み、学生にも必要な部分はフィードバックをした。学生の意見から、全体及び個人の意見を抽出し、授業改善を討論することができた。

・アンケート内容を「授業方法に関する意見・要望」と「大学に関する意見・要望」に分けて分析し、希望があるものについては迅速に改善を試み、学修環境の改善をすることができた。

・授業への要望については、教員間で話し合いを行い、改善につながるよう討議した。

＜教職大学院＞

（１）教職大学院 OBOG フォローアップ研修について

本年度は、新型コロナウイルス感染予防対策（三密、換気、消毒、衝立、3 部屋）をとり、対面と Zoom によるハイブリッド開催で 6 月 25 日（土）、11 月 26 日（土）の 2 回の日程で実施した。

◆令和 4 年 6 月 25 日（土）参加者 51 名（対面 45 名、Zoom6 名）

安藤 正紀教授による研究報告

教職大学院 OBOG による実践報告

報告者：現職 9 期：相場 奨太氏

SM13 期：渡辺 優菊氏

◆令和 4 年 11 月 26 日（土）参加者 62 名（対面 58 名、Zoom4 名）

田原 俊司教授による研究報告

教職大学院 OBOG による実践報告

報告者：SM11 期：藤野 匡祐氏

現職 13 期：森 健司氏

① 成果

6 月 25 日（土）に第 1 回フォローアップ研修を対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド形式で行った。

修了生プレゼンテーションでは、相場 奨太氏と渡辺 優菊氏に近況報告や SM へのアドバイス等をお話しいただいた。

現職 9 期の相場氏からは、「修了後から現在」をテーマに、指導主事として GIGA スクール構想を推進するためにどのようなことを実施してきたのか、学校現場や教育行政の立場での取り組みについてお話しいただいた。

SM13 期の渡辺氏からは、「教育現場で学びを実践に活かす方法」について、学校での特別活動の取り組みなどを紹介していただいた。教師としての大変さと子どもたちと学んでいく楽しさや教師のやりがいについて、コンセンサスゲームを交えながらお話しいただいた。

グループディスカッションでは 7 グループ（対面 6、Zoom1）に分かれ、SM・現職・修了生・教授の立場から様々な意見が出て、活発な意見交換が行われた。

安藤 正紀教授からは、「教育現場で学びを実践に活かす方法」をテーマに、研究報告がなされた。日頃、大学の講義で教えて頂いている支援教育やムーブメント教育の考え方をもとに、子ども園を運営されている様子について報告いただいた。子ども園の子どもたちと笑顔で元気いっぱいに触れ合う安藤先生の姿から理論と実践の往還について学ばせていただいた。

本フォローアップ研修については教職大学院の HP でも紹介している。

https://www.tamagawa.jp/graduate/teaching_pro/voice/detail_20670.html

11 月 26 日（土）に第 2 回フォローアップ研修が対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド形式で行われた。修了生プレゼンテーションでは、藤野 匡祐氏と森 健司氏に近況報告や SM へのアドバイス等をお話しいただいた。

SM11 期の藤野氏からは、「修了から 2 年経って」をテーマに、教員としての働き方や生活指導についての取り組みを紹介いただいた。教室の秩序を保つために児童へ根拠を伝えることの大切さ、一人ひとりが意識できるような学級目標を作ることの重要性などについてお話しいた

だいた。

現職 13 期の森氏からは、「仕事と博士課程の両立」というテーマで、これまでの経歴から博士課程での取り組みなどを紹介いただいた。上海日本人学校での経験や、現在行われている研究での試行錯誤についてお話ししていただいた。

グループディスカッションでは 8 グループ（対面 7、Zoom1）に分かれ、SM・現職・修了生・教授の立場から様々な意見の活発な意見交換が行われた。

田原 俊司教授からは、「教育相談において教職大学院学生に期待すること」をテーマに、研究報告がなされた。教育相談において高度の専門性が必要な背景から、なぜストレスや疲労が精神的諸問題を発生させるのかについて報告いただいた。児童・生徒たちへの教育相談の場面だけでなく、自分自身のストレスとの向き合い方についても知ることができた。

本フォローアップ研修については教職大学院の HP でも紹介している。

https://www.tamagawa.jp/graduate/teaching_pro/voice/detail_21283.html

毎年のフォローアップ研修が、教職大学院 OBOG の学びの継続として、また年次の異なる大学院生のつながりを作る場として機能していることが、本年度も引き続き確認された。近々の課題を交流しあうブレイクアウトルームによるグループディスカッションも好評であった。

教職大学院の教員が毎回発表し、その発表についての意見交換を実施することで、本学の講義の質を高める FD としての効果も引き続きねらっている。

教職大学院 OBOG の実践報告は、現場に出てからの修了生たちが教職大学院での学びをどのように活かしているのか、またどういった点に悩み克服しようとしているのかを、教授陣も知ることができる貴重な場となっている。グループディスカッションにおいても、教職大学院の講義が OBOG たちのその後の仕事にどのように役立っているか、また今後どのような講義が求められているか等を確認することのできる貴重な機会となっている。この場の議論をもとに、各教員も自分たちの講義の内容と方法の改善に努めている。

また、OBOG からのアンケートについては、今年度から Google フォームを利用して意図的に蓄積していく取り組みを開始した。

② 課題

OBOG の参加者がやや少ない点が引き続き課題となっている。今年度から開始した Google ドメインによるメール連絡網や、有用リソースの整備等によって、修了した院生とのつながりが保てる工夫をしていくことが必要である。

（２）FD 授業研究について

5 月 26 日（木）（今井 勉准教授）、11 月 10 日（木）（梅田 比奈子准教授）の 2 回の授業研究を実施した。さらに、3 月 16 日（木）（久保田 善彦教授）に教授陣向けの研修を行った。

◆令和 4 年 5 月 26 日（木）15:00～16:40（担当：今井 勉准教授）

「予算編成と執行計画」

1. 予算とは
2. 国の教育予算
3. 都県の予算

公教育における予算編成は、学校運営を考えるうえで非常に重要な教育を支える視点となる。今回の授業は、様々な資料を基に意見交換を交えながら活発に展開された。授業後は、

教員による事後検討会を実施した。

◆令和 4 年 11 月 10 日（木）15:00～16:40（担当：梅田 比奈子准教授）

「授業デザインの研究と実践（小学校）」

学習指導案をデザインするプロセスを学ぶことは、授業改善を行う上で非常に重要な教育を支える視点となる。今回の授業は、院生が教職専門実習で行った授業実践を基に意見交換を交えながら展開された。授業後は、教員による事後検討会を実施した。

◆令和 5 年 3 月 16 日（木）16:00～16:30（担当：久保田 善彦教授）

「外部資金獲得について」

新しいことを始めるには、資金（調査、旅費、機材等）が必要であるが、個人研究費には限りがある。今回は、「科学研究費助成事業」を例に、独創的・先進的な研究に対する助成を得るための具体的な方法と考え方について研修を行った。

例年通り、協議会においては、①「理論と実践の往還」のための授業づくりや教材開発の具体的な方策について、②SM の実践経験不足を補う指導法について、③現職院生の実践経験を活用した指導法、等々についての議論が一層活発になされた。

① 成果と課題

・教授陣が毎年、授業の研鑽に努めていることが、院生たちに良い印象を与えている。

・対面での授業が実施できて良かった。今後も定期的に継続していく予定である。

・教授陣向けの研修会を行うことで、より充実した研究活動のための一助とすることができた。

（3）教授陣に対する調査について

・FD の一環として、SM や現職院生の学修理解等に関する教員の所感を調査した。調査結果は教職大学院会で公表され、データをもとに議論がなされた。

① 相互授業参観について

・各教員の授業を可能な範囲で相互に自由に参観し、その際の学びや感想等を記録として残すようにした。互いの学びを蓄積することによって次年度へ活かしている。

（4）FD 委員会における情報交換

・毎月の教職大学院会終了後に FD 委員会を開催し、院生に関する諸問題と指導方針、教授間の連携、カリキュラムや組織のあり方について検討している。

① 成果

例年、問題をかかえている院生への教員の対応、学校課題研究の進捗状況やその適切な指導のあり方、院生が学修しやすい環境の構築、課題の出し方についての基本的な考え方の確認等々についての情報交換がなされ、それぞれの場面での方策についてよりよいあり方を検討することができているが、今年は特に大きな問題は見当たらなかった。

② 課題

特に大きな課題はない。今後も定期的に継続していく予定である。

＜脳科学研究科＞

（1） 令和 5 年 2 月 15～16 日に玉川大学脳科学ワークショップを実施した（Human Brain Science Hall）。全大学院生の研究発表に関して、教員全員で評価し、評価結果を確認した上で、今後の研究指導へ反映する内容を確認した。また、同発表内容に関して擬似ピアレビューを開始した。ピアレビューは年度を越えて 5 月中には完了する予定である。

（2）令和 3 年度中（令和 4 年 2 月 21 日）に実施した玉川大学脳科学ワークショップ、および令和 4 年 8 月 12 日に実施した中間発表における大学院生の研究発表を元に擬似ピアレビューを実施した。その結果を全教員で共有し議論した上で、効果的な研究指導のあり方を検討し、今後の研究指導に反映することを確認した。

（3）研究環境整備に関する需要の調査と整備を行った。特に新設した Human Brain Science Hall の大学院生環境の整備を行った上で、今後の環境整備計画にフィードバックした。

（4）履修者が 1～2 名である科目が多いため、匿名性を確保するために、研究科全体に対する研究科評価アンケートを実施した。

Ⅲ　教員研修

新任教員研修会

令和5年度採用の新任教員13名に対し、大学FD委員会の主催により、関係各部の協力・連携のもと研修会を実施した。この研修会は、今年度で21回目の開催となった。

日　　時：令和5年3月13日（月）9:30～16:20
場　　所：大学教育棟 2014　610教室
対　　象：令和5年度採用教員
研修目的：玉川学園の建学精神、玉川大学の教育理念・目的を理解する。
　　専任教員としての業務に必要な知識を得る。
到達目標：玉川学園の建学精神、玉川大学の教育理念・目的を他者に説明することができるようになる。
　　専任教員としての業務を理解し、遂行することができるようになる。

（1）研修プログラム内容

09:30	開始／研修説明	教学部教務課
09:35	新任教員自己紹介	新任教員
09:50	講演「玉川大学の教育理念」	小田 眞幸 高等教育担当理事
10:40	休憩	
10:55	大学教員の勤務について	人事部人事課
11:15	教学事項について	教学部 教務課・学務課・授業運営課
12:00	昼食	
13:00	本学の ICT 教育を活用した教育	学生支援センター 学修支援課
13:40	教学システム（UNITAMA）について	教学部 授業運営課・教務課
14:00	Notes システムと Notes 掲示板の活用	総務部 情報基盤システム課
14:30	休憩	
14:40	学生支援について	渡邊 透 学生支援センター長
15:00	講演「これからの大学教員に必要なこと」	伊従 記章 教学部長
15:50	質疑応答	
16:00	各種事務手続き ①写真撮影（キャンパスカード用） ②契約内容の説明等	教学部 教務課・人事部 人事課
16:20	研修会終了	

【動画視聴】	コンプライアンス方針	監査室
	個人情報保護方針	総務部 総務課
	ハラスメント防止研修	人事部 人事課（顧問弁護士）
【任意研修】	キャンパス・ツアー	3 月 28 日（火）13:00～15:30

（２）配付資料・参考資料

資料	担当
令和 5 年度新任教員研修会＜研修プログラム＞	教学部教務課
令和 5 年度新任教員研修会　名簿	
玉川大学の教育理念	小田　眞幸　高等教育担当理事
大学教員の勤務について Web 勤怠操作ガイド 私学共済制度　新規加入者向けリーフレット WELBOX 会員に関する案内	人事部人事課
学校法人玉川学園組織機構、玉川大学の概要、担当業務等について 学校法人玉川学園組織機構図（令和 5 年 4 月 1 日施行） 教学部の役割（学校法人玉川学園組織事務分掌細則） 教員ハンドブック『学部運営組織』抜粋資料	教学部教務課
ご着任にあたって 研究室・内線番号 各種事務手続きについて	教学部学務課
令和 5 年度　新任教員研修会　教務事項 令和 5 年度　年間授業計画 「授業を通して修得できる力」のコモン・ルーブリック 高等教育機関所属教員対象　4 月 1 日教授会・研究科会	教学部授業運営課
玉川大学の ICT を活用した教育 オンライン授業支援	学生支援センター　学修支援課
教学システム　UNITAMA について －担当授業、教室確認、シラバス、学生ポートフォリオ－ UNITAMA 教員業績について　～目的と操作方法～	教学部　授業運営課・教務課
WebNotes について	総務部　情報基盤システム課
学生支援について	学生支援センター
これからの大学教員に必要なこと	伊従　記章　教学部長

（３）実施の成果

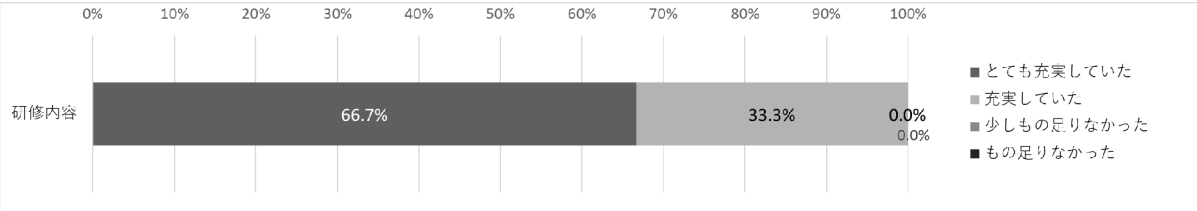
本学における教育について参加者に理解を促すため、2 つの講演「玉川大学の教育理念」、「これからの大学教員に必要なこと」を実施した。これにより、専任教員としての業務に必要な教学事項や学生指導だけではなく、大学で働く教員に期待されていること、本学で求められる教育が何かを伝えることができた。

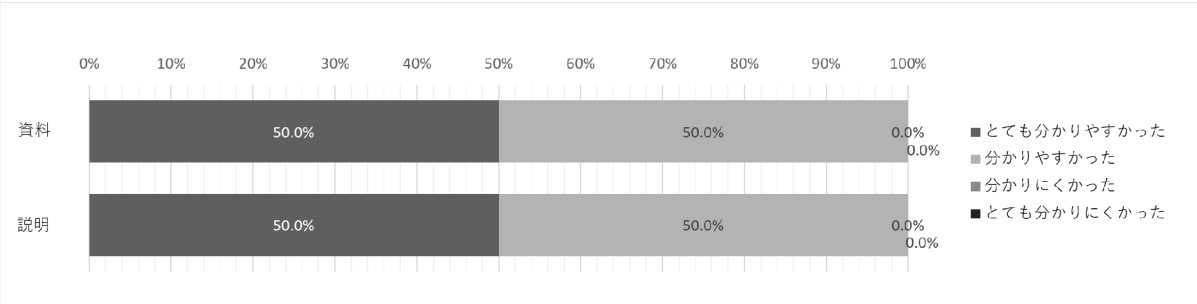
また、大学教員の勤務や教学事項、ICT 等について担当部署より説明し、勤務や業務について採用後に必要となる知識を提供することができた。なお、「玉川学園のコンプライアンス方針について」、「学校法人玉川学園における個人情報保護の取組みについて」、「ハラスメント防止研修」は動画視聴による研修を実施し、教育・研究機関に勤務する教職員としての自覚を促すことができた。

キャンパス・ツアーについては、任意参加の研修であったが、13 名中 5 名の参加があり、約 2 時間半をかけて、大学教育棟 2014 や小原記念館、Sci Tech Farm TN Produce（LED 農園）、Human Brain Science Hall などを巡り、本学の理念や教育に関わる施設への理解を深めた。

受講者から提出された研修受講報告書では、以下のとおり研修内容、資料、説明の肯定回答がいずれも 100%であり、参加者のニーズに沿う充実した内容の研修を実施することができたと考えている。

＜研修受講報告書 ―内容、資料、説明について―＞





「本研修について、受講して良かった点がありましたら、ご記入ください」という受講報告書での質問に対しては、以下の回答があった。

・自身の所属学部だけでなく、他の学部や職員の方など、学内の横のつながりを強化することの重要性を改めて理解することができた。
・各種申請手続きや授業支援システムについてより詳しい情報を得られて良かった。
・玉川大学の教員として期待されていることが明確になってよかった。
・玉川学園の歴史と理念を改めて知る機会となり、大変勉強になった。今後の学生指導

にも活かすことのできる内容で、今回をきっかけに創立者や理事長の著作を今一度読み返してみようと思う。教務関係事項についてもポイントを押さえて概要をご説明いただいたので、新年度以降にどんな構えで臨めばよいか理解できた。「これからの大学教員に求められること」は、具体的な論拠とデータを示しながら講演いただいたので、明快でわかりやすかった。個人として組織として、中長期的に進むべき方向性も考えることができた。

・業務における、とくに事務についての不安が減った。
・玉川学園・玉川大学の理念や方針について、再確認することができた点がよかった。
・すでに大学にいらっしゃる職員の方々、先生方に加え、同時期に着任される他学部・他学科の先生方とも知り合いご挨拶できる機会にもなり、安心感を得ることができた。職員の方々のご対応が大変落ち着いており、有り難く思った。過去の大学のエピソードなども交えていただき、時間軸での理解も深まった。
・卒業生、また、非常勤講師をさせていただいていたが、貴学について改めて知ることのできる良い研修となった。
・玉川大学の特徴と、使用するシステムについてよく理解できた。
・玉川大学の教育理念について、わかりやすく解説いただき、共感した。自分の教育信条と合致する点も多く、学びを深めることができて良かった。
・大学設立の経緯や、全員教育に対する哲学を理解することができた。

受講報告書の回答結果からも本研修会の目的・到達目標は、達成できたと評価できる。次年度に向けて、より本研修会の質が向上するよう改善に努める。

参考資料

参考資料１．大学 FD 委員会の議事内容

第 1 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 4 年 5 月 11 日（水）11：00～12：00
場 所　：　大学教育棟 2014　793 会議室
議 案　：　(1)　年間開催日程に関する件
　　(2)　FD 研修会等計画に関する件
　　(3)　学生による授業アンケートの実施に関する件
報 告　：　(1)　FD 活動計画の提出について
　　(2)　「令和 3 年度　ファカルティ・ディベロップメント活動報告書」の配付について
　　(3)　資料の掲載方法について

第 2 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 4 年 7 月 14 日（木）17：00～18：25
場 所　：　大学研究室棟　B101 会議室
議 案　：　(1)　各学部 FD 研修会等計画に関する件
　　(2)　学生による授業アンケート（特別学期）の実施に関する件
報 告　：　(1)　学生による授業アンケートの期中の集計結果について
　　(2)　学生による授業アンケート（期末）の実施について
　　(3)　大学 FD 研修会「非常勤教員対象研修会」の実施について
　　(4)　大学 FD 研修会「所有権と学校生活」の結果報告について
　　(5)　令和 3 年度　大学教育力研修受講アンケート（今後研修会で取り上げてほしいテーマ）回答について
　　(6)　秋学期授業公開実施に向けてのお願い

第 3 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 4 年 9 月 12 日（月）11：00～12：10
場 所　：　大学教育棟 2014　793 会議室
議 案　：　(1)　春学期授業アンケート結果ならびに授業改善の取組みに関する件
　　(2)　秋学期授業参観計画に関する件
報 告　：　(1)　大学 FD 研修会「非常勤教員対象研修会」の実施報告について
　　(2)　特別学期の授業アンケート結果について
　　(3)　大学 FD 研修会「所有権と学校生活」の質問事項への回答について

第 4 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 4 年 11 月 4 日（金）17：00～17：40
場 所　：　大学教育棟 2014　793 会議室
議 案　：　(1)　授業参観計画に関する件
　　(2)　大学教育力研修実施計画に関する件
報 告　：　(1)　特別学期の授業アンケート結果について
　　(2)　学生による授業アンケート（秋学期）の実施について

第 5 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 5 年 1 月 16 日（月）9：30～10：15
場 所　：　大学教育棟 2014　793 会議室
議 案　：　(1)　大学教育力研修実施計画に関する件
　　(2)　新任教員研修会実施計画に関する件
　　(3)　「学生による授業アンケート」集計結果レポート配付方法の変更に関する件
報 告　：　(1)　学生による授業アンケート（期中）の集計結果について
　　(2)　学生による授業アンケート（特別学期）の実施について
　　(3)　令和 4 年度 ファカルティ・ディベロップメント活動報告書作成スケジュールについて

第 6 回大学 FD 委員会

日 時　：　令和 5 年 3 月 22 日（水）11：00～12：05
場 所　：　大学教育棟 2014　793 会議室
議 案　：　なし
報 告　：　(1)　授業アンケートについて
　　(2)　令和 4 年度 各学部 FD 活動報告について
　　(3)　令和 4 年度 授業参観の実施報告について
　　(4)　令和 4 年度 大学教育力研修（2 月 17 日）実施報告について

参考資料２．大学院 FD 委員会の議事内容

第 1 回大学院 FD 委員会

日 時 ： 令和 4 年 5 月 18 日（水）11：00～11：15
場 所 ： 大学教育棟 2014 793 会議室
議 案 ： (1) 年間会議開催日程に関する件
(2) FD 研修会等計画に関する件
報 告 ： (1) 各研究科FD 活動計画の提出について
(2) 「令和3年度 ファカルティ・ディベロップメント活動報告書」の配付について
(3) 資料の掲載方法について

第 2 回大学院 FD 委員会

日 時 ： 令和 4 年 7 月 12 日（火）17：00～17：25
場 所 ： 大学教育棟 2014　793 会議室
議 案 ： (1) 各研究科 FD 研修会等計画に関する件
報 告 ： (1) 大学FD研修会「非常勤教員対象研修会」の実施について
(2) 大学FD研修会「所有権と学校生活」の結果報告について
(3) 令和3年度　大学教育力研修受講アンケート（今後研修会で取り上げてほしいテーマ）回答について

第 3 回大学院 FD 委員会

日 時 ： 令和 4 年 12 月 8 日（木）17：05～17：30
場 所 ： 大学教育棟 2014　793 会議室
議 案 ： (1) 各研究科 FD 研修会等計画の中間報告に関する件
(2) 大学教育力研修実施計画に関する件
報 告 ： (1) 大学FD研修会「非常勤教員対象研修会」の実施報告について
(2) 令和4年度　ファカルティ・ディベロップメント活動報告書作成スケジュールについて

第 4 回大学院 FD 委員会

日 時 ： 令和 5 年 3 月 23 日（木）11：00～11：30
場 所 ： 大学教育棟 2014　793 会議室
議 案 ： なし
報 告 ： (1) 令和4年度各研究科FD活動報告について
(2) 令和4年度大学教育力研修（2月17日）実施報告について

参考資料３．「授業アンケート」様式

123456789 科目A（教員B）

授業アンケート

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業の状況を確認し、授業の改善に結びつけることを目的として実施するものです。入力にあたっては、この授業を振り返り、責任ある回答をしてください。
なお、このアンケートの回答は匿名化して処理するため、教員が回答から個人を特定することはできません。また、回答内容は授業改善のみに活用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

あなたの意欲や理解について

1. 授業1回に対し授業外の学修（予習、復習、課題など）を何時間しましたか（必須）
○ 4時間以上　○ 3時間～4時間未満　○ 2時間～3時間未満　○ 1時間～2時間未満　○ 1時間未満

2. 学修を進めるにあたり、学期を通じてシラバスを参考にしましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

3. 授業に意欲的に取り組みましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

4. 授業の内容に興味は持てましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

5. 授業の内容を十分に理解できましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

6. シラバスに示されている到達目標が達成できたと思いますか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

7. 総合的にみてこの授業で学士力がつきましたか
＊各授業の学士力（授業を通して修得できる力）はシラバスに記載（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

教員の授業の進め方について

8. 話し方や説明は分かりやすかったですか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

9. 板書やパワーポイントなどは見やすかったですか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

10. 教材（教科書、プリントなど）の使い方は適切でしたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

11. 授業計画（シラバス）に沿って授業が展開されましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

12. 授業時間を有効に使っていましたか（必須）
○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

13. 質問に適切に対応してくれましたか（必須）

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

14. 授業に集中しやすい雰囲気づくりや環境づくりをしていましたか（必須）

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

15. 授業を通して教員の授業や教育に対する熱意は感じられましたか（必須）

○ とてもそう思う　○ そう思う　○ どちらともいえない　○ そう思わない　○ 全くそう思わない

自由記述欄

その他、意見、感想等を記述してください【200字以内】

（授業改善につながる建設的な意見をお願いします。授業と直接関連しない意見や誹謗中傷は控えてください）

アンケートは以上です。最後に右下の「回答」ボタンをクリックしてください。

なお、回答期間中は修正して再提出が可能です。

ご協力ありがとうございました。

回答

※　期中は設問1～7および自由記述のみ実施した。

※　特別学期は学部学科専門科目も全て上記設問で実施した。

参考資料４．玉川大学 FD 委員会規程

（平成 15 年４月１日　制定）
（平成 21 年４月１日　改正）
（平成 31 年４月１日　改正）

（目的）
第１条　玉川大学（以下「本大学」という。）教員の、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、大学ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）（以下「ＦＤ」という。）委員会（以下「本委員会」という。）を置く。
（組織）
第２条　本委員会は、委員長、委員、事務担当をもって構成する。
２　前項の委員長は教学部長とする。
３　委員は、各学部のＦＤ担当があたる。
４　委員等は、毎年度当初、学長がこれを委嘱する。
５　委員長が必要と認めたときは副委員長を置くことができる。
６　本委員会には学部ごとの分科会を設けることができる。
７　前項による分科会のまとめ役及び委員は学部長が選任する。
（任期）
第３条　委員の任期は１か年とする。ただし、再任を妨げない。
（運営）
第４条　本委員会は、委員長が招集・開会し、議長となる。
２　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。
（審議事項）
第５条　本委員会は、次の事項を審議する。
（１）　教育研究活動改善の方策に関する事項
（２）　初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
（３）　学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
（４）　ＦＤに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
（５）　教員のＦＤ活動の指針に関する冊子及びＦＤ活動報告書の刊行
（６）　部会からの報告・審議に関する事項
（７）　その他ＦＤに関連する事項
（分科会）
第６条　各分科会は、ＦＤ担当が取りまとめ、本委員会に検討・実施事項を報告しなければならない。
２　各分科会にはＦＤ活動を円滑に進めるため、ＦＤｅｒ（ファカルティ・ディベロッパー）（以下、「ＦＤｅｒ」）を置く。ＦＤｅｒはＦＤ担当が兼ねることができる。

（答申）
第７条　委員長は、本委員会の審議結果を学長に答申しなければならない。
（実施事項の決定）
第８条　前条の答申内容の実施については、大学部長会の議を経て学長が決定する。
（実施事項の運用）
第９条　前条により決定した実施事項に関する実際的運用に関しては、教務委員会及び教育研究活動等点検調査委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。
（事務主管）
第10条　本委員会に係る事務主管は、教学部が行う。

附　則
この規程は、平成 15 年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、平成 21 年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、平成 31 年４月１日から施行する。

参考資料５．玉川大学大学院 FD 委員会規程

（平成 19 年４月１日　制定）
（平成 29 年４月１日　改正）
（令和４年４月１日　改正）

（目的）
第１条　玉川大学大学院（以下「本大学院」という。）教員の研究教育活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として大学院ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）（以下「ＦＤ」という。）委員会（以下「本委員会」という。）を置く。
（組織）
第２条　本委員会は、委員長、委員、事務担当をもって構成する。
２　前項の委員長は教学部長とする。
３　委員は、各研究科のＦＤ担当があたる。
４　委員は、毎年度当初、学長がこれを委嘱する。
５　委員長が必要と認めたときは副委員長を置くことができる。
６　本委員会には研究科（専門職学位課程は専攻）ごとの分科会を設けることができる。
７　前項による分科会のまとめ役及び委員は研究科長（教職大学院科長含む）が選任する。
（任期）
第３条　委員の任期は１か年とする。ただし、再任を妨げない。
（運営）
第４条　本委員会は、委員長が招集・開会し、議長となる。
２　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。
（審議事項）
第５条　本委員会は、次の事項を審議する。
（１）　教育研究活動改善の方策に関する事項
（２）　初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
（３）　学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
（４）　ＦＤに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
（５）　教員のＦＤ活動の指針に関する冊子及びＦＤ活動報告書の刊行
（６）　分科会からの報告・審議に関する事項
（７）　その他ＦＤに関連する事項
（分科会）
第６条　各分科会は、本委員会に検討・実施事項を報告しなければならない。
（答申）
第７条　委員長は、本委員会の審議結果を学長に答申しなければならない。
（実施事項の決定）

第８条　前条の答申内容の実施については、大学院研究科長会の議を経て学長が決定する。
（実施事項の運用）
第９条　前条により決定した実施事項に関する実際的運用に関しては、研究科会及び教育研究活動等点検調査委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。
（事務主管）
第 10 条　本委員会に係る事務主管は、教学部が行う。

附　則
この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、令和４年４月１日から施行する。

令和 4 年度 ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

玉川大学 大学 FD 委員会・大学院 FD 委員会
令和 5 年 6 月 発行
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1